新和歌類句集十二 第二句 五代集 何

特別
イ 4
3163
22(12)

貴
14
3163
22(12)

新和歌類句集

春

風 恋二
あしいくこうと思ふ行の夏はかりそてしう見てう　藤原為基朝臣

新拾 恋二
水ぬるゝ人のあてどころしかたらいを川ゆくなれてわかれ　武蔵門院匂

新続古 恋二
寄月
あてあるあるしに知あとも恨乃世とこに思ほ　三條公夫卿

新拾 雑上
月
ひてしれ　あれいらけよ光乃ほすを物さしすの初音れ　従二位家隆

風 恋三
ふ秋ほ　あれ見に秋てとさ山仕く一ま水ト天ゆ　進子内親王

新拾 雑下
風 恋三
わてれ　あて秋ほ見人の世ほ世ほ老に山ゆ世　降臣中納言朝臣

同 恋三
かはまれ　あてれほつ年にいれ仕ていとれてとを今歌　永福門院

新拾 雑中
人分ふ　あて見ほ年てあてれ物ほ多い秋み乃ほい秋　徽安門院一条

新千 雑下
多ひく　あてれしてうこ山ほ雲井に見ほ山ほ山ほ　月花門院

見ほて れ　あてまと中人の灯の山ほ人ほ山ほ　原兼泰

風 恋四
新千 雑下
新続古 雑上
日 雑下
新拾 交
風 雑下
新続古 秋上
風 恋五
日 恋二
同 恋五
日 恋四
日 恋三

うさい中てわすれと中山中おもふ人をみ山
わけ路を　あすれとやりふとあのかのをそうさ
れてこそ　あすれやみな年をとうして四年れ
うかて　あすれさ月つ雪とうゆとうこに消てゆ
れのとい　あすれさいて祇とみよりあうう中とて
あさうに　あすれをいとく春ゆたれたれとうてうん
うれとかさ　あすれをはかうとあうかうれゆよ
人をて　あすれをいとうかうにとめて歌うのうれうそて
歌て人を　あすれつをかきよれてようあうやゆ
に移ゆ　あすれケりしてうあてせかうけよてう
わかりて　あすれううて歌かうあ人を今夜れ月とうや
をしへ　あすれをかうふむうひわうてうとうれあと

前大納言実明女
藤原秀茂
民部卿資宣
殷富門院大輔
式子内親王
前参議資隆朝臣
前大納言仲光
永福門院
同
日
行家武士
權大納言兼陰

日 恋一
日 恋三
新後拾 秋上
風 冬中
日 雑下
日 恋三
新後古 哀
風 秋上
日 恋三
新千 雑中
新拾 冬下
風 恋一

らうけふ　あすれをうてあうれ契かうていうあとを
さけうて　あすれけりうてかのあれをあうてい人れとて
うあう　あすれをかうひのにうさけかうあうれあう
いけうて　あすれをかうすいかうあうれとあうあう宮う月さけや
ううに出て　あすれをむうというあうれ水に月れれ時ふれ
うきあれ　あすれううううこれうあうれうきうみけうあ
かれすれ　あすれうとうふ多れ世にあうあうれすれてうあ
てしれて　あすれ秋花さあうれ冬れ仏あ
うれど人　あすれ秋四のうけうとうてうらつうあうあ
あ秋花れ　あすれあれとれいあ月のうかうれうれうれ
祇をみて　あすれあれあむ孝磐山れうれうれうれ
うせ祇て　あすれうてうこうあにあうあうあうこうこ

院所司
院別当
御製
西行法師
藤原頼氏
院一条
三位隆教
伏見院四宮
侯子内親王
井中納言定家
道阿
権大納言公蔭

曰 恋五
あきられ　あくがれ人の来てそうわひみ時にこそ　西園寺実氏院
新千 恋三
いなびかず　あてなれ浦よりなびきたる白をわすれぬ　従二位為世卿
曰 雑上
花ゆゑに　あてなりもとより品さだめ　為世卿
新続古 恋三
たのみそて　あてこそ世をくしていまつ人の名をとはさん　中宮大夫 正安四年
曰 誹諧
こゝろめや　あてそなれまこゝろ浅ひとぬくにはいはしと　宗祇居
風 恋三
あひと世に　あてすまわれなふやさはとあり身にあるこゝろ　従三位頼政
新続古 友
いとこゝろ　あ乃市人のくらしにつとてうる名ゆゑ雲　民部卿為明
風 旅
あまこゝろ　あ(ま)の海山れ多あるま旅衣たゝれ　後人不知
新千 雑上
月れいろ　あこはとてれ心にけれいとわるやけさこゝろのあり　法華寺敦
曰 恋三
水くされ　あこゝ身せあ中門よいろまてこゝろもむあ　持大納言実文
新続古 哀
こゝ年心　あこゝむしにこゝとこゝあたこゝいこゝろあこゝさ　前大僧正実運
風 外
こゝろ石　あこゝ世こゝにこゝりあこゝて世代こゝ代こゝのこゝ　中院祐植

新続古 雑中
とこゝ心　あこゝ昔とこゝてこゝれいあ見こゝ物に生れこゝ　前左兵衛督教定
新千 雑上
こゝ花乃　あこゝ雲しのこゝろこゝけこゝ見こゝ花こゝこゝ　原宗氏
新続古 雑下
いま一乃　あこゝにをこゝあ多こゝ花こゝ老こゝ桜こゝこゝこゝ　柳原資定
風 雑上
こゝこし　あこゝにのこゝて浦千鳥あこゝひこゝあこゝ袖こゝこゝ　前中納言有忠
新千 雑中
多こゝの　あこゝにこゝれこゝて変人行乃世にこゝて見あ袖こゝ　藤原為清
新続古 恋二
こゝ人　あこゝにこゝて変こゝこゝこゝ恋人　従三位為氏
曰 雑中
こゝこゝ　あこゝ四こゝ多こゝのこゝこゝあこゝこゝこゝ三人こゝ　芳賀雅朝
新千 哀
こゝりこゝ　あこゝ霜こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ　法皇御製
新続古 哀
代こゝ　あこゝいのこゝ世こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ　權大納言時光
曰 天
あこゝむこゝ　あこゝいこゝこゝ世こゝこゝこゝこゝ水こゝこゝこゝ　入乃上京記
新千 賀
花こゝ乃　あこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ　前中納言定家
曰 冬
いま一乃　あこゝを多こゝ祝こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ　大納言經信

曰 新中 名とりけ
曰 非 ゆかしき
曰 新中 ちりぬれ
曰 新拾 非 れりしき
新拾 ひとくだ
非 なさまを
曰 非下 ちりぬ
新千 非上 ありに
曰 非上 うちわた
新千 雜上 ふしに
新後拾 冬 ちりぬ
新拾 雜中 いふ
新後拾 恋五 ちひこ

あとをたて
あとをつ
あとをつ
あとをつ
あとをつ
あとをつ
あとをつ
あとをつ
あとをつ
あとをつ
あとをつ
あとをつ

ゆかしき
ちりぬ
ちりぬ
ちりぬ
ちりぬ
ちりぬ
ちりぬ
ちりぬ
ちりぬ
ちりぬ
ちりぬ
ちりぬ

ちりぬ

日 雜部
詞千 雜上
日 冬
日 冬
詞於 雜上
詞千 恋中
詞於 雜上
詞陵古 賀
詞拾 恋三
詞千 恋中
詞於 恋一
風 冬

いまはなれ　あとはなりはてぬらんたらちねもやはこんこそ　小椒逸志
ふるさと　あるたいふのぶんりかく雪ふりはてしのちのはる　前大納言為氏卿
ふるさとの人の　あとさびてふるとしのくれ　花の雪　原宗氏
いまはなれ　あとはるかなる島いそのうらなみ　波の花　前大納言為兼
あとなれぬ　あとしなれてふるとしのくれ　花の雪　前大納言為兼
あとみしを　あとはいむらさきのはてなる雪　前後三位為子
あとしみえ　あとしなれいつるとしのくれ　雪　津守国夏
あとはなし　あとはなるいはのゆくへのあとの　竹林院前左大臣
あとなれも　あとはるかなる文殿のやはらぎ　權中納言経賢
あとなれば　あとはるかなきあとをとはんと　宣政門院
あとはなし　あとはるかなる門もとだにたてられこと　大宮内隆博
あとはなし　あとはるかなるこしのうらかぜ　前深草院

詞陵古 恋二
日 恋二
詞千 雜上
詞陵古 恋二
風 雜下
詞於 冬
詞於 雜下
詞陵古 恋下
日 秋上
日 雜中
日 雜上
詞千 雜中

たなすゑ　ありどころ行つゑをとてこのむとはやはらぎ人　平師氏
たなすゑに　ありどころたまはるとはなるこのさ　前大納言經継
わすれ浦と　あるとこそ千ちよのあるこのさ　大宮二条殿
いにしへの　あるやすやのあるこのあるこの　後飛鳥院少將内侍
ひとりぬる　ありけるあるこのあるこの　前中納言為相
君たまも　ありていとそのあるこのあるこの　隆信朝臣
あるこの　ありていにしへのあるこのあるこの　前大納言為氏
ありてはて　ありてはてしてあたるあるこのあるこの　深草院
ありて世に　ありて世にもむらさきのあるこの月　前大宮二条寺
ありてなき　ありてなき世とたりもとうらさきのあるこの　武子内親王
ありてなく　ありてなくしにあるこのあるこの　前大納言為季
ありてやし　ありてやしとわとまわけとあるこの月　前大納言為氏

風雅上　新拾遺下　日吉下　風雅下　新拾遺　風雅上　新後拾遺　風雅上　日吉下　新後拾遺　新拾遺上　新拾遺下　新千載

いにしへ世ゝ　ありてわすれぬ身はとゝまれるしらくも　安家門院四条
雲月の　ありのまに雲さこそかりの夜をとてはる桜花　後人不知
ふるさと　ありのまの雲をみるにつけて山の花の所思　後嵯峨院御製
山のとも　ありのまの雲をあつめてしかやうきもあるかな　選子内親王
なにやとて　ありのまの雲をはらはしてはるの月のかゝる　後二位殿
ゆかむ　ありのまの雲の一時にはらしてはるの月のおもかげ　丹後忠宗朝臣
雲月の　ありのまの月いてしにはるの高き人の新しき　梶原仲朝臣
雲さらく　ありのまの月いにしへ今はるかに木ゝの松のゆふ風　俊子内親王
雲さらぬ　ありのまの月に雲をみて春のなごりをあつめ　宣光門院新後拾遺
雲月の　ありのまの月ゆかしきはるの雲にあつまる　藤原雅親
あたらよ　ありのまの月ゆかしきはるの雲にあつまる衣　前大納言定資
却いてし　ありのまの月ゆかしきはるの雲にあつまる　權中納言公雄

新拾遺　新拾遺上　新千載　風雅　新後拾遺　新千載上　日吉中　日吉上

雲月の　ありのまの月ゆかしきはるの雲にあつまる時雨にぬれて　前大納言実教
ぬれて　ありのまの月ゆかしきはるの雲にあつまる時雨にぬれて　後京極摂政前太政大臣
月の　ありのまの月ゆかしきはるの雲にあつまる時雨にぬれて　安嘉門院四条
雲に　ありのまの月ゆかしきはるの雲にあつまる時雨にぬれて　後人
雲月の　ありのまの月ゆかしきはるの雲にあつまる時雨にぬれて　前右大臣
雲の花　ありのまの月ゆかしきはるの雲にあつまる時雨にぬれて　後嵯峨院御製
雲の　ありのまの月ゆかしきはるの雲にあつまる時雨にぬれて　後二位殿
雲月の　ありのまの月ゆかしきはるの雲にあつまる時雨にぬれて　前大納言為兼
今ぞ　ありのまの月ゆかしきはるの雲にあつまる時雨にぬれて　權中納言公雄
雲の　ありのまの月ゆかしきはるの雲にあつまる時雨にぬれて　光俊朝臣
いにしへ　ありのまの月ゆかしきはるの雲にあつまる時雨にぬれて　前右大臣
雲月の　ありのまの月ゆかしきはるの雲にあつまる時雨にぬれて　万秋門院

新陵吾 亟中
新拾 兼上
新千 兼中
新拾 兼去
風 兼下
新拾 兼上
新千 矢
日 姑上
新陵吾 兼中
新千 亟三
新陵吾 亟中
新陵吾 衣

通ひし　いふまで　あるて人　や西ゆれ　うしなう　ケ井山　ちとなく　ちてう　ゆれとの　ちきれ　いたそれ　たす世に

あるしうを浪て今ゆ春ゆてとれてるさ　あり三世をすさう人仁葉尺ちもさそれ的　あるれを四ふ的れつさ仁多うひも的に世い　あるにすせくてくしけくられ十四乃さ的　あるふすも世ゆ秋的ようまてもすつさ世的れ　あるに四てする左的れと今一ゆを四ちうケ　あるちてあ仁ちてを中とこりてや結仁的　あるれ姑ふねとおき吹れ乃者に的てい　あるさ四とこ的ゆ今い的れを仁四ゆ井ゆ　あるきゆ的いたそれに人ようひ中ケ的　ゆるとちひとれ乃者を仁人に人の定　あるとみるたす春ゆ春に春とそりあ人の的ゆ

同院摂政 兼左大臣
藤川右大臣
兼大納言 乃定
前内大臣 兼
坂本大納言 乃定
坂上是則
近衛府製
平仲氏
兼子内親王
紀之國
卜部兼直

新拾 兼下
新千 新中
日 兼下
新拾 兼下
風 兼下
新陵吾 亟二
風 亟二
新拾 亟三
日 亟三
風 亟五
新拾 兼下
新拾 姑下

ふふうう　名仁付く　を世を　ちし友い　いたそれ　いたそれ　いたそれ　いはれ　たそた　く千星

あるうあるあ世ゆ世とみるう老仁仁ケ　あるひてれ和ケれ浦小寺ゆ老乃仁仁ケ　あるひてあきいたら四仁霜とい的ゆ仁的ゆ　あるいたそれるとていうゆ仁人　あるいくあきなあ世に老の春仁的ゆ乃人　ゆる世に春四中あい秋ゆ〇といくれこし　ある世と作しうりあるらうきりまとあれむるなさ　ある世とうあ的にあてさけるやうこれとれ葉に人　ある世て三次ゆそとれ的春とれ的ゆまて仁　ある世とくゆ仁人仁てよゆれ的れ的ゆ仁仁ゆ　ある人いふ老くれ的れわほいまてたの的　ゆる左ふれゆ姑ふに雲乃仁春と寺れ的ゆ

信寶親王
兼大納言 乃氏
桜宴使源的
右京大夫 ゆ仁
右京俊秀
權中納言 乃重
權大納言 資的
後光厳院 製
源頼光朝臣
伏見院宸
清原昌春
坂上是則

新続古 雑中
ぬけとれ
ある人いかなる行むと人数のつねたるそらに世 惟宗行忠
新千 春
ことそて
あるしらるおきゆもの家のひろれと初めて 高階宗業
新拾遺 雑春
夏山乃
あと葉にまとひて花やまにとくるこそ人 平時氏
新千 夏
時をそて
あと葉にまとひ分とを惜きこすえにとまるつらん 院御製
新拾 夏
夏あさき
あと葉れ山の初うけ花すふてまを知 従二位為子
風 夏
ふるとり
あと葉れ山の羽あけにゆるしのさ為を遠 権大納言 公宣
新拾 雑中
色を分
あと初の葉のうけむしろうつるあ人ふるみき 隆親卿 家季
風 雑上
せてて
あるえをれらちをやむしれ中の梅え 従大僧正 能雲
新拾 春下
花少へ
あるとれいかひきを人思をて仕とうるらか 四条門院 丹波
新千 春三
うれくれ
あるとれてきく初て変式名ものとをすき 権中納言 雅
新拾 冬上
あるとれ
あるとれるうにいまを人ことをみちを 内大臣
新千 恋三
かいにき
あるとれ乃あ月しうる名ものてうあと 後法大寺 左大臣

風 夏
ほとゝぎす
あるあ名ものとをあるとうるかて元にをいてをわ 前参議 為家
新千 冬上
月とをて
あるあるなのをれなるさとをこに人やうらん 武部卿知者 親
新続古 夏
うけいをと
あるあ四のひとをこれ接てをうるこ京れ 従二位行家
風 春中
さて花
あるあ四のわやをにみををかうみを初れ 物部公使 資康
新拾 夏
むををてれ
あるあ花てをけみをていれ出にをふうる作 中宮内侍 為信
新続古 雑中
わるの心
あるとれをのをまうをみをるあけとあるを 前大納言 為氏
日 羇
多い人れ
あるあ月いをを実れ戸いをれ初らやあけうむ人 従大僧正 為氏
風 雑中
時をや
あるあ月らををりぬるをれるをれ定を三 左近中将 忠季
新拾 夏
あるれ夜れ
あるあ月とをを月をけ初てをれをの夜にむ人 前大僧正 隆弁
新千 恋上
初れ夜乃
あるあ月をれ月をれいをとをを心をたりひが為 源信明朝臣
風 雑中
あるをや
あるあ月をけて時鳥れをとをうるををせをれ夜む 伏見院御
新拾 恋三
鳥れ初乃
あるあ月らををりき者せをあ人のををれ定 順徳院御製

日 桜
非 如
新陵吾 離
新千 尺
新陵吾 新上
風 文
新陵吾 文
日 矢
日 如下
新陵吾 如下
新於 去下
新於 新如

いとけなくて　ある月かなの多ひとりてゝ　花中納言
風ふむこと　ある月ゆく秋をとまたかきむしる　源兼俊朝臣
ゆへ中重　ある月とあれとれ多きてしを　新千載
角はなむ　あるかの乃ゆのそこすてゝ　二条院讃岐
やしく丹　あてゝ別しを名ゆまてゝこちゝ人のゝ　法印定雅
ほゝこゝ　あてゝこゝ名ゆとゝ月のこてゝゆゝ　後三位頼政
ほゝこゝ　あてゝこゝ名ゆとゝ月のこてゝゆゝ　後三位頼政
ほゝこゝ　あてゝこゝ名ゆとゝ月のこてゝゆゝ　後三条院
月ケ木　あれ浦をこきわゝ人なゝ鳥こてゝゆゝ　前中納言定家
り日大れ　あれ鳥の交角ゆゝとゝ姿ゝ夕こゝ　前中納言定家
君おとゝ　あゝすかゝ人とれゝ人ゝ乃ゝ寄ゝ　後鳥羽院
一ゝとゝ　あゝ次ゝゝ桜花こゝすゝとゝ名ゝ　内大臣
ゝゝゝゝ　あゝしゝゝてゝ月とゝ月ゝゝゝゝ　花山院

新於 文
風 去中
日 去
新於 非
新陵吾 非
日 物名
日 衰
新於 衰
日 去下
風 新中
新於 新去
新陵吾 尺

日とゝ角に　あゝ次ゝゝゝて神ゝ人ゝ乃ゝゝゝ　貫之
ゝゝこゝ　あゝ次ゝゝゝ桜花をとゝゝゝゝ　菅原家隆
ゝゝゝゝ　あゝ次ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　大納言公重
神ゝゝゝ　あゝ次ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　基木田道香
神ゝゝ　あゝ次ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　祝部成久
ゝゝ花を　あゝすゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　後頼朝臣
ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　西行法師
ゝゝゝゝ　あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　中務卿宗尊
ゝゝ貫乃ゝ　あゝたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　貫之
ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　桂中納言後実
ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　菅原家行
神ゝゝゝ　あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　後宇多院

新拾 恋三
新拾 雑下
新千 羇下
新続古 雑下
風
恋三
新拾 恋五
新続古 恋四
新千 友
風 雑上
新拾 哀
新続古 恋三
日
友

いそのかみ
ふるの山
あさみどり
あさみどりいろ
あさみどりいろ
あさみどりいろ

新後古 恵二
新千 新十
新後古 姫上
新千 新上
風 矢
新千 尺
風 新中
新後古 秋上
新千 羇
日 矢
日 新中
新後古 賀

ゆ〜て　あまてを物しなもゆゆ方と逢ふんまてと須ふる　姫後三位為子
しれゆ〜　あまてあるふのゆひふ今に我ゆにやしふ三重　従大納言良冬
ゆるさと〜　はれ年〜遠れあらふゆひふてあふ手時　權少司院師
はるさに　はれ年〜中のひま三行とうむてうれ神を姫　源重之女
ゆふふ　はれ行れ風れ四とくて歩あふき宮ふ春しを　伏見院新宰相
わふふ　あまれを四ふ春弱にれふ乃とふ〜ゆあふ松を　入道二品親王香川
ふふと　あまふ四ふれふれ心君ふゆふて我道　二品親王寛香
ゆふふや　はまれ在れあふふ京ゆ四ふて多れふ久　伏見院新宰
石ゆまあ　あふふ乃ふ〜に行れく尺ふれさふに今やん心　蓮生法師
君代ま　あれむふわれふ〜ゆあふ家ふ乃我と目ふ　従大臣道忠
ふくま　はれむふ乃ふ移ふれ我代れひふ心ふ　後鳳院御宰相
和平礼博　あれめてみくむやこれふふあふ代をひふを民ふ乃ゆ

新千 新中
日 秋下
新後古 新上
日 新上
新後古 羇
新後古 恵中
風 新中
新千 新中
日 恵二
風 恵五
新後古 新中
新後古 非

いゆふふ　あれふ乃ふ乃ふ〜に方とて〜後（きひふあと　従大納言為冬
ゆきふゆ　はゆれ風ま雲れ仏く方をれと行ふゆれ月　皇太后宮大夫俊成
ふ〜れの　あいふ〜てれふ乃後ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ　為冬卿
ふれま　はふいふ乃ふ〜ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ　従三位為健
ふりは　あふいを後れ幸ま乃ふ張ふ神ふ乃ふ　大江貞重
はいふ　はふいを後乃ふを乃ふ乃ふれてふあひふむふふ　衣笠内大臣
ふふふ　はふいふ後乃記れれや京ひれふふれふふ　院参議雅
年ふ後　はれを世ふいふかふれく後ゆふふ三乃非の返　三位隆教
むの世に　あふを世ふひふの第やふれ年ふ命ふ人　権中納言定方
なふて　はれを乃の心命ひふふひふふ乃ふあふを時　従中納言雅孝
ふふの　あふを行心ふを後ふを乃ふを乃ふ乃ふ乃ふ　梅宮使之敏
ふふ　あれを思ふてふふひふて四ふを乃ふ乃ふ乃ふ　雅永朝臣

新拾遺 新上
新千 恋二
風 新下
新続古 哀
新拾 新上
新後拾 新哀
新続古 恋一
新千 恋一
新続古 恋五
新拾 恋五
新千 哀
風 哀下

ゆくえいそ心さとたりひろしとまみうらの
あまやさこむ恋ゝ人後にあるれ人乃ゝ
ゆくしまやそしまひのうらけさ月乃花ちれ春
ゆくえ京なれ月日ゝ人乃面影れこうらけう
あめ神さ人ゝ京ゝまとり山風れ姿ゆ雪れ
草木ゝ
ゆくなれしちうひてやゝ世にあまり宵乃月
ゆくのくさすしゝ行きて神ゝ月ゝとみ人ゝ
あめ中ひとゝ人ゝ乃ゝ今ゝ世ゝふゝひ乃ゝ月れ
ゆくこれ世ゝ正ゝ心月や昔れ神のあみて原
あめ物ゝうゝ心ゝ月れとゝりゝ物ひゝ子ゝ山や
あめをゝれ行ゝ見ゝとゝみけゝてゝとゝ人
ゆくゝ乃ゝ水ゝゝまゝれゝゝゝ

日冬 風雅下 日 新拾冬 新隠吾雅 風雅中 新子 新上 新拾冬 日春立 新千秋下 新拾冬 新千冬

吹ふく風に散て雪にこかるる梅の花
はるかさてうりれてのこりたつ
春に神とうとうて飛ぶのあひて
ら山乃あるこの
いはせい
吹ふく毎
さえ氏
白雲は
くらも
白人の
心ふる

侍従宰相 昭訓門院 権大納言 参議左兵衛督 九條右大臣 伏見院 平貞時 後宇多院 藤原雅章 中務卿宮 冷泉為相 藤原為氏 中納言

新拾上 新続古冬 新拾冬 新千恋二 風上 日冬 日新下 日冬 日春下 新千冬 日冬 新拾羇

松にの
吹ふる
吹とふ
吹ふる
白雪し
吹ふる
らて祝
白雪ひて
春雪の
ふる
白雪ふ
いて
松ふ移

あしれ中とうけて時雨にうつる月とて
はれとふれとも白雪ふりに
はしれ空乃ふさ雲に時雨とふて
あしの乃元れふき雲れゆきあ上てあき
はしれて月ふ雪にふすふるも
あしれて月の二とにすいきえ
はふれふ乃橋花ふやこれ
あふれ橋の多時雨ふ
あしの乃ふれ白て花ふ
はしれふの白雪ふ
はふふの山乃白雪ふ
はしれまて夏白して

保宇氏 出雲法師 前大納言為定 後伏見院 前大納言為兼 前中納言定冬 永陽門院 左京大夫 藤原為春 中納言祐家 同信明 伏見院

日 秋下
吹くるぬ
はしれまくにはたれくれなゐの月の影
為道朝臣

日 冬
吹くるる
はしりしまれくき雲やそてやまゝ時雨ふる
中納言為房

風 恋下
きてゝや
あるまれまゝ吹くせて君待の苦に花をれこれ
進子内親王

新千 恋下
雪とをと
あるまれまゝ日をくれて雲にまつるねむとて
前大納言 俊定

新後拾 冬
四さをの
はるまれまゝのくさ雲やとやまをけて花をる
源満祐

新拾 恋下
ふくいゆく
はしのまし吹四ふいまれて吹き花をれて雪
開白前太政大臣

日 恋下
られ心
はるゝや花をわるゝむまれまゝにゆる恋をの月
惟明親王

新千 恋下
恋れ花れ
はしやをにゆむしゆ恋れゆる月をれけれ
民部卿為

新拾 冬
春たてし
はしやはれゆるゝむ四ゆ浪こけゆる三笠をれ今浦
權大納言 宣時

新千 恋上
四をくゝ
はしまゝゝて非を月四ゆ恋れ恋乃四ゆ成ば
平師親

風 恋中
きてにを人
あるしぬけとをれ須よ方をれてれ四れ恋まゆ
西園寺前内大臣 公衡

新後拾 冬
春はゝ
あるし吹ゝ小雪の恋にゝゝ四ゆ恋ゝ四ゆ恋ゝ
従大納言 安嗣

新千 冬上
吹くるぬ
はしれ月ゝまくれをれ村雲れ定
伏見院御製

風 非
あるぬくゝ
あるゝ人非の恋あるを恋ゝ世にゝゝ君はゆ恋ゝ
高階師直

新拾 非
はるゝ
はるゝ人非れ恋ゝあるゝ代ゝゝ四ゆ
内大臣

新後拾 非
四ゆ
あるゝ人非ゝ恋ゝ昔れ恋の恋ゝ乃あゝ
入道二品親王 永鶴

新拾 非
あるれゝや
はるゝ人非ゝ恋ゝれ四ゆ恋れ恋ゝ寺ゝ四ゆ
三条入道前太政大臣

風 非下
ゝゝゝ
はゝ恋ゝ四ゆ世ゝ四ゆ恋ゝ恋ゝ恋ゝ
金性法師

新中 恋
人ゝすに
あるゝ恋ゝあるゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ
法橋乳昭

日 恋上
冥乃れ
はるゝ恋ゝ恋ゝ月乃恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ
関白前太政大臣

新拾 非上
夫れれの
あるゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ
後二条前関白太政大臣

風 恋
はゝ
あるゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ
贈ゝ

新拾 恋上
てれ戸の
あるゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ
法皇御製

風 冬
ゝ秋の恋に
あるゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ恋ゝ月を恋ゝ恋ゝ
後伏見院 行平

新拾遺 恋四 新千載 恋四 日 恋 新拾遺 恋四 新千載 恋上 日 恋 新拾遺 雑秋 新千載 雑上 風 雑上

初恋して
はるるまつさへ手枕まくらくるいとなく
とれたての
あらはまてこやこまつむ雪のうさ夜のあさけ
天れたれ
あらはしてこて別らとなく鳥れ者にうらぬ
うらうら
あくれやすくなくれ雪ふるうら月れ三人（月
うの乃れ
あくるの涙れわとれ見ぬ人まてしぬ
香とたれ
あくとしさ物花いたせとうれるむ
あつまく神にせうとうてれ名をうやうれ
いうれて
あやまく神の三月ふ乃れ
ととこの
あやたくくんとうてをしたくふうあ
こうれ
あつくれ乃うれこほりれむ乃世とる
雪ふれて
あやまくれと物花ふれ
あやうまく（きなるうれてうれの

花山院御製
崇賢門院
基大納言俊
左京元方
原行義朝臣
清原元輔
俊三位谷子

俊二位隆博
二条院讃岐
道二条院
英四
俊二位
二条院讃岐
兼賞

新拾遺 雑秋 長 風 雑下 新拾遺 雑秋 文 日 文 風 恋一 新拾遺 恋五 新拾遺 恋五 風 秋中 新千載 恋一 風 恋二 新拾遺 長 風 雑上

あつまれ
あつまれ
きふい
ひさむ
今羽
松
さて
らむ
りて
れ
あ
あ
あ

新続古 新中
はれをそやと
ひかりや
新千 夏冬
せうらうて
日 夏一
せりたい
風 新中
さてこれ
日 賀
草四て
新拾 春
如乃花て
新拾 羇
さてひし
日 新上
ひ色てゐ
風 拾中
ちてみる
日 夏
如雪を
新続古 新上
神人以
新拾 冬

あ四りてこゝ世ゝ川れ光にて氷れて玉
あ四りけさなる契を重て四て百れ
あ四る波乃れ雪に
あ四て秋のもとに
あ四ら色れてこゝ
あ四て多い秋とうて
あ四さひ秋の雪花
あ四され光れて
あ四てはてさらこゝて月れ下乃花い花
あ四され
あ四りとゆゝる
あ四りとゆゝる
あ四りとゆゝる
あ四りとゆゝる

従二位為子
井泉詠為安
久良親王
徽安門院
後深草院少将内侍
源頼康
為道羽院
詠人不
伏見院御
日
宗全法師
後堀河院御製

新千 如上
風
夏三
日
新続古 冬
賀 日
風
尺
日 新中
新千 如上
風
冬
新千 如上
風
外
新続古 如上

色乃ら
夏ゝら
冬ゝら
雪れ人
ゝて三れ
はる乃色て
ゝ色に
如乃色に
ゝてゝら
ゝ色
ゝ色
ゝ色
ゝ色
ゝ色

あ四ゝ雪井乃花ゝの月、ゝ乃の行やゝ
あ四ゝゝ色てゝら四ゝ四ゝ四ゝ方けゝ
あ四ゝ日ゝれ秋ゝ月れゝゝ光ゝ人
あ四ゝひ光ゝゝゝゝゝれ神にゝ
あ四ゝけてゝてゝゝ花れ
あ四ゝゝゝれとゝふ年ゝ
あ四ゝゝかゝ雪れ四ゝゝ四ゝゝふ色ゝ
あ四ゝ秋ゝ月れ
あ四ゝ花ゝ世ゝ
あ四ゝ色れ
あ四ゝ色れ
あ四ゝ色れ
あ四ゝ色れ
あ四ゝ色れ

作妃為親
權大納言 資安
入道二品親王 円
井中納言 宗重
井中納言 安任
法成寺入道 井関白太政大臣
井大納言 為兼
北宇多院 御製
皇太后宮大夫 後成
左京大夫 雅
賀茂為久
為家雅羽 御

新拾
巻二
曰
新ね

新千
巻一

新続古
巻二

新千
姫上

新続古
新上

新拾
新毛

新拾
姫上

新千
巻三

曰
巻一

新続古
姫上

曰
巻一

かうしてく　あまのじわうわはかりはかまをぬいたる人　基俊
はるはなく　わまのとまやれあくはらあけさ三月ちかさ三月の前　入道二品親王性助
ミうくゝや　わはのうじまやれ夕ゝ月多名に神れ有り故　前大納言宗房
ものとられ　わまのやまとうの人（せよ）をうの中れいをれ三ぬ地　栄西僧正入道
わけゆき　わまの川浪之ゝ月後のわゝをやをれちうん　前太政大臣
ゆきて又　わはの川浪多ちゝりみはとれよ持ゝしは　参議家量
やとるる　わまれ川原やうかゝはゝ（ゝ）とれ（れ）けるりせ　東宮四位
久りとの　わはの川番ゝ月はやゝ七夜めのまゝるゝ　船恒
伊勢れあれ　わまの多ゝ多ゝ数ゝ三ゝ月ゝ数ゝ　道政法師
りしやく　わはれ多ゝれれ下ゝにのゝりゝ数ゝ　藤原為兼
ゆけよゝう　わまの多ゝれゝ月ゝ（ゝ）れ三ゝやの数ゝの月家　今上御製
おゝひて　わはの多ゝもれ下ゝりてゝまゝれ夜ゝ数ゝ月　為兼法師

新千
巻一

新拾
新中

新続古
冬

曰
雑上

新拾
巻冬

曰
巻二

新千
巻一

新続古
新上

新拾
巻五

新拾
巻一

新続古
新

曰
巻下

いせれはの　わまの行方ゝ三ゝ月ゝ多ゝ三ゝ人ゝ水　入道前太政大臣
あくれまり　わまりまてゝゝとはゝ月ゝりてゝとゝはゝ世　平泰時朝臣
三月多ゝ　わまの多ゝりてゝ鳥ゝ移ゝ四ゝ神ゝ世　源人兼
ぬまてなし　わはれゝ月ゝものゝゝ月ゝ数ゝ月　權中納言雅世
ものはを　わまのりてゝゝこれ業ゝ月　前中納言定家
ようのあれ　わはの三月ゝゝ月ゝ四ゝ月ゝゝ月ゝ　右兵衛督
三ゝせゝや　わまの三ゝ月ゝ月ゝ月ゝ三ゝ月ゝ　紀行春
まゝゝい　わはのもゝ月の姫ゝてゝ月ゝれ名ゝ三ゝ　従三位雅家
ゝてゝ又　わまのゝゝ心ゝて四月ゝ三ゝ人ゝゝゝ月ゝ　前大納言為世
ゝし祈ゝ　わはのゝゝゝゝ大ゝ月ゝゝれ姫ゝゝ月ゝ人ゝ　前大納言為方
りかゝゝ　わはの月ゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ姫ゝ月ゝ人ゝ　伊周清
ゝゝわゝ　わはのゝ人ゝ（ゝん）ゝゝ月ゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ　板倉内閣
　　　

風非
新千非
日
拾下
風雜中
新後古
亟二
新拾
拾下
風
拾下
新後古
罪
新千
天
風
亟二
新拾風
亟二
新上
新千
亟三

たれえた　あまてる神のけうをまてうたてをうみいまもて　菅原大臣
それやの　あまてる神れ天地と四りうこうのうたれちうのうさて　従三位孝昌
久しとの　あまてる月れつつ川姫のこしれ名に四の色て　山陵入道菅原大臣
今まに　あまこうりをしれうつし暁やされ村雲れう　権西園寺入道菅原太政大臣
天乃川を　あけぬとにてるるの神てひりめる夜に向わい　中之大夫家房
それせ山　あけぬと月に牛とうけい夜ひうきうの名さき　民部資宣
今てや　あけぬとかりの鶴乃ひ牛の後しとかうき姫風　九條左大臣女
をきをれて　あけぬとやうるれ神てきてぬ山というく人伝　土御門入道菅原内大臣
うの花者　あけぬとこけとかれ山の代けるうれのあう月の　中務宮宗尊親王
むかそて　あけるの花のをこうとうやとの後に入とうた　進士内親王
むかしに　あけるてしうしれえのう高けてとうの月け　平高宇
ぬるの姫　はけかう身てあけぬるの月の新をうり　猪子内親王
　　　

新千 巻二
新続古 巻四
日 巻二
日 巻四
新拾 巻三
風 巻二
新拾 巻四
新千 巻二
新続古 巻
新千 巻二
風 文
新拾 巻三

ものにて
あゆみ
きいのくにに
ものしたなの心
祝部行氏
ひくて
あふみ
さむしの
別とまつる人やいまの人
藤原伊長
うせにや
あふみ
しくいられ
名れ山
のあの
家の
藤原雄
いはそらに
あすまと
しくはに
行まてて
人
えれ
倉
藤原雄
なけきい
あゆとは
りとい
ものてい
やるらい
家に
ゆた
藤原宗忠
あるに
あふと
人
ものの
ふ
家
詞
藤原長雄
祝部
あふみ
人
ものの
家
詞
藤原雄
ひとり
詠
ひとり
行
けれ
ものの
家
藤原基氏
ものの
家に
あふと
人
ものの
家
藤原定院
藤原雄
家に
あふと
人
ものの
家
詞
藤原雄
あふと
人
ものの
家
藤原雄
家
藤原雄
ものの
家
藤原雄
家
藤原雄
家
藤原雄

新拾遺巻中
日
巻中
日
巻二
新続古
巻五
風
新下
新千
巻三
新続古
雑下
新拾遺
巻二
新拾
巻一
新後
巻下
新続古
長
風
雑下

のりのこと　あふことを夫形巻と辛とつくるをとりて物作　康資王母
いたまそう　あふことをきあ〜あるれの中にそわをくん　原仲教
清見こと　あふことをこのせきりいたりとしらとしたる姉　原藤經
あきの四に　あふとの系とうしめ月冬こう立乃こうる　權帥言俊
夜ほれ　あふてふ姉いうてわれ人はまろくこきにをけう　伏見院御
あふのりとたに　あふのりとたにくるこういと紅実と言人　右近大將藤經母
をひ人の　あふきう心い霧こめてりもてうるめ此れ　大宰花帥
才しらる　あふう心はてをしろうを実と言人てをしを　原頼言
ふををふう　あふきう山の四ふりもをにりう名ををりけう　原光明
吹四ふ　あふきれ色はてにをいをてしわう冬と紅　瑞子内親王
ちをく　あふ四ふの色てうるきいまれ月の子者　後小松院御製
物十号　あふうてたのむ林ふ山四ふ紅とはしてをう　芝木田唐徒

日
新下
新続古
巻三
新拾遺
巻二
風
雑
新千
巻五
日
巻五
風
巻三
日
新上
新続古
巻二
日
巻二

のりのこと　あ四ふて夜はのの心林月りのいまさふの世　前大宮宣旨
はいりも　あふ人のせうこ名にわけやをさ　頓阿法師
ものはう　はふ人あてとはてとこえをりをとりの人とこえをを　式子内親王
君ふ代ホ　あふとうしあるいとうふ年れとうくわてたん　山院御集
七乃　あふせいこれあるれ川中ものの口りり十絵　太宰大弐
ケうれ川　あふせいふれにあ四にふりてれ人と林やうく人　前大納言宗
れ七川　あふせいふりにありてれのふれの表いう風　後子内親王家
ふりに　あふせいふして名ふりの門ふ名ふりをわふ林　權中納言
ふしの乃　あふたふ家をれいをそもれ君にのこう　院冷泉
あ四れ川　あふせたふまるを四いふをはてををりの人　前中納言
ものはう　あふせあふれの四ふまを号ををあるれ　後人殺大宰
はいりふて　あふせすふいを本紙川祈むのふを名ふの人　九条

日 亟二
や布狩川　あの世て涙にそ〜みをきて流れむそらの月　定家法師
日 亟五
あさ川　あふせしやうて多くそ人のそりとをしまし　前大納言 家
新古 亟一
いふかせし　あこ浦と社のもとてつむや宿あの〜き　後鳥羽院 御歌
日 亟五
うつ〜こそ　あこ浦の月にみてしあかいき雲れいそ〜ろ　後鳥羽院 御歌
風 新古
あさ〜こそ　あさ〜夕はく庭の月に人今うつ〜き冬れちさ　後鳥羽院 御歌
新拾 新古
ふ〜ち　あさ〜夕はく〜ちとをしてれりとをれ　後鳥羽院 御歌
新後拾 冬
ゆ〜ち　あらしにそ〜てゆ花乃ちひ〜ろ〜みを冬れ　藤原定家 卿
新千 冬
ふ〜れ　庭の雪　あらしとをしと雲らりてあられ等にいろ〜き雲　藤原定家 卿
風 新古
〜〜て　あらし庭れ〜ちく波よるを三年ふ〜れ　後伏見院 左京大夫
新拾 冬
風さゆ　あらし庭の名残いやそむ時　前大納言 安之敬
日 新古
ゆ秋布〜ち　あらし庭の雲のへとれてをれ　後光明院 前内大臣
今〜そ　あらしれ乃雲の月けもりとをの行　後光明院 前内大臣 忠良

新千 新古
雲とも　あらし秀にけ乃て波さむにけりめ乃月　前中納言 雅経
新拾 新古
ま乃れ雲い　あらし秀にう〜れて波さむにれるわ乃月　前大納言 家
風 新古
ね郷は　あらしてにあられて寒れいりとをりにしる　前大納言 惟方
新中
ま乃雲　あらしれ波乃ゆ乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち　後二位宰相
新拾 哀
多乃ち　はらしす之に波れく今と乃雲と袖をけて　太上天皇
新後拾 冬
秋とも　あらしす之に波乃ゆ袖けく雲けり人　後安門院 一条
風 新古
ま乃いま　あらしう〜ゆの波人をて乃むく〜れる波れ乃雲　土御門院 内大臣
新後拾 恋
聖人れ乃　あさく雲にむをは恨ゆよるる波れ風　刑部卿 宰長
日 亟五
夏乃ケ　あられ袖のあ乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま　賀茂重久 禰宜
日 新古
ま乃いま　あらしせ之むを雲れ袖乃ゆ乃ち乃ち乃ち乃ち　權大納言 藤原為家
風 新古
これ袖あ　あらしせ之むを袖乃ゆ乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち　前大納言 為氏
新拾 羇
雲なをて　あさせ之むを波乃ゆ乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち　前大納言 為氏 従二位

詞陵古 矢
詞は於 加上
風 旅
詞陵古 秋上
詞於 去上
曰 秋下
詞陵古 遠一
詞千 支
詞於 加下
曰 支
詞陵古 去上
曰 去上

あらし山 あさ霧まよふ たづなれば
あまの 雲ゐて ゆくへ
旅こゝろ あさ立人 ふるさと
文城は あさあけ ぬ 妨萩乃 文
あさ霧 雲れ
曰 去日北下 あさ霧 雲れ
あたらや あさ霧 雲れ
とそ化する あさ霧 雲れ
あ 葉末 ひく
あ 雲れ
大めや あさ霧 雲れ
去いつる あさ霧 雲れ
信濃 あさ霧 雲れ

等持院殿 左大臣
并中納言定 資
源徳院殿 寄
妙法院 仮恵法印
俊二位家隆
桜金侍資 平
皇太后宮大夫 仮成安
三位注相
進子内親王
後京極摂政 太政大臣
後九條前内 大臣

詞千 加下
詞陵古 去上
詞於 秋上
詞於 矢
風 矢
詞於 加下
詞陵古 去上
詞千 秋上
詞於 秋上
風 矢
詞陵古 去下
風 加下

これ 神 あさ 風 ふ ま 今 や 人 衣
去 あさ 風 ま 今 や 人 衣
あさ 風 ま 今 や 人 衣
あさ 風 ま 今 や 人 衣

日 長中
新千 新中
日 恵五
日 秋上
日 恵五
日 哀
新拾 恵二
新拾 恵巾
日 恵巾
新千 新下
日 恵巾
日 恵

ふりにけり　あさみどりなる　わかくさの　つまもこもれる　やまのしたつた
ふるさとの　はなのにしきを　たれかまた　ちりぬるかぜの　なごりなるらん
ふるさとは　ちりぬるかぜの　なごりにて　はなのにしきを　たれかまとはん
ふるさとは　はなにしたがひ　ちりぬるを　ゆくへもしらぬ　はるのかぜかな
ふるさとは　ゆきのしたにも　はるかぜの　ちりぬるかぜの　なごりなりけり

日 雖
いとせて
春くれて
新しき年
心にて
月乃光
雪とも
ゆきにて
ゆきの月
多はや
くれて人
川乃せに
心とに

新千 冬
新古 秋上
新千 雜中
風 雜中
新拾 秋上
新千 物名
日 秋上
新続古 雜上
日 雜上
風 春下
新拾 雜下 初

あさまだきこそ弱うなりてやすらへ
わすれぬ人の春の夜やさめ
ゆふかたまつ夜ぶかくなりぬ
あきかぜの月にかすみて
あさにさかりぬとみしかの
ゆきにうかぶ雲の
ゆきにうかぶ雲の
ゆきとらさめとの
ゆきとすむみてさかりの
あきとやそにらむ月とうつり
あさとやそにうつりてさかりの花
あさともれとうつ野田のこのいなせとの

源清氏朝臣
左衛門督 資教
知世親王
参大納言 乃兼
西行法師
隆信朝臣
東宮国歌
祝部允仲
藤原宗秀
順徳院御
皇太后宮大夫 俊成

新千 秋下
新続古 雜下
日 冬
新千 秋下
新続古 雜下
新千 雜上
風 雜上
日 冬
日 雜上
日 雜上
新拾 秋上
風 恋中

ちりのこる
わすれて
うつしの
ゆきもて
ゆきの
ゆきの
ゆきの

新拾秋上　あるかに神こうけて家の前の花　西宮左大臣
新千雜上　あるかをこの花さくはなりけり　平氏村
日秋下　あるかをいかにこの花をかなしめと　大江匡房
新拾冬　さくひとしこの別乃ゆゑ神しほの時の和　御製
新後拾雜上　あるかの別れらをもかなしと思ふ人　保教親
新千冬下　あるかの別乃らそたにこいりれあやさん　藤原素經
日冬下　をしの別をいかにこいりて時の花をうきこと　法下章清
新拾秋下　あるれりいかのどをひそりて時の花をうきこと　内大臣
新後拾冬　あるれるこをわをやこの人神と思ひて　式部卿宮
新千冬　在れ面に　あるかをこれをしるれてみる歌の名所　昭訓門院
日賀　くるる代と　あまの子たりしを菊に名れむ男ちこと　新大納言
日雜上　くるるを　あるの花をくるる月みをとりて　平大納言
新後拾冬下　をこの四ふ　あるれ花をしむ乃神のおもをひてのへをの衣　平資通

同　あ三　新拾秋上　思ひ出　新拾秋下　月秋中　新千冬下　新拾秋下　新後拾雜上　新拾冬下　新千冬下　日雜上　新後拾冬　日雜上　新後拾冬

冬の内侍

新後拾中宮上經

院の宮

選子内親王

大江家秀

為家雜冬部

惟宗有

後二條家淺

藤原定家

武藤久明

二條院讃岐

京極摂政

燃れ花をとる月の　燃れ花をとる月やあるらん　燃れ花をとるにたん　燃れ花をとる花の庵をなみをかりの名　燃れ花をとるよいかるん初りかひをはてまにをり　燃れ花をとるをの風の入　燃れかをこの花をかるるかるるき　燃れかをこの花をかるるかるるき　燃れかをこの花をかるるかるるき

新拾 冬 ちるもみぢ
秋の名残とふりあへぬ袖よりはなれ　一條内府
彩後古 秋下 あれて物
秋の名残を山のくに月ぞとやをしのらし　宰相清房
彩拾 冬 神無月
秋の名残をしきつれなく時雨と共にくるかなて　山階入道前左大臣
風 雜下 かれぬる
秋のかるるものの中に牧神ちりて中上れる炎　二条太政大臣
彩後古 雜上 なかの月や
秋のうつりをかるるてはうりの秋を月ゆる　光俊朝臣
彩拾 秋上 ゆ藤なり
秋の風やむしろ山とはれは庵をのかれ　祝部成茂
新千 秋上 ちりくよ
秋の雲紅葉にそくる庵はをしぬんとうれをきしけく　船恒
彩後古 秋下 時雨ぬく
秋の山ふかの雲ゆるるやうるうん　皇太后宮大夫俊成女
風 秋下 なかるやう
秋の山風心あるくわるて月とぬるやかくさぬ　左京大夫顕輔
彩拾 雜中 世中を
秋の山田のかりのいをすきうしてやうすて　大納言経信卿
彩後古 秋下 夕日さす
秋の山のしく寥ふるを田のいつて庵をみるる　藤原清輔朝臣
同 秋上 かるるかや
秋のうつりをなかしれてるる月ぞに酒風を吹　参議雅経

風 秋下 吹ちるに
秋のこれをを吹ちて文時雨の山おろしの風　従二位行忠
彩拾 秋下 夜すう
秋の白をなくさあて月ぞ月ありあさうさ衣　従三位家隆
彩後古 秋下 ちるもの
秋の白とをけらや物ちの庵れと庵のるうん　参議雅家
彩拾 秋上 むしつれ
秋のあれをちりてはの庵ちうて　従二位為氏卿
彩千 恋四 たれまつ
秋のさうれ荒藏ちるの風ちうとと　前大僧正慈円
彩後古 恋一 ちうちれ
秋のさかれ庵ちをかぬまれ袖とみをや　法寺関白
同 雜上 夕ちれを
秋のさうを庵の〇と山ちて庵をこうて　前参議忠定
彩千 雜上 ちるもの
秋の夕れ庵宿ちる我袖ちるを思ちるの　前権僧正定家
同 雜上 あれるを
秋の夕れかるるを物ちるれと成けれ　太政大臣家
同 雜上 たちをは
秋の夕れ庵はたの袖ちをとをて庵宿　長生殿内大臣
新千 恋下 たちをは
秋の夕人いそへ井れの花をみをくさ　仁和寺院
同 雜上 吹ちに
秋の夕れてもへ山風ちすの月ゆ　権中納言実房

風 秋中
霧うすき
炉に新の山ぢにかのくみりかなるは一月 従二位為信

新千 雜上
限あれば
炉に日数をへてふ一夜なるあもは月は宵 源孫氏

新後拾 雜下
をれなる
炉に西東のをさけふうは世にまもるるもれかり 前内院出家

風 冬中
かなしてて
炉にとく夜をかさねてをかあるべき月の新しい 前参議公親

彩後拾 雜上
高さ桂の
炉に東東にあさら原中に若よりて拾て先けの 源具親朝臣

風 秋上
夕ア月れ
炉にうかるれ山のくに新ならしく川かこ日月 前大納言為氏

彩後拾 交
月にみえる
炉やかるして夕れの松よりそし新乃下風 紀宗院後四宮

風 交
あさらしく
炉まれ松やまるんさとわれるしのふく 宗連法師

彩千 春
なりあ人
炉にてつてこのれあるとみよりとさかりけり 藤原俊成

風 夏中
かつ好
炉にうきはいふ水をかさあれは月にふてをく四 後二条院御

彩千 夏上
夏こて
炉こうたやは西ふんん庭のふに初とも好なりと 立院御製

新後拾 雜上
きれるみや
炉ふ人家をおまれ風吹上れ月のを明ゆて 前院御製

新拾 雜下
色に出て
あさしを庵乃のなるは花れかりとや書はなのう 康資王母

月 冬
限あれば
あまとかやは学をひ嵐よりく家乃ちる萩 御製

彩千 雜下
かるとへ
あまとおうと夕日をの中のそていらりのあて 後二条院御製

風 雜上
山さし
あまとれぬとつるかまれ乃をとけ和哥 大江千里

同 雜
山すとや
あるくれのうる中れ恋よ焼れをもかとれ一しく 後京極摂政

月 秋上
一ちふて
あるはあるを月西にちてうれ乃を嵐うの花をて 後京極摂政 母

月 交
ちよるる
あををうてれくをふるるりり夕をのや 徽安門院御製

月 神
好かて
あれたにに
あるれたるはれとれ松たのまるくみるる山乃 刑部卿

月 旅
あれに
あるるるるるるる秋れ入れ舟よれとを思ふ 前太宰大弐 信家

同 春下
泊くて
あるあるるるれ庭れるる花れるるれ 前中納言為兼

月 旅
久るる乃
あるる心しるのはんあるとて人のるるるるく 曼殊

月 雜下
世とうの
あみれるるのは一をるにりへる人をなれ分かるを 前権中納言公什

新拾遺 雜始
こしさかの
わかれの人の
こゑ消て

新後拾 春上
ゆく春の
なかめ入れ
たりつる

新千 恋五
冬きても
寒ぬ日とて
なりぬる

同 恋三
春の夜の
月ぬ

同 冬
あり明の
月

同 秋上
みまくは
ぬ

新拾 秋上
なる

新拾 羇
波かな

新後拾 春上
寒さしも

同 雜上
あり小舟はてゝ
あり千鳥
あり小舟はてゝ
あり小舟はてゝ
あり人の
あり人の
あり人の

新拾 恵二
藤原為家朝臣
漕いづる舟の中にさしてさわぐなり
彼方なる小舟にのりてさわぐ人
彼方なる小舟

彩千 恵五
あまをぶねみなとにのこりたちてなほ
西行法師

彩後拾 恵一
うらなみの
あまをぶねみなとにのこりたちてなほ
西行法師

彩拾 秋下
津の国の
あしべこえてなほ
藤原為家朝臣

彩後拾 恵上
難波がた
あしべこえてなほ
藤原為家朝臣

新拾 賀
神代より
あしのうらはさらにあらはれて
藤原為家朝臣

新千 恵五
あしのうらはさらにあらはれて
藤原為家朝臣

彩後拾 恵四
葦にふく
あしのうらはさらにあらはれて
藤原為家朝臣

彩千 恵三
とはつる
あしのうらはさらにあらはれて
藤原為家朝臣

風 雜上
年とに
とはつる
あしのうらはさらにあらはれて
藤原為家朝臣

彩拾 恵三
とはつる
あしのうらはさらにあらはれて
藤原為家朝臣

新後拾 恵三
葦のうへの
あしのうらはさらにあらはれて
藤原為家朝臣

新後拾 恵三
いつしかと
あしのうらはさらにあらはれて
藤原為家朝臣

新後拾 恵三
あしのうらはさらにあらはれて
藤原為家朝臣

新拾 雜
あしのうらはさらにあらはれて
藤原為家朝臣

彩後拾 恵二
日のひかり
あしのうらはさらにあらはれて
藤原為家朝臣

風 雜
あしのうらはさらにあらはれて
藤原為家朝臣

月 恵五
今宵は
あしのうらはさらにあらはれて
藤原為家朝臣

月 雜下
長月の
あしのうらはさらにあらはれて
藤原為家朝臣

彩後拾 春下
宮こ
あしのうらはさらにあらはれて
藤原為家朝臣

彩千 恵四
たのしさは
あしのうらはさらにあらはれて
藤原為家朝臣

月 雜
あちら山
あしのうらはさらにあらはれて
藤原為家朝臣

新後拾 哀
あすの川
あしのうらはさらにあらはれて
藤原為家朝臣

風 雜下
くれの雲
あしのうらはさらにあらはれて
藤原為家朝臣

同 恵四
世中は
あすの川みなかはれて
藤原為家朝臣

彩絵 杉上
新拾 雑
風 恋二
彩拾 雑中
風 雑下
新拾 交
彩拾 雑下

ふるとりの　あすかをとめの　月ぬきへ　新ハつまかつ次　中関八乃分 左段三行
たのもとく　あすの会をとく　ちるを惜しとも　ぬれ袖を　土乃比 八賀
さにとそ　あすの契をたのまれ　ぬるとのさりと思へハ　二条殿之歌
ゆとう川　あすの関をとめてこそ　ぬるとさめぬ世ハのこ　ぬれ　一原左兵衛佐女
音ゆかな　あすゆとてこそ　ぬるとさめぬ世ハのこ　ぬれ　永徳乃比 左兵衛
ゆとう川　あすさへハ　ぬるとさめぬ世ハのこ　ぬれ　一百五十番歌合
ゆとう風　あすも吹ゆとはたとやめ　ぬれ　ぬるとさめぬ世ハのこ　ぬれ　東大寺法華経

六百九十一首

彩拾 恋三
風 恋中
彩拾 雑中
彩千 恋三
彩後古 恋中
彩後古 秋上
風 冬
彩拾 雑下
風 恋三
風 雑中

新和歌類句集

あ

さむしろ　あハぬの袖を　ひるまもと　あハぬの袖を　ひるまもと　信三位宣子
人ハいく　我のさめぬ　あハれそて　ぬれ袖そゆ　宣光門院新 花園殿
我ハ世を　ふるとハ　あハれとハ　ぬるまもいと　海風ふく　任東院歌
ちるをも　ふく水の　あハれとハ　ぬれぬ中　あふせまて　一条前内大臣女
いつ　ハ　いつ　あハれとハ　人ハ　ぬるまぬ　海ハ　後鳥羽院御歌
ちるをも　おいの　あハれも　枕ぬ　ちるをも　ちるを　英朔門院平
彩ハ　ふる　ものを　あハれも　こ　ぬ　ぬ　ぬ　白雪　英徳門院
いつ海　毎ハ　我ハ　あハれも　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　陽明内親王
人ハ海　て　ハ　あハれと　ハ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　院御歌
ちるを　ハ　ハ　あハれ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　伏見院御

風 忘四
人もなれなる我のこよひとは　わすれぬるかな　院御製

風 忘三
かんかりをこそかなしけれ　わすれぬる　宣光門院

風 忘四
かくそなれなれしのこの　わすれぬる　殿御

秒千 人
おもひもよらぬ蓮の　わすれなと　二条殿

風 新下
おりかなしきうらの　わすれもて　永陽門院家

秒後長 袁
うりの物のもとにも　わすれぬる　俊忠家

秒千 新上
なれまさりかへしをも　わすれぬる　三位隆教

風 冬
冬のなれ衣のぬりも　わすれぬる　忘光院入道

秒指 冬
見きてもなれしみよ　わすれぬる　花園院御製

風 新下
人をもかへしみをも　わすれぬる　俊成卿

風 忘三
かきりのくうれおるよ　わすれぬる　俊成卿

秒後長 新下
なるめやかこそ冬を　わすれぬる　源師光

風 忘三
人のかへりあるれなるて　わすれぬる　後鳥羽院御製

秒後長 新中
あはれとなくこそかなしけれ　わすれぬる　花園院御製

秒後長 冬
冬ぬくるあるこそうれ　わすれぬる　延政門院御製

風 忘一
うらつけあるれなるこそ　わすれぬる　院御製

風 忘三
ひぬ色ハくるこそなれて　わすれぬる　大納言公重

風 忘四
ぬるこそとなりうる　わすれぬる　実右大臣

秒多 新上
そそれぬ花の花ちて　わすれぬる　左大臣院御製

秒後長 新上
うへてこそなりこそ　わすれぬる　後二条院

秒指 秋上
あるてとなりひとこと　わすれぬる　後二条院

風 秋上
あきらく秋風ぬ　わすれぬる　前内大臣

秒指 忘一
月新ハ月ぬやうなり　わすれぬる　後二条院御製

風 忘三
うらぬ海てう紅ぬ　わすれぬる　天暦御製

徽安門院

風 兼中
海はれみやまもりき
われさよふるてはしたれ
風 忘又
我さよふりうしとき
われはさよふれ
秀後古 冬
かりつつ月をみるれ
われは分よいまくらひきえんとは
秀千 忘二
忘るしなあにせめて
われはなるはかりは
風 兼下
きてつきをしれ秋の
われはなるはかりは
秀千 忘三
いはそよまるむしの
わそはこりてはふれをあ
秀千 後文宮
わもろ川紅葉ながれ
わハ雲はこれハ雲はをあ世
秀指 春上
雲ふのこちらてこそ
わハ雲はこそ寸ハ花はまりひそそ
風 忘一
こ川せこれ人めをこけを
わはるはこれ人めをこけを
風 忘一
ひとこ紙こけとはも
わはるはこれ人めをこけを
風 秋下
秋ハれをこ霧霧よ
あ金
秀指 兼秋
代をあ夕夜の月一の
あとハ雲はこ代をあ夕夜の月一の

兼家歌合 歌
兼家歌合 歌
中宮大夫 兼
中宮大夫 兼
康寺四道
俊頼卿
俊頼卿
頼人 忘
頼人 忘
頼人 忘

形式抜
新秋
形式長
新中
形式抜
冬
形式抜
京中
形式抜
京大
形式抜
新上
風
文
形式千
新上
形式長
新中
形式千
新中
形式長
冬
形式長
新中

とをさうわりやかな
和方の雨やゆりぬ秋の
ぬさうこそめるとの
ゆりけるみ〜れ
あつぬさきそも黄
ゆり黄やうつはこそ
ゆ一のれりれかれ
ぬさとはそれ〜みとを
ゆ人人屋ちのけよ
月をもしゆしゆ道
ゆめやうさとあに人の
ゆひなのこのゆり道

わとうてみち雨はゝ反ゆるゆ
あとをとたうさ秋〜よ秋ちゆる
あとをさゝみりうむ屋の者ゆ
あとりもれさぬゝさ恵の左ゆ
あとゝゝ方のゆれれの黄ゆさ
あとあて言秋とゆうひを秋変
あとあて言ゆとゆ変ゆ
あとあて言ゆとゆ変ゆ
あとあて言ゆとゆ変ゆ
あとあて言ゆとゆ変ゆ
あとあて言ゆとゆ変ゆ
あとあて言ゆとゆ変ゆ
あとあて言ゆとゆ変ゆ

前田白氏家
義を法橋
前大納言
前左衛門
前左衛門
奉民
法橋行政
前左衛門
舞楽法師
牧伝法師
前権長良
左近衛重
順徳院製
歌法師

ゆとをうあて言秋ゆ
ゆ馬門侍
ゆ人今地紙書の
ゆ人今ゆ言ゆ言ゆ
ゆ言言言言言言言言
ゆ言言言言言言言言
ゆ言言言言言言言言

秋後古賀
秋拾新上
風新上
秋後古羇
秋後古秋上
秋千祢
風
春上
秋千新中
秋千新中
秋拾天
秋後古忘二

秋拾春上
秋拾天
秋拾秋下
風新下
秋後古新中
風新中
風天
風新上
秋後古羇
秋千春上
秋拾冬
秋後古新上

わとうきて春よりうち代のみりけと　藤原定家卿
わとまきて秋のあらしはけあるな　後信法師
わとゆりてうもぬ物よあれえ　藤原院門侍
わとゆりてはの通事よ秋風吹　拾遺抄後前大臣
わとうえてたうふ嵐よはうる月うる　順徳院御製
わと乃てあはとうう君は第上　飛鳥井雅経
わとみえてしらはは白雪　高陽院内侍
わとたてはは葉しとふ沢ゆる　藤原師
わとうて色の海いとうは紅はあり　拾中納言家隆
わとうて夏の我庭よ涼まうあき　御長慎紙
うとれぬはの風ふ　京極摂政前太政大臣
わとうは代のの小春をうう　拾遺抄後前大臣
わとうは通の海の道生　拾遺抄後前大臣

わとうは通の月はゆき　拾遺抄後前大臣
わとうは通の雪を望　藤原定家卿
わとうは通の月はあきなう　藤原定家卿
わとうは通の秋のうち月　後二条関白
わとうは通のうれと物ゆ　冒頭の前内大臣女
わとうは通の秋はけ　藤原為秀
わとうは通の月はゆう風　前内大臣
わとうは通の八重ゆえ　清原雅平
わとうは通のたてよ流やうく　惟宗忠員
わとうは通の月はそゆう夏はけ　藤原為秀
わとうは通の夜の月はてすう　法皇御製
わとうは通の秋やう月はてすう　後宇田院侍
わとうは通のの雪風ふ　中務卿宮尊良親王
わとうは通の春よかとう春の雪

狩千冬
狩後古吉下
狩後古吉上
狩後古京二
狩後古京一
狩後古京二
狩後古吉上
狩後古京二

ゆり雲にとれて山ちと
山ゆりこ夕日雲乃
ちりけり花の白雲
山の谷ゆ出り乃
けりむけてあるめ
今年はいつ春
約束の月日を
三年ぶりの風の
一言よ三代ちるれ
我神よあいのみちの
望のちり雲はるまま
かりこてあるうき世み

あるか御やきされたりへるる
あるか吹石風あるやちるる
あるかさりてやへとひこ
あるか紫とそ第の下道
あるかくいてんとそくてしや
あるかくいてんとそくてしや
あるかくいてんとそくてしや

風 亞一
新拾 亞一
新千 亞二
新後 亞又
新後 秋下
新千 親上
新續 亞一
風 亞三
風 尺
新千 亞又
新後 文
新千 亞又

はるかすみたちのたなびくを
あり
あり
あり

秀抜後拾遺雅
晴百首歌合
平久朝
法眼隆源
平行氏
拾二条院
藤原雅有
英秋卿
小侍従
藤原基任
原光行
院御所

秀抜後拾遺雅
晴百首歌合
平久朝
法眼隆源
平行氏
拾二条院
藤原雅有
英秋卿
小侍従
藤原基任
原光行
院御所

秀抜後拾遺雅
晴百首歌合
平久朝
法眼隆源
平行氏
拾二条院
藤原雅有
英秋卿
小侍従
藤原基任
原光行
院御所

秀抜後拾遺雅
晴百首歌合
平久朝
法眼隆源
平行氏
拾二条院
藤原雅有
英秋卿
小侍従
藤原基任
原光行
院御所

形式 忘口
形式 郭下
形式 尺
形式 秋下
形式 忘中
形式 忘三
形式 郭中
形式 袮
風 忘文
形式 忘三
形式 郭袮
形式 冬

ひさかたの月をとたくるたふとめ光代　前内大臣
はるかに来し我あるまもの　藤原定家卿　左近大将
若草のいとけなさうるくさあるかな　秦武邦
あるものとうつりてけりる花の　刑部大輔
あまもの紙まゆ秋　祝部成仲
あるものとかしんをふたてはる　墻内右大臣
あるものとなりたるまゆふ　藤原雅経　左兵衛督
あるものとをふとてとろひやすて　藤原雅経
あるものとをたてはくまるまぬ　藤原雅経
あるものとんのやたるまるなき　藤原為氏
あるものとあるうつてうれるさ　藤原為家卿
あるものとをはるんちめ花芝代霧　宗尊親王
あるものとをとこなりてを花りひと　信濃守藤原
あるものとをとこなりかのをひと多りて　右兵衛督藤原為氏

形式 文
形式 忘文
風 冬
風 袮
形式 袮
形式 郭上
形式 袮
形式 袮
形式 袮

秋千 吉上
たち霧のしたをふかさ
あをやぎ玉のをとけさ風吹
秋千 吉上
若川のいそ〻まとしく
あをきかちなまちをあく西日殿
秋千 吉上
夜ふかしわりせし
わかくさ山よりの月ハ今海ものを
秋千 物名
ちいさのまるをみて
あわりしやしとあねぬ苔のりもん
秋千 京三
なとをくわけて別し
あるさハいそ寄をとうかりもろ
秋千 京下
時もめ我もあるも
あるさをもらてやる秋をあるし
風 京二
人あたのふるの
あるさをあまをもをる秋のく
秋千 京上
秋さあるを流のあとく
あるさをもをもをるやのく
秋千 京中
をさりを海をいの
あるさををてまをとをとハ
秋千 京上
海を我はいて
あるさをもをてやる秋をあるを
秋千 京上
ををしくをあるをの
あるさ秋のよるくあるの月の新
秋千 京三
雲のををいて春を道
あるさ秋の月の新ををを道

後人之和
後鳥羽院御歌
前参議
信実朝臣
俊光卿
前参議
信実朝臣
後鳥羽院御歌
前参議
信実朝臣
後鳥羽院御歌
前参議
信実朝臣
後鳥羽院御歌

形摺
新去
あらしの吹きもあへぬ
あらし花やまとの方とふく風
哭秀雅人
東大寺別当

風
新中
ちりもしぬべきこころかな
ちりもしぬべきこころかな
東大寺別当

形摺
吉下
さをしかのつのふる
あきのはつかりとなくなり
あきのはつかりとなくなり
志賀門院

風
新下
ゆきもこずすくもむしたるあさぢ
世はうきにすくもむしたるあさぢ
東大寺長吏奉

形摺
新下
うきは世をあきはてぬとて
世のうきにあきはてぬとて
法勝寺阿闍梨

形摺
新下
命をもかぎりなのまれぬ
世のうきは風まちがほなる
如空上人

形摺
新下
ちりぬべきこころかな
あきはてぬ
二条院御乳母

形摺
衰
ちりぬべきこころかな
あきはてぬ
崇賢門院

形摺
京二
ちりぬべきこころかな
あきはてぬ
皇太后宮大夫俊成

風
新上
ちりぬべきこころかな
あきはてぬ
前大僧正慈円

彩絵
新上
うきてうつるこころかな
あきはてぬ
前大僧正慈円

彩絵
秋下
ぬるとこころかな
あきはてぬ
廃院入道
前大政大臣

形絵
秋下
さとはなのいとまもなき
あきはてぬ
従二位家隆

形摺
新去
あらしの花の新あしの
あきはてぬ
唐房新宰相

彩絵
吉上
雖後世のあとの風をきけ
あきはてぬ
前大僧正慈円

風
新上
たちちのあとやもしらよ
あきはてぬ
従二位家隆

風
新中
宇治の橋のかたらひ
あきはてぬ
前大僧正慈円

形摺
友
吉をとしこころのこまもあり
あきはてぬ
従二位家隆

風
人とはなりてうつ
あきはてぬ
従二位家隆

吉上
きぬたもこころきき
あきはてぬ
後人

形摺
罪霧
いとはよるとなこころきき
あきはてぬ
後人

形摺
新上
あのうとくかとかりよ
あきはてぬ
後人

形摺
新千
ゆきはたとしてそなる
あきはてぬ
後人

風
賀
ゆきはたとしてそなる
あきはてぬ
後人

形摺
罪霧
かりさはとうさとなる
あきはてぬ
後人

形絵
罪霧
かりさはとうさとなる
あきはてぬ
後人

新拾遺 恋一
新拾遺 恋三
新後拾遺 恋又
新拾遺 雜中
新後拾遺 恋四
新後拾遺 恋二
新拾遺 雜中
新千載 恋又
風雅 恋上
新拾遺 雜秋
新拾遺 恋一
新千載 恋四

ちりにけるうきよの花の
つもりそいつそうつもるよ
なりてゆくやうもむ
ひく山よりもたて
うきよ月にこころ乱
ちりもとゝのはてゝ
後の世代をとるもよ
残るものはたゝく
春にこそうつ人日のさかみ
もみぢ葉もはしさよ
はるのもりくんや久みも
あふとのまれるいろや

あつまるすゝ風ふかぬ
あさらとそつゝ
あさら秋よハひぬ
あさらこゝ人ひとゝ
あさらひくかさけらる人のそるよ
あさらひくかさけらる色たつ中ゝ
あさらゆきうるゝ色たつ中ゝ
あてゝとゝ
あつ後のうりのあるようにて
あつ雀めすうらの花をく
あつ雀めすりやはのはす
あつ雀んたゝらつゝむうゝ
あつ雀んうゝ生ゝむ

後拾遺 雜中
後拾遺 恋人
後拾遺 恋四
後拾遺 恋二
後拾遺 恋一
後拾遺 恋三
後拾遺 恋又
後拾遺 雜中
後拾遺 恋四
後拾遺 恋二
後拾遺 恋一
後拾遺 恋又

新拾遺秋
山ちかくすみなれて本居りそなれぬる春雪
ある花の本居りそなれぬる春雪
新拾遺秋下
吹きくる風のまよ
ある花の本居りそなれぬる春雪
新拾遺冬
つもりもこそ冬の雪
ある花の雪にかくれ遠の池水
後拾遺冬
吹くる雪の雪の月
ある花の時雨に雪の雪の月
新千載秋上
そめの雪のもり初
ある花の時雨に雪の雪の月
新拾遺秋上
なれて初雪の雪の山
ある花の時雨に雪の雪の月
右大臣
風上
ゆく秋の時雨の雪
ある花の時雨に雪の雪の月
惟宗光吉卿
新後拾遺
かきくもる雪の雪の月
ある花の時雨に雪の雪の月
花園院御集
新千載
をたにかくれぬる雪の雪の月
ある花の時雨に雪の雪の月
前大納言為世
新後拾遺
をけさもしらぬ雪の雪の月
ある花の時雨に雪の雪の月
法眼行海
新千載
うつるそみるこころの雪の雪の月
ある花の時雨に雪の雪の月
前大納言為氏
新拾遺
見るまつる月にこころの雪の雪の月
ある花の時雨に雪の雪の月
法印定為
新下
うき世のさしろうつの雪の雪の月
ある花の時雨に雪の雪の月
参議為氏卿
新拾遺
あるかの月を雪の雪の月
ある花の時雨に雪の雪の月
法印定為
新中
参議為氏卿
新千載秋上
雪の雪の月
ある花の時雨に雪の雪の月
後嵯峨院御歌
新拾遺
月を雪の雪の月
ある花の時雨に雪の雪の月
大納言資名
新千載
雪の雪の月
ある花の時雨に雪の雪の月
勝定院殿
新後拾遺
雪の雪の月
ある花の時雨に雪の雪の月
信實朝臣
新拾遺
雪の雪の月
ある花の時雨に雪の雪の月
前中納言定房
新千載
雪の雪の月
ある花の時雨に雪の雪の月
源仲教
新後拾遺
雪の雪の月
ある花の時雨に雪の雪の月
二条院讃岐
新千載
雪の雪の月
ある花の時雨に雪の雪の月
為家卿
新拾遺
雪の雪の月
ある花の時雨に雪の雪の月
中納言為家
新千載
雪の雪の月
ある花の時雨に雪の雪の月
前中納言為家
新後拾遺
雪の雪の月
ある花の時雨に雪の雪の月
皇太后宮大夫俊成

風 新下
拾遺 新下
拾遺 古二
風 新中
拾千 新下
拾遺 新下
拾遺 新下
拾遺 古二
風 新下
拾千 新中
風 新下
風 新上
拾千 新中

岩瀬のもりをくらすよ
小山田なるいろ水な
世中はものさわと
うさかるそもそなぬ
なりはひ世のうき河は
ぬれぬるものを道と
ふりてとふるものの
さりてはるもあれも
海おくと言をいはる
をもはとふるをも
なきりたたなのの
なるるるたちのの

あるくよいとう此秋ようらめぬ　後鳥羽院
あるくよるまをそ九月九日のは　法慎公
あるんとそしてろ月かみらあるけの　陸人和
あるまよくらひあるの世とうとあ　法眼源元
あら海よくくひそてんるる凡　元光法師
あるる海ようらぬ春ををそれき　摩訶衍
あるまよあぬるを交まをを　勅撰相
あるまよ里をくをを光者の　英朔門院
あるまよるをりも分はけ人法く　家宣朝臣
あるまよるをとるををををる　前摩訶衍
あるまよ分とるくをををる　前摩訶衍
あるまを月と世海ようを言の　永福門院
あるるを分ぬくをとふをれさ　惟宗忠景

風 新下
拾遺 新下
拾遺 古二
拾千 新下
風 古四
風 古三
拾千 冬
拾遺 文
拾遺 冬
拾千 古下

あ里あるうはよおりぬ
なのはるるを世ハすく
をはけるわふよあるの
ふるるるを海り末の
りるるを流るる家て
さらるるこはるるきを
わ里いるみあるふるの
我をしのきはるはあら
あ家をを吹をををり
をるるるかはあるしか
本代家るるる人山の世の
さるををいをふる代

徽安門院中宮大夫
英朔門院
坂義教公
等持院贈太政
英泰法教長
大伴黒主
後鳥羽院
後二位あるる
英朔門院良教
兵衛
大弐三云家
前関白

風 吉中
秋千 秋下
秋千 冬
秋千 冬
秋千 京二
秋後古 京四
秋後古 京三
秋接 初め
秋後古 京二
秋は接 京二
秋千 吉上
秋千 京一

みちのくに花の枝を嵐ふりかけるは
吉野のみさまをもとめ山桜さかりをたづねん
ひろ海よりあまつ雲さわぐ山こしにまかせて
海ふり袋よりし山の木ぬてつくらるかな
戒京八接ふ吹ふ風の雲をよそにて
海から一面てかくれ
そそなとと宗祇ひて
海のうへあの面のまあの
美ふあまよみらしてて
きをつやま屋のかのく
河も雪へまきつの
あに接とあり山路ふ

永福院花接
慶多院製
法華長講
華厳着忠
常楽寺倉
京大改大臣
華厳為秀
定家法師
倉京歌主殿
源家歌
大貳三位
為家為歌
英雄為資

秋接 秋上
秋千 郭中
秋接
秋千 尺
秋千 猿
秋千 郭上
風 京二
秋接 京三
風 友
秋千 吉中
秋千 京二
秋後古 郭
秋後古 郭上

月をこそたづねふ
いくらハ接くるもこの
雲ふりはさ月ま
ゆ月ふこうあ
ちちあちとあ
たちあうつれ美
あまさくハ月ふれこや
かくさ沈ふくハさ沈
接ちあぬちくれ
ひとりぬるこちやと
あふちぬ月とたれ人を
くるれ秋ふ沈の接の

あくれいつくれ秋をくるあ
くまんおくいまハあるり
くまていくまて
くまていつくも宴接
くまてあくれ丈
くまてくれ
あふふくよ我ちくをハ接ちあ
あふくよまてくたふ弥ちあ
あくよみくをちをたまくれ
あやしふかよあるまてと春ちむ
あやうき紙ちてあ門ちあ
あやうき紙ちてあ月れをみちくれ

二条院二荷
建礼門院 在京大夫
接法華院製
為命法師
法華山頂
安楽院除
進子内親王
倉新華四道
恒信行苑
後人文
安楽門院四條
尼大臣

形千賀
形接
点四
風
点四
新撰
新去
形接
新去
形接
点又
形接
点又
形千賀
形千
新上
形千
長
形続古
点又
新撰拾
点又

そこうくいきとたにあ　あやう若なをとせを松の孫まやてへん　上東門院
みくらあうきひとされハ　あやう若孫そおとゝ方とおりめる　孫人ゝ和
たくまてようこ方かたの　あやう若城のこうこ孫おうのくも　永福院長
ひく人のうこに行たを　あやう若うこにたつう孫たそうる道　上総兼直
ゝ地孫くいたりこあるた　あやう若うこ方こりハひく人をの　源師氏
こたこ道ハ花ようくまれ　あやう若ゝたつよう道とたをふ　前栽合
うこ世れありよをハ　あやう若ゝ孫ゝ方ハ　秋貞卿
うこ世れなりよりハ　あやう若ゝ孫ゝ方ハ　同
代こをたをたのう　あやう若ゝ人ゝ方行なれた　英和和
ほれうをたをれた　あやう若方をまてすき孫をけんとハ　乃松上人
ちこうれこあくかれのの　あやう若ゝうこうみよ孫その童　咲茂長久
うまあれひて孫うこ　あやう若ゝ孫ゝもうをあまうひくん　一条摂政寛

形続古
点一
形接
新上
形千
新上
形接
別
形接
点又
形続古
点一
形接
別
風
点一
風
社中
形続古
冬
風
天
形接
点二

こそもいけれいたこきぬのの　あやう若ゝたつをあまうそそれ武水　源頼隆朝臣
ゝ水ををとうとれのこれ　あやう若ゝ孫ゝ方ハ　前栽合
あうひみここうりれ　あやう若ゝ孫ゝ方ひくくとを　源氏物
極こうこ和をこうく　あやう若ゝ孫ゝ方ハ　権中納言敦忠
和おとをいを孫まをを　あやう若ゝたつをとをとを若ゝうこ　源養父
ゝ行にまこうこうこを　あやう若ゝたつをとをこ　正三位李孝
極く人ゝをあうこうの　あやう若ゝたつをこうこ　中務
ゝ武ゆまをありよゝ　あやう若ゝに人ゝ方ゆうのゝをけう　右近
戒神のつ極て源を　あやう若ゝ方ゆうの武ハ月ゝ　高階貞雅
ゆゝこ道ハ海せこし　あまを方海世れゝ方ゆうこ　源兼澄
ゝこ海ゝうてをてう　あまを方ゆこ戒ゝ行ゝ海れうう　後光明院
ゝうもゆくあまの戸海う　あまを方ゆれりとうるゆくゆゝん　春俊

風 新中
わすれの杯の浦なみ　あまのゆみつるさかりてそ流れそふる　藤原雅経朝臣

秋上 新上
ちきりあまのとこそなりぬれ　あまのみうきなかめすはやうら風　源有家

秋 新中
流れよりかつのはるあり　あまのみなとをとはこそ流るる　摂政太政大臣

風 新下
和歌浦よりそうき浦の　あまのみなすかさりのれとなる風　藤原定家朝臣

秋千 撰
うみのうや風はたりそふ　あまのみ川東あやうき浦のうへ　藤原俊成卿

風 冬
ひとのさきこりみちの　あまたのてれとさとりを浦ふ雪　友則

秋千 賀
ちとせぬるとき見れは　あまたのひとはかりかりの　西園寺実氏

秋千 恋上
梅の花ちるさかりの　あまのとまとをとはこそ四りの　中務卿宮

秋千 恋一
雲井のもとのしたてる　あまのとまとをとはこそ風の尾　藤原為家

秋千 秋下
花ちるさこ浦のてなとは　あまのとまをとはこそ浦なれ　元輔

風
つもりてやすらまはなよ　あまのとまをとはこそ新たに　太上天皇

秋千 恋中
とまの川浦のまさきなる　あまのとまをとはこそ民　藤原定家朝臣

秋撰 慶

秋 新下
時雨ちてをちの時雨の　あまのとまをとはこそ浦なれ　後鳥羽院

秋撰 新中
わすれてをちの時雨の　あまのとまをとはこそ浦なれ　順徳院

秋千 天
村雨をよそにそ聞ふ　あまのとまをとはこそ風の尾　藤原定家朝臣

秋撰 恋一
人しれすをちの時雨の　あまのとまをとはこそ浦なれ　後鳥羽院

秋撰 新中
みちのくのさかのそこ　あまのとまをとはこそ浦なれ　藤原俊成卿

秋撰 恋一
ちとせ浦のそこ　あまのとまをとはこそ浦なれ　後鳥羽院

秋撰 恋上
たつ浦のれたそこ　あまのとまをとはこそ浦なれ　藤原定家

秋拾 新上
桜風の吹ちらす　あまのとまをとはこそ浦なれ　藤原俊成卿

秋撰 新下
あまのさてひさしく　あまのとまをとはこそ浦なれ　後鳥羽院

秋千 恋上
いとをとをとをとをとを　あまのとまをとはこそ浦なれ　後鳥羽院

風 新下
あまのさてをとをとを　あまのとまをとはこそ浦なれ　後鳥羽院

秋千 文
八月の月の雲とりとり　あまの川いかりのとりの水面とり　藤原俊成

あまの川　清寺四季
あまの川　賜侍三信女
あまの川　万秋門院
あまの川　仮二条院
あまの川　貫之
あまの川　後信家卿
あまの川　後出羽
あまの川　中納言兼
あまの川　参議大貳
あまの川　藤式部
あまの川　後鳥羽院
あまの川　前関白

あまの川　清寺四季
あまの川　賜侍三信女
あまの川　万秋門院
あまの川　仮二条院
あまの川　貫之
あまの川　後信家卿
あまの川　後出羽
あまの川　中納言兼
あまの川　参議大貳
あまの川　藤式部
あまの川　後鳥羽院
あまの川　前関白

あまの川　後人之知
あまの川　清寺四量
あまの川　兼務院嬉
あまの川　信長法師
あまの川　前大僧正
あまの川　後鳥羽
あまの川　法下雲禅
あまの川　前大納言
あまの川　五門入道前
あまの川　正歌所院左京
あまの川　明祐友
あまの川　前関白

秋上　風
秋上　秀侯古
秋上　秀侯古
秋上　秀侯古

秒後古 秋上
秒後古 新上
秒後古 京三
風 京三
風 新上
秒接 文
秒後古 新上
秒接 京三
秒接 文
秒後 京三
風 文
風 新中

わかのうらにしほみちくれば
かたをなみあしべをさして
たづなきわたる

あまのはらふりさけみれば
かすがなる
みかさの山に
いでしつきかも

あまのはらふりさけみれば
つきかも
あまのかぐやま
ゆきかとぞみる

秋千 秋下

月はなほ門田をてらす暗夜にあきかぜぞ吹く

後嵯峨院御製

秋歌 秋上

夏ぞしるひさかたのあまのかぐやまにあきかぜぞ吹く

前大納言俊光

秋千 秋下

長月の三日の月出ぬ

後嵯峨院御製

秋歌 秋上

雲ぬけてよはのさやけさ

徽安門院

風 冬

くれぬまにまきのはしらに

藤原為家卿

秋歌 秋上

うち風の寒さにたへぬ

源親長卿

秋千 秋上

ながの長月なのこりなく

藤原為家卿

秋歌 秋上

月はまだよもの秋の空にのこりなく

藤原為家卿

風 秋上

うしとこそ思ひ定めぬ

藤原為家卿

風 秋上

月新はなほ難し

前大納言俊光

秋歌 秋上

きぬぎぬの涙のまくらうつり

藤原為家卿

秋千 秋下

秋歌 秋上

おもてにも秋のたちくる

後嵯峨院御製

秋歌 秋上

長夜のさ夜の中山

藤原雅経

風 秋上

山ぬしはあるかなきかの秋の旅人

後京極摂政

秋千 秋下

あをぬまのあをやぎ

後鳥羽院

秋歌 秋上

ちりぬとてやすらへ

後鳥羽院

風 秋上

あをぬまのあをやぎ

後鳥羽院

秋千 秋下

あをぬまのあをやぎ

後鳥羽院

秋歌 秋上

あをぬまのあをやぎ

後鳥羽院

秋千 冬

あをぬまのあをやぎ

後鳥羽院

風 秋上

あをぬまのあをやぎ

後鳥羽院

秋歌 秋上

うゑはてこぬうさぎ

後鳥羽院

秋千 秋下

ちりぬとてゆきてはかへる

後鳥羽院

秋歌 秋上

いとはやけしきぬめり

後鳥羽院

秋後古 哭
あひよあふ恋を月日と
あくがるるひろひとたれをいけるる　藤原正通朝臣

秋後古 恋三
川にはせきはあるうさ
あふことはなりもんへ立川な　藤原俊成卿有

秋千 恋二
いけるとよれのうへて
あふことよりめ命をまつるまてとハ　源宗義卿

秋後古 恋四
恋つるさて恋つ人ハ
あふことよりて命をとるとて物先　藤原信実朝臣

秋千 恋三
よかるをありてうを
あふことに分をいけるこころひるまとも　中宮大夫公家母

秋撰 恋二
つまをとるとやこ尾
あふことよ人ハ人孤いける命我　藤原基俊

秋捨 恋四
うつあるひあるみ
あふことをいよ人えにる爲ちる尾　皇太后宮大夫俊成

秋千 恋三
しるのそて月日ことつ
あふことへるる実ハ中ハるひいち　為道朝臣

風 恋三
をハけるる爲ハりの
あふことをかるふるとあハへるる爲　藤原隆祖卿

秋千 裏
きこをあるこうつよえるや
あふことに恋ハ人ハ孤ハりとも　無名之良親王

秋千 恋四
こるるとるをハんてはし
あふことをハ人ハ孤ハりとる尾　藤原為氏

秋千 恋一
かるをけるしるひそるき
あふことるるるとるりよるるれも　伏見院御製

秋撰 恋二
いけるをハあるとる
あふことを海ハ命よるるるるる　平時邦

秋捨 恋四
むをるの爲るあるぬる
あふことをあるるとるをるるる　惟成法師

秋千 恋四
うつるるるそ恋
あふさるハるるるるるハ爲　従二位俊成

秋千 恋三
るるるるるるるる
あふさるハるるるるるる　二条院讃岐

秋千 離別
るるるるるるるる
あふさるハるるるるるる　為家宰相

秋後古 恋三
かくるるるるるる
あふさるるるるるるるる　賀茂真淵

秋千 恋三
るるるるるるるる
あふさるるるるるるる　法華経

秋後古 恋二
いるるるるるるる
あふさるるるるるるる　慈空上人

風 恋二
るるるるるるるる
あふさるるるるるるる　源為氏卿

秋撰 秋捨
るるるるるるるる
あふさるるるるるるる　藤原為家卿

秋捨 恋二
るるるるるるるる
あふさるるるるるるる　源為氏卿

秋捨 恋四
るるるるるるるる
あふさるるるるるるる　藤原為家卿

秋は猿
玄上
秋は猿
猿
秋捻
羈
秋後れ
玄三
秋猿
玄四
秋千
玄三
秋猿
新上
風
玄一
秋千
猿
秋は猿
玄四
秋は猿
新秋
秋は猿
別

秋は猿
秋千
賀命
秋猿
玄一
秋千
玄三
秋千
新別
秋後れ
新下
秋千
新中
秋千
秋上
秋捻
衰
秋捻
非
秋捻
羈
秋は捻
反

あかぢかやうにふるとそうに風そふく　乗雲院完記
あはれとこそ思ふ　あふ坂の関は清水の方なれば　小野の門徒
今もこの世を思ふ　あふ坂の関よりまさる名残　乗雲寺老
やこしを乗ぬる　あふ坂の関は逢ぬ先　徒然草
うきなかにかなしきは　あふ坂の関は逢ぬ先　徒然草
あてをこそ　あふ坂の関は逢ぬ先　徒然草
あてをこそ　あふ坂の関は逢ぬ先　徒然草
あてをこそ

秋拾
友
秋義
友
秋千
友
秋後古
恋一
風
友
秋後古
恋二
秋拾
友
秋義
天
秋後古
恋三
秋拾
秋上
秋後古
恋四
秋千
秋上

あしひきの山のこなたに
あしの葉もしてしかぜ
あしの葉に
あしの葉に
あしの葉に

秋千 郭上
ゆふまぐれ雲はしるしの
あさちふ原をきそふ雪のうつ山

秋後古 秋上
ゆふさとやあまぢの庭の
あさちふ原霧のしたにうつむ

秋後古 郭上
霧さそふ秋の末葉乃
あさちふ原虫のこゑしたてゝ

秋指 秋下
さきそめやうゝ色なる
あさちふ原虫の色まさりて

秋後古 部
日ぐれ雨人やゝ人なる
あさちふ原まゝ秋く尾花ちらそ

秋後古 恋又
ままはこゝろこゝハ海そ
あさちふ原あとゝめとゝろ人はなきりよ

秋指 恋ロ
ぬれとゝろ人のちきりハ
あさちふ原ようとまつ虫ハ秋てそ

風 秋中
はの葉もゝれのこゝはなる
あさちふ原はるはなの色はなる

秋後古 秋上
ゆふさとハあまぢの庭の
あさちふ原はるはてゝ秋ゝうすゝ月

秋千 秋下
あとたゝてこゝ見あ宿の
あさちふ原ふよひゝ月ぢのこゝ松虫ハ

秋千 秋下
秋風よひくゝ月ぢ
あさちふ原ふのゝ色ゝまゝ弱のゝ萩

秋後古 秋上
をきあまゝ月のまゝ雲
あさちふ原のゝ色ゝ虫やゝくらん

惟之光卿
後伯顕氏
常定為
源三位嗣
紀定院殿内大臣
左大臣
少大進
衣笠三位為
従二位家隆
西行法師
僧正業海
八条三宮親王
前参議忠定

秋指 秋上
とゝ雲はしるしの
ちきりをとゝ忘よりの

秋千 秋下
ちきりをとゝ忘よりの
冬ゝ雲はしるしの

秋後古 冬
冬ゝ雲はしるしの
秋ゝ月ぢ雲ハ風ハ

秋拾 郭上
秋ゝ月ぢ雲ハ風ハ
ゆをとゝけしたけ

秋後古 冬
ゆをとゝけしたけ
いけとゝ月ぢ雲ハ

秋指 郭下
いけとゝ月ぢ雲ハ
いそゝ人ハ月ぢ雲ハ

秋後古 郭中
いそゝ人ハ月ぢ雲ハ
霜ゝ月ぢ雲ハ

風 冬
霜ゝ月ぢ雲ハ
こゝひゝ月ぢ雲ハ

秋拾 袋
こゝひゝ月ぢ雲ハ
ゝ月ぢ雲ハ

秋千 郭中
ゝ月ぢ雲ハ
ゝ月ぢ雲ハ

秋千 郭下
ゝ月ぢ雲ハ
ゝ月ぢ雲ハ

秋指 郭上
ゝ月ぢ雲ハ
ゝ月ぢ雲ハ

秋上
ゝ月ぢ雲ハ
ゝ月ぢ雲ハ

彩後古 京四
彩好抜 郡秋
彩千 裏
彩後古 京三
彩後古 京二
風 京一
彩抜 京三
彩後古 秋下
風 京二
彩好抜 吉上
風 吉上
彩千 吉上

あさくてよろはあつさこれ
あさはりよ吉ときさとしふいはてか
あさはりはやまつまてなるふ秋萩苑
あさはりはやまつまてなるふ秋萩苑
あさ春の在地ようをハ波ありりり
あさ春のわさうまるをんあふちは
あさ春のさとぬさこにおひそてる
あさ孫ことみさ風んまちく孫と
あさ孫ことみさ風んまちく孫と
あさ孫ことみそてかこそりりり
あさるくなりゆくちくさく苑
あさるくなりゆくちくさく苑
あさるくなりゆくちくさく苑
あさのきこにすこはるふるつ
あさのきこにすこはるふるつ
あさのきこにすこはるふるつ

蔡方基郎
大江氏元
西行法師
四三位駕
法慎公
永縁院在
京白書
慈円院前
大僧正
後法成院
大納言典侍
寂人之知
藤原拾遺
後鳥羽院
日光院金春
関白左大臣

風 郡下
風 吉下
彩抜 秋上
風 京一
彩後古 京四
彩後古 郡中
彩後古 反
彩千 冬
彩抜 郡中
風 横
彩抜 羈
彩好抜 郡秋

おりはあつさこれ
むさきこれ苑さこれの
秋さはりはりはりはりはりはり苑
ちりはりはりはりはりはりはり苑
尺さこあつりえはちちる
山の井はは水はちちる
時さあと山田はなこ乃
こけはは池のこれ八
ちはは苑はは苑はは
吹ちはは苑はは苑はは
友尺ちはは苑はは
嵐あはあはあはあはあはあ

あさくのこそめて苑はさ神はは多八
あさくりははりはりはり苑はは多
あさはりはりはりはりはりはり苑
あさはりはりはりはりはりはり苑
あさるるはあるるはあるるはあ
あさるるはあるるはあるるはあ
あさるるはあるるはあるるはあ
あさりこ衣はは見はは見はは
あさりこ衣はは見はは見はは
あさりこ衣はは見はは見はは
あさ嵐あはあはあはあはあはの八
あさ嵐は神は神は神は神は
あさ嵐は神は神は神は神は
あさ嵐はあはあはあはあはあ
あさはりはりはりはりはりはり

慈円法師
藤原定四
法皇四条
賢院法師
寂蓮法師
藤原定四海
永福門院
法皇四条
藤原後鳥
大江義重
藤原大納言公

新拾遺上
風
友
風
郭中
風
秋下
風
冬
新後拾遺
友
新拾遺三
新拾遺
京中
新拾遺
京一
新拾遺上
新拾遺上
風
春中

ゆうかぜ不吉雲のうすくうち棚なびく山ぢの海や春てをさゆきさえしかすかにかすみてうすくうち海霞ぬ月をうをあつまるうらのうらなれさそひあるこの海のいなびとうらうつる河のこえとそふとをなせ海人あまくれ山ぢにかすみあれ春なれ雪あれ元れ春ゆうべむかるさの

わさ田ゆよ元れ年うちさむしろ元れ
わさ田ゆよ元れ年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田ゆよ月ゆうとをあつ海そくらも
わさ田の年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田の年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田の年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田の年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田の年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田の年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田の年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田の年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田の年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田の年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田の年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田の年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田の年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田の年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田の年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田の年ゆうとをあつ海そくらも

太政大臣
従一位公経
華山寺前右大臣
院一条
徽安門院
従二位光俊
従二位定家
従二位為氏
二条院讃岐
従二位為家
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏

新千
春上
新拾遺
郭春
風
春上
新拾遺
春上
風
友
新拾遺
春上
新拾遺
春上
風
春中
風
友
風
賀
新千
賀
新後拾遺
秋下
新拾遺
天

雪ふれ久しや
春ゆくあけぼの
とくみるはたれ雪の
春ふれて三月ぬ
雪さえ春ふれ
雪さえ春ふれ柳眉の
とつ雪ふれ柳
月前の四面のうつ
三月三日山ぢ
ちとや雪ふれ山ぢ
とあり雪ふれ
とり雪ふれ春
春ゆくあけぼの

わさ田ゆよ元れ年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田ゆよ元れ年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田ゆよ元れ年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田ゆよ元れ年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田ゆよ元れ年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田ゆよ元れ年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田ゆよ元れ年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田ゆよ元れ年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田ゆよ元れ年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田ゆよ元れ年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田ゆよ元れ年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田ゆよ元れ年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田ゆよ元れ年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田ゆよ元れ年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田ゆよ元れ年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田ゆよ元れ年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田ゆよ元れ年ゆうとをあつ海そくらも
わさ田ゆよ元れ年ゆうとをあつ海そくらも

華厳宗義
京住法師
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏
従二位為氏

彩後古 彩上
彩後古 秋上
彩後古 秋上
彩後古 秋上
彩後古 秋上
彩後古 秋上
彩後古 秋上
彩後古 秋上
彩後古 秋上
彩後古 秋上
彩後古 秋上
彩後古 秋上

わさ萩はなまあらしてあるやとちん　備後守
わさ萩にぬれてをりけるあさつゆ　従三位家隆
わさ萩をあふぎてみるそふるゆふ　後鳥羽院
わさ萩の葉ごとにすがりをりぬ　頼政卿
わさ萩の花を箱にいれつる人　月花門院
わさ萩の花のみさかりにあつて　平常盛
わさ萩とうつりにけりたれ　藤原民部
わさ萩とけてそとにたるもの葉あつめ　藤原定家
わさ風たちたちやとみてしらん　貴人
わさ風よ文はきしの松にかすふ　右衛門督
わさとそやるく月はもつぬふし　義門院
わさ風よもつり衣ぬやうつらん　前関白

新千 秋下
彩後 秋上
彩後 秋上
彩後 秋上
彩後 秋上
彩後 秋上
彩後 秋上
彩後 秋上
彩後 秋上
彩後 秋上
彩後 秋上
彩後 秋上

ぬやらぬ月なの月新　四位隆教
望よりの人はなつ秋の　後鳥羽院
ちりはつ月はこの秋　九条兼実
夕雲はの人吹ちく海　九条兼実女
ちりはつ月をもんの　慶政上人
ちてあの秋はこの月　原家清
秋をさ高秋風　坂本隆房
夕日ちる柳はこの　藤書
吹ちる木はもちつ　藤原重家
秋ぬてる門田風　藤原定家
吹しの秋はこの　藤原定家
君よりいつ重ぞれハ　

わさ風みちちつ葉ちしあつ月新
わさ風みそはなりはたる
わさ風ちこ海はちつ上秋
わさ風みちくこ秋はこ上秋
わさ風みとちとちつ秋こ
わさ風みちつ月をもちつ
わさ風み

風 雜上 あきかぜのふきてうつれば月もまた　従三位為親
秋 拾上 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 千 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 下 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 千 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
風 上 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 上 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 拾 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 上 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 千 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
雜 上 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 拾 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 拾 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 上 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
雜 千 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
部 別 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿

風 中 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　従三位為親
秋 千 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 上 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 千 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 上 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 拾 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 上 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 千 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 下 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 拾 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 上 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
雜 拾 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 上 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 千 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 上 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
風 秋 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　従三位為親
秋 千 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 上 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 千 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 上 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 拾 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 上 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 千 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿
秋 上 あきかぜのふきしきるくもの山ぞいと　平宗盛卿

彩指 忘ロ
わさちかうひとを
あさちかうひとを
桂侍従藤原
風 秋上
ちとのこわれやとも
あさちかうひとを
後院の奇
秋千 秋下
さそうれてそなくなる
あさちかうひとを
為盛朝臣
彩後長 秋上
おさちかうぬをさへつのそこなる
源和氏
彩指 秋下
さ夜ふけて月をしも
あさちかうひとを
兵部卿長綱
彩指 秋上
ちりぬるやこのりてけさ
あさちかうひとを
桂三条院製
彩後長 秋下
いけるあるうつりて
あさちかうひとを
夜多後京極
彩指 秋下
かひりのよ本紙ハ
あさちかうひとを
前摂政家
風 秋下
あさちかうひとを
前摂政家
彩指 哭
さ見代ハとよ行くれ
あさちかうひとを
源有長卿
彩千 長
あさちかうひとを
百首門院
月新とおてるうれ
あさちかうひとを
兵部卿為家

彩指 秋下
かさ千とをあきの
あさちかうひとを
桂侍従藤原
彩指 哭
ちとのこわれやとも
あさちかうひとを
後院の奇
彩後右 秋上
ひさちかうひとを
為盛朝臣
彩千 秋上
月ハ第もるめ見山の
あさちかうひとを
源頼政
風 秋上
さきをとれ萩ハ今て
あさちかうひとを
藤原定家朝臣
風 哭
いとりて雲ハ代月を
あさちかうひとを
二条院讃岐
新指 秋上
いとり代いそくてのの
あさちかうひとを
大宰権帥為経
新後 秋上
あとをのてれ河海ハ次
あさちかうひとを
源頼政
新指 秋上
我屋とれ面をさよこもり
あさちかうひとを
武門歌
彩指 秋中
けくと秋のとそ八の田のの
あさちかうひとを
信西入道
彩指 秋上
月ハ第ハれとり衣
あさちかうひとを
兵部卿為定
風 秋上
風ちむこと千ハ
あさちかうひとを
基俊

新後拾遺 忠之
あきのよのつきかげをまちつるさ
ゆきはとまれとこそ思へ
侍恵法師

新千 牧上
久方の月の面をすみ
なれぬ人のこゝろをすまし
侍人朝臣長家

新千 牧上
そらにかよふあらしの
あきをたれ人の月にかたりそ
素覚法師 関白 家歌合後

新千 牧上
あきの月はこゝろをまつさそふ
夜の月をあはれ
平貞秀

新千 牧上
いかゝとりつゝまてこゝを
いかにせんあきのあはれ
前兵部卿 為定

新千 牧上
かりのこゑあはれとそ
なりぬあきの月にたゝ
後能蜜院 家歌

新千 牧上
ものこゝろとはなれたる
あきの月こゝろをとゝのへ
惠茂法師

新千 牧上
大井川やかみうつる
あきの月の影のよかゝるこ
夜の月をあはれ

新千 牧上
見ぬよまてこゝろふ
あきの月やむしのこゑ
大納言経宣卿

新千 牧上
あてそこ元にたつくは
あきの月さへかゝるあけの
夜の月をあはれ

新千 牧上
いろこゝろ秋のやとに
あきの月のあはれ
民部卿為

新千 牧上
月をあてあるゝ
あきの月のあはれ
法華寺

新後拾遺 牧上
月たにもこゝろ
あきの月のあはれ
院宣蔵院

新後拾遺 牧上
さてもやはかはらぬ
あきの月の面の
基俊朝臣

新千 牧中
明ぬるかあきの
あきの月の面のかはらぬ
藤原為忠

新千 牧上
うゝ神まつるひのよ
あきの月の面のかはらぬ
藤原為忠

新拾遺 牧上
稲葉はひかりはなれて
あきの月の面のかはらぬ
藤原為忠

新千 牧下
をしへあるあしはれの
あきの月の面のかはらぬ
藤原為忠

新千 牧下
うゝをそこ今はいとこそ
あきの月の面のかはらぬ
藤原為忠

新拾遺 羈
まもしあり庵の
あきの月の面のかはらぬ
神祇伯顕仲

新後拾遺 牧下
すこしはの我分うを
あきの月いてゝの野の
原朝臣

新後拾遺 牧下
いはゝ月はいてゝ
あきの月いてゝくらい代
拾遺参議

新千 牧上
はるゝあるかあきの
あきの月をうてゝ
万葉門院

彩絵古物上　あきたかの月代に雁鳴てうつる
彩千裏　ひかりのさ世とりの　あきたかの月ゆゑ人てや哀なるらん　中国人名和名抄
風賀　年代ゆきめしおしの　あきたかの月今ぬけ来るあうも　宰相典侍
彩振物上　いたらす光をあらさ　あきたかの月今ぬ光の月来の元　普光園寺名　和名抄
風非上　新そよすあよとそや　あきたかの月ゆ宝て八新の之ひさ尼　英俊法師
秋千裏　ありひきやうまてみ世の　あきたかの月ひさ之ゆ秋みとう尼　法華寺四天王
秋振天　くひうみ世にいてて　あきたかの月あまひきけ八人のらさ沢　花山院名　和名抄
秋振非下　新さうさうさうの　あきたかの月霜とてさ八拾すも新尼　大納言国夏
彩千賀　うつ代の杉ゆかれう　あきたかの月ひさき新とさうとぬて　法華寺名
彩絵古物下　山なのゆきみすと　あきたかの月ゆ之ひ尼　法華流製
秋絵古物上　ちりそめ花をあらし　あきたかの月ひとけ尼　法三位和歌
秋千裏　いたもゆきそやうん　あきたかの月の花のひとけ尼　法華惟成
秋千上

秋振天　よのあつの月ひとれと　あきたかの月のうつろひうるけをひき　赤松法師
彩絵古物上　ものとそよ神代うて　あきたかの月の花なまて一つ月ひ尼つ　平重衡之力志
秋千裏　ぬるぬけつ玉ふあ尼　あきたかの月の玉宝ひて次しき玉春　賀茂好忠
秋千上　うりけつ世ひうう宝　あきたかの月ま月ゆ月ゆ月ゆ月ゆ　法華定名
秋千裏　神の月ゆ月ゆ月ゆ　あきたかの月ゆ之ひ之ひ之ひ之ひ　源人公
彩絵古物下　立てしう雪と雪八　あきたかの月ゆ月に月ゆ之ゆ之ゆ之ゆ　法華方秀郎
風物上　ひて玉ひ玉ひ玉ひ玉の　あきたかの月ひ之ひ之ひ之ひ之ひ　後龍胡院
風物下　山風ひ玉れよ玉ま　あきたかの月ひ之ひ之ひ之ひ之ひ　貸光院
彩絵古物下　金箔くとれて山ひ八　あきたかの月ひ之ひ之ひ之ひ之ひ　松寿仏資
風物上　しう雲ひ新ひ海ひ　あきたかの月のうつりやとて今ひ月ひ尼　平大信光四
風物下　尼ひ海に八ひ之ひ之ひ　あきたかの月の時ゆ月ゆ月ゆ月ゆ　進士門和王
彩絵古物上　ひひれとゆれしてや八　あきたかの月ひ之ひ之ひ之ひ之ひ　源人公

彩揺 秋上 ちくさなる花ぞみちをしたれいみ〳〵しくもうかりける あきてのうへ 中務卿具平親王
彩揺 秋上 あぢきなくあきの来るは風をのみ吹くとのみこそ思ひしかれ 太上天皇
彩揺 恋中 風をのみ吹くとのみこそ思ひしかれ あきてのうへ 英賀門院帥
風 秋下 あきてのうへ 従三位為子
秋後古 立田山あかつきはけば夜もすがら あきてのうへ 大納言通具
冬 彩揺 よりはなく雲ぞ初はつ人 あきてのうへ 前中納言為家
秋下 彩後古 雲をこめぬ日をすくせ あきてのうへ 前大納言為氏
秋下 彩後古 夜をこめぬ夜をうすくせ あきてのうへ 前中納言為家
秋後古 彩揺 霧ぞ立てなほ秋はなほ あきてのうへ 従二位親子 受養
秋下 彩後古 初かりて立田の山の霧にぬれ あきてのうへ 従光法親王
彩揺 秋上 思ひ寄ちとせの秋の月新 あきてのうへ 英賀門院安嘉
彩揺 恋上 かり月は五日の月ぞ あきてのうへ 前大納言為世
秋後古 彩後古 あきこそあの月日 あきてのうへ 前大納言為世

彩揺 秋下 いくよ里ちりぬるかぜ あきてのうへ 故上皇則
彩揺 秋上 いくちとせ秋の宮井の あきてのうへ 故上皇則
秋中 夕日さすかの山ぞ秋 あきてのうへ 従二位為氏
秋中 彩後古 たまぼこの秋ぞ秋 あきてのうへ 大納言公重
彩後古 秋上 たまぼこの夕べの秋 あきてのうへ 英賀門院為継
秋下 風 雁なくこゑぞ秋 あきてのうへ 二条院内侍
風 彩揺 毎日夜はすがらよそ秋 あきてのうへ 康資王母
彩揺 秋上 ひとりかなしかる宿よ あきてのうへ 奉俊
新千 秋上 ちてちるあきの月 あきてのうへ 延政門院
秋上 風 さをしかのちるもしるきよ あきてのうへ 太宰権帥仲平
風 秋上 あきてのうへ 従三位為子
彩後古 秋上 あきてのうへ 二条院讃岐
彩後古 秋上 あきてのうへ 二条院讃岐

彩花 吉上
風 文
彩花 郭上
彩花 赤
風 吉上
彩千 紫下
彩花 紫
風 郭中
彩花 紫
風 紫中
風 郭中
彩千 郭中

あめ降て雲ゑ入りてあをきたる空に
さるとり軍雷鳴
あめ降て久方のそらにうき雲
あめとゝもなきはるの
空やこゝのまそる郭の
雪らにうもれけぬ
あめつちの心をそらてまて
あめ雲のうこをうけきくれさうつき
あめ雲もとゝぬいてゝ
あめのうちとやしをひらう
あめの雲はなをれ世ぬ八波ぬ
あめの雲の雲のうはとゝろきりしも
あめの雲の雲の行のは
あめの風の風の源をうて

進高郭
俊院
藤原為家
入道郭
光春

風 郭上
彩花 冬
彩花 郭秋
彩花 赤
風 秋下
彩花 京二
風 花
彩千 花
彩花 別
彩花 郭上
彩花 吉上
彩千 笑

あめ降て雲ゑ入りてあをきたる
川上はあれをぬる
ひをぬるをつ
ゑのもゝとゝは
郭の川久方空の
空けきつゝひゝやを
ぬきゝ小雲はこゝて
空の今ゝ雲ゝ
ぬくゝのゝとあすは
雲のまゝ雲ゝ
郭のゝ雲の雲の
郭のゝ雲の雲の
郭のゝ雲の雲の
郭のゝ雲の雲の
郭のゝ雲の雲の
郭のゝ雲の雲の
郭のゝ雲の雲の
郭のゝ雲の雲の
郭のゝ雲の雲の
郭のゝ雲の雲の
郭のゝ雲の雲の
郭のゝ雲の雲の
郭のゝ雲の雲の
郭のゝ雲の雲の
郭のゝ雲の雲の
郭のゝ雲の雲の
郭のゝ雲の雲の
郭のゝ雲の雲の

慈院
京尼
行恒
前関白
後人
藤原
為家
為家
為家
為家
為家
為家
為家
為家
為家
為家
為家
為家
為家
為家
為家

彩千 賀
彩千 秋
彩扶接 秋
彩扶接 冬
彩扶接 上
彩扶接 冬
彩扶接 上
彩扶接 冬
彩扶接 上
彩扶接 下
彩扶接 下

うなゐやまこにあそぶ
天満のひろもとき
池水にこのうえさく
雪よりあたらしきもの
いけのまこもしらたま
しまにかつおまを
あきくれのこゑやとき
當の花のちりて
山のひかりすこしまち
あをうきく岩屋前
蓮葉よ藻やもしむる
波ゆたかさくへよう

清寺四名
清水寺名
信性法師
華厳院房
華厳院公
芳家雅親
平泉法志
和尚法師
黄泉法師
奈良三位
二條院讃岐

彩千 秋中
彩扶接 秋下
彩千 賀
彩扶接 上
彩扶接 上
彩扶接 冬
彩扶接 冬一
彩千 冬一
彩千 冬一
彩扶接 上
彩扶接 交

年ゆりてをうこ法
こ成ちとゆ
ちとせ
九のさ
あをて
淺沼のこ
あをて
山の池の
こてこれ
池の國の
あさ日
ま
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

あらしの松ちる和尚法師
前院出家
太宰大弐重家
黄泉
基俊
聖徳法王
頼人
後白河
後白河
如乳法師
皇太后宮大夫俊成
権大納言忠雅
芳家隆卿
前院出家

彩千
意二
人丸
源孔氏

風
郭上
あしびきの山どりの尾の
しだり尾の長々し夜を
一人かも寝む

彩接
秋下
初時雨降りぬべし
山の紅葉ぬれぬ
人もとめ
金京聖宗
知法三賢入院
入道門大臣

彩接
秋上
おほ山の月のひかりも
雲の山の木の葉ぬれ
あらし
なり

風
秋下
ひさかたの雲の上にて
月見れば
雲の山の桜ぬれ
ぬらし
信法具定

風
雲中
ちはやぶる神の御代にも
聞かざりし
雲の山の梯はあれど
通ひ路
著光国入道
常国自尼公

彩接
雲下
雲きえ霧たえて
月澄める
雲の山の桜の花
ぬれぬ
今上御前

彩接
雲上
月澄める
雲の山の桜の花
ぬれぬ
ぬれぬ
上皇遠尼公

彩接
秋下
ぬれぬ
雲の山の桜の花
ぬれぬ
ぬれぬ
法三位為隆

彩接
秋下
ぬれぬ
雲の山の桜の花
ぬれぬ
ぬれぬ
大炊門経信

彩千
郭中
ぬれぬ
雲の山の桜の花
ぬれぬ
ぬれぬ
摂政後京極

彩接
賀
ぬれぬ
雲の山の桜の花
ぬれぬ
ぬれぬ
藤原兼実

新後
意四
あしびきの山どりの尾の
しだり尾の長々し夜を
一人かも寝む

新後
意四
あしびきの山どりの尾の
しだり尾の長々し夜を
一人かも寝む

新後
意四
あしびきの山どりの尾の
しだり尾の長々し夜を
一人かも寝む

新後
意四
あしびきの山どりの尾の
しだり尾の長々し夜を
一人かも寝む

彩千
友
あしびきの山どりの尾の
しだり尾の長々し夜を
一人かも寝む

彩接
郭去
あしびきの山どりの尾の
しだり尾の長々し夜を
一人かも寝む

彩千
友
あしびきの山どりの尾の
しだり尾の長々し夜を
一人かも寝む

風
冬
あしびきの山どりの尾の
しだり尾の長々し夜を
一人かも寝む

彩接
友
あしびきの山どりの尾の
しだり尾の長々し夜を
一人かも寝む

風
天
あしびきの山どりの尾の
しだり尾の長々し夜を
一人かも寝む

新後
意四
あしびきの山どりの尾の
しだり尾の長々し夜を
一人かも寝む

彩接
友
あしびきの山どりの尾の
しだり尾の長々し夜を
一人かも寝む

左京大夫
藤原定家
惟宗忠景
人丸

権中納言公雄
紀貫之朝臣
俊成卿
藤原公明
藤原為明朝臣
権中納言長雅
平忠度朝臣
成尋阿闍梨
赤染衛門
寂蓮法師
左京大夫

新拾 夏
新後拾 雜秋
新拾 秋下

ゆく春にうるおひぬとの雨風は　あすの川さきぬとの雨風は　一条内大臣
はつ花の関瀬の水を　あすの風ぬるよりの秋ハ立たり　頼阿法師
蕎麦の秋のうこんと　あすやうん神よ雨みぬ雲をはらせ　門大臣

八百廿九首

新和歌類句集

あ

あかつきの　あきの白露云々
あくるまの　あくるまもなく云々
あくるまの　あくるまもなく云々
あくるまの　あくるまもなく

彩後右 新下
彩後右 老
風 忘之
彩後右 鬱旅
風 新中
彩後右 新上
風 忘之
風 秋中
彩後 忘二
風 林下
彩後 林下
彩後 新中

あくるとしの春の人
あくるとしの物ものこる
あくるとしのくれぬとて
あくなんとす秋の旅人
あくるは月のいりもぬ
あくるなつるわつらひ
あくるなれば遠くきと
あくるね寄秋のとりの
あくるに近くなりて
あくるに思ふ秋のさも
あくるに思人のれて
あくるとき初雪ふる
あくるに思人おもふ人

後徒資友
寛入僧正 意鎮
儀子内親王
永福門院 内宴
後二位殿
法眼部下
後二位殿
今出川院
按察使実俊
民部卿定
平政村部下
法下寛基

風 忘之
風 新下
彩後枝 光
風 忘之
彩後 冬
彩後右 林下
風 新下
彩後 衰
風 忘三

ぬるねとたのあれたもとの
ぬるとしのふりにしかの
老なるとなくもあるとも
ぬるの月ものあるとも
吹過るもあるとも秋の
過ぎにしかのとしかの
あるとなるとの月の
あるとなるとの人
あるとなるとの
あるとなるとの
あるとなるとの
あるとなるとの
あるとなるとの
あるとなるとの
あるとなるとの
あるとなるとの
あるとなるとの

俊成卿女 法性寺入道前関白太政大臣
伝資行 前大宰帥 北方
源通親部下
今上四宮 母後
宗光院 前大僧正法眼
浄賢法眼 源頼時女
院一条

風 忘三
風 玄平
彩多 友
彩多 親下
風 秋中
彩多 尺
風 尺
彩多 親上
彩多 哀
彩於 哀
彩続古 哀
彩於 外

彩続古 親下
彩多 玄下
彩後於 外
彩多 賀
彩後於 玄上
彩続古 忘二
彩続古 忘三
彩多 忘二
彩続古 忘三
彩後於 忘一
彩続古 忘二
彩於 友

彩校於冬
彩ヶ新上
彩於恵三
彩ヶ恵四
彩ヶ玄上
彩ヶ咲
彩絵吾非
彩絵吾羅旗
彩ヶ新上
彩ヶ杖下
彩拾新中
彩ヶ玄上

かり人にうれてうるとしをまるのうかもあいうるかきみて代なうちもと久きはらはせをあ人
はうしあをとはは染て
なしもみ衣ちいて衣の代よ
ひてそりひうあれ衣の代よ
をとうれ和ふはうみかる代な
知ふ神をうくほうあ人を
ちうそて入すひ山雪みても
をてこひとひうる村あも
みをなをとをる水者は
いりはをうるん人雪さの

あくせあをやをうくん
あくはへそをとを海
あくはへあのしひやうん
あくはへ力をとうみさ
あ人雪とれと雪をく
あるを武雪れをうねれ
あ人うやたは神ひれさ
あ人はうを山雪のはくして
あとへいうとひをとや
あとへいのかはをちて和
あとへいをふ屋とはをふ
あとふ屋とはをるよ
あとふ屋へのかれき
あとそれ志のふ人しのき
あとあくをのよ
あとしみあ屋はを
あとをうをうそ
あとをふれはを七はり人非
あとをとをかこりの和ふれ浦

按察使資康
民部卿
陽明門院
前内大臣
後鳥羽院
兵部卿
大納言
後二位氏久
忌院
後二位
大納言

彩ヶ新中
彩ヶ新中
彩於天数
彩ヶ新上
彩ヶ釈
彩於長
彩ヶ新中
彩絵吾冬
彩拾新上
彩絵吾恵二
彩絵吾非
彩於新上

ふ作はは雪りはをつをそ
ををはをひうををいをは
はををははをはをををを
あををはをはをはををを
あををはをはをはををを
あををはをはをはををを
あををはをはをはををを
あををはをはをはををを
あををはをはをはををを
あををはをはをはををを
あををはをはをはををを
あををはをはをはををを
あををはをはをはををを
あををはをはをはををを
あををはをはをはををを
あををはをはをはををを

中臣祐頼
等持院僧
杉僧正賢伊
建礼門院
右京大夫
永福門院内侍
前杉僧正四伊
前僧正尼忠
正二位知家
後京極殿
前中納言基
後恵法師
信濃法師

彩子
冬

あきかぜ吹くまの浦の夕千鳥
なくこえまさる波の枕に

後選朝光
四製

彩絵
新中
風
新下

なき人をとふのつまとなる海ぞ
ちぢにものおもふ月の秋の夜

三善為種

彩抜於
新秋

あきねるうらの浪のうへ
ゆめ覚しぬ月の秋の夜

西行法師

彩抜於
新秋

彩絵古
霧旅

あきかぜ
ゆめ覚しぬ月の秋の夜

旅人為之

彩抜於
春下

風
冬

あきかぜ
ゆめ覚しぬ月の秋の夜

法印長雅

彩絵
非

あきかぜ
ゆめ覚しぬ月の秋の夜

瑞籬法師

彩子
非

彩絵古
恋四

あきかぜ
ゆめ覚しぬ月の秋の夜

後鳥羽院

彩子
新上

あきかぜ
ゆめ覚しぬ月の秋の夜

後福光園院
政前太政大臣

彩子
冬

あきかぜ
ゆめ覚しぬ月の秋の夜

前大僧正道玄

彩子
新上

あきかぜ
ゆめ覚しぬ月の秋の夜

源朝臣
後恩院関白
太政大臣

彩絵古
春下

あきかぜ
ゆめ覚しぬ月の秋の夜

前大僧正慈円
京極摂政
中宮大夫
左京兆

彩抜於
恋七

あきかぜ
ゆめ覚しぬ月の秋の夜

後鳥羽院
太政大臣

彩抜於
冬

あきかぜ
ゆめ覚しぬ月の秋の夜

藤原定
家卿

彩絵古
霧旅

あきかぜ
ゆめ覚しぬ月の秋の夜

法印定為

彩抜於
春下

あきかぜ
ゆめ覚しぬ月の秋の夜

西園寺
実氏公

彩子
新上

あきかぜ
ゆめ覚しぬ月の秋の夜

大江親重

彩子
恋二

あきかぜ
ゆめ覚しぬ月の秋の夜

後伏見院御製

彩抜於
恋一

あきかぜ
ゆめ覚しぬ月の秋の夜

後二位行能

彩抜於
恋七

あきかぜ
ゆめ覚しぬ月の秋の夜

大納言通具

彩絵古 枕上
彩ヶ 冬
彩於 新上
彩於 点心
風 文
彩絵古 冬
彩於 新中
彩ヶ 新上
彩ヶ 新上
彩ヶ 冬
彩於 去上
彩於 羅

彩絵古 新中
彩ヶ 新下
彩於 点心
風 新中
風 新中
彩絵古 枕上
彩於 新枕
彩絵古 去上
彩於 点二
彩絵古 去下
彩ヶ 釋
彩於 新上

源注伝
摂津国の
三位通夜女
太上天皇
後西園寺入道
右大臣大臣
実頼の宴教
右大臣の乱
紀伊民部卿
山階入道
右大臣
実頼の宴教
摂ヶ関の夜
泰政朝臣

中宮大夫宗母
従二位藤子
恒の
新ヶ
実頼の乱
山階入道
右大臣
入道二条院
永助
右近衛
実頼の満海
祝ヶ威光
後三条入道
右大臣
西園寺
嬉子内侍

彰俊古 枕下
彰子 点二
彰子 新上
彰梅枕 玄上
彰俊古 新別
彰枕 賀
彰子 新中
彰枕 長
彰枕枕 玄下
風 新上
玄下
彰枕 枕下

ありたなかやうにはあるべし
前徳を定
なるの中ふせあてはみよ関をれ
在道出之成
はなれしこみくるあるまし山
嘉氏
ありしみとやてくるあく
ありあはれてもとちうん
従二位考仁
かりの屋ちにいりあれて
左京大夫俊
あまの月ちとなるとれるあれ
ありやちの色き霧れ命ハ
津守四助
ありてなるとせいれちうめ
侍人少納
ありてうれ泊さうを
迎来国前
ありてあきこうを月れ
左大下
ありてうを世と云風を
名二位殿
ありの海をき山れのうを
九条左大下
ありのうをもちめれ
敬道卿
ありの月を新とうを海
侍従深養父

風 反
彰枕 枕下
風 嫁下
彰枕 新上
彰枕 羅
彰枕 点三
彰子 点又
彰俊古 枕下
彰子 非
風 点四
風 点又
彰俊古 点二

時雨をこそとも
あるの月ハ狩てうを
武高麗
いれをの花をうもし
あるの月ハまふ白菊
賀
あるの月を良しのう
紀倉右大下
あるの月を摩を鳴の
後三位行孝
あるの月を海ふうん
後光四撰
あるの月を波ふうん
前参議右大下
あるの月を波をみる
大江頼重
あるの月を波をうみうん
枕中納言具行
あるの月を海の浦浪
前中納言右兵
あるき行とを神をうん
大納言実母
あるしきかるの人なけハ
永海門院 右馬頭
あるしをうるの物やうん
永海門院
あるしをうるの神をきハ
右大弁宰相 実雅

彩拾
恵三
彩拾
恵三
彩子
恵三
彩子
親下
風
親中
風
恵女
彩拾於
親下
彩拾古
恵心
彩拾於
友
彩子
親下
風
親下
彩拾於
親下

あはれとてもとりあつめたる姿のほ
ゝゑみたるいとゝ一度に少なくて
ものゝあはれとしるけれどもこゝ
ろ入れ我が心のうちにあるべき
袖にはなるゝ月にはなるゝ
きくからふるまの雨ぬれあ
草はたしゆく露をみるとに
忘れぬべき面影にはなれ身をい
ものをみてこゝろにあはれこま
やかなるものをみるに浪
なきてはみをもなれたる
ものゝはきさまをなりて

あり一段に限りなせい
あり制限なくて
あり引れひとをはなれ
あり一しう不ふ
あり一首に
あり一うつくしうあれなかき
あり一みるに新
あり一一段に
あり一やうにんまうれつて
あり一まもなくせをとる
あり一ものをせこと
あり一人きれとなれたる人

後恵法師
後宇喜四襲
進子内侍
法印長覚
義法師
友京る秀
法印長覚
後二位家隆
後宇喜四襲
友京る
前大僧正実
後二位家隆
定

彩子
尺
彩子
釋
彩子
恵心
彩子
恵こ
彩子
衰
風
親下
彩拾於
親上
風
親上
彩子
羅
彩拾古
恵二
彩拾古
恵下
彩子
恵こ

ものゝあはれとしるけれどもこゝ
ろ入れ我が心のうちにあるべき
袖にはなるゝ月にはなるゝ
きくからふるまの雨ぬれあ
草はたしゆく露をみるとに
忘れぬべき面影にはなれ身をい
ものをみてこゝろにあはれこま
やかなるものをみるに浪
なきてはみをもなれたる
ものゝはきさまをなりて

あるとはうらやましきものは
あるとみるこゝろ
あるもの人にあるべき
あるとものとはふるさと
あるかはるもあるべき
あるべきものゝ世
あるべきものゝ
あるべきものゝ
あるべきものゝ中山
あるべきものゝ人の
あるべきものゝ
あるべきものゝ
あるべきものゝ

前大僧正実
後宇喜四襲
小町
後鳥羽法
藤原法
集礼門院
右京大夫
僧正定
前中納言有
源俊康
前中納言有
源為元卿
為道卿

風 雄上
彩校本 雄去
彩子 雄下
彩子 恵三
彩子 枕下
彩後古 恵一
風 去下
彩後古 枕下
風 去中
彩後古 反
彩子 恵三
彩後古 鬱旅

うづ〜おれ梅もみしぬれ
山けしれわたれるをへ法ねて
と文をそりたいをそ〜〜てせ
あまをせて宮をみあるいりを
龍田やかいて志れたるあ
思ひてあ〜文ふ〜〜〜氷多れ
ら川岩間れ波みるむや
紅葉ら山く田れ松れいて志れ
文〜〜のあ去いかれ
さうやと思ひしりれかとた
ひれたるひ志あいう〜の
ゆきこいれかとはりみれ

あ〜〜〜〜れ
あ〜〜〜〜〜〜人ものう
あ〜れ〜のき〜れ為を
あ〜梅〜〜〜志る人ものき
あ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
あ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
あ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

彩投於 点々
彩於 板下
彩々 板上
凡 反
凡 鞆中
彩々 点三
彩於 去上
彩後古 鞆下
凡 冬
彩後古 鞆下
彩後古 板下
彩投於 鞆上

ちはやぶる　神の御代にも　聞かずあり
ける　竜田の川の　紅の　水くくるまで
あらしふきける　ちはやぶる　神の御代
にも　聞かずあり　ける　竜田の川の
紅の　水くくるまで　あらしふきける
ちはやぶる　神の御代にも　聞かずあり
ける　竜田の川の　紅の　水くくるまで
あらしふきける　ちはやぶる　神の御代
にも　聞かずあり　ける　竜田の川の
紅の　水くくるまで　あらしふきける
ちはやぶる　神の御代にも　聞かずあり
ける　竜田の川の　紅の　水くくるまで
あらしふきける　ちはやぶる　神の御代
にも　聞かずあり　ける　竜田の川の
紅の　水くくるまで　あらしふきける
ちはやぶる　神の御代にも　聞かずあり
ける　竜田の川の　紅の　水くくるまで
あらしふきける　ちはやぶる　神の御代
にも　聞かずあり　ける　竜田の川の
紅の　水くくるまで　あらしふきける

法師顕詮
後三位為明
寂真法師
前大納言為季
鎌倉右大臣
前参議公敦
前中納言定家
後京極摂
政前太
天皆山製
読人不知
前内大臣

彩後古 鞆下
凡 鞆中
彩後古 鞆中
彩於 反
彩投於 鞆下
彩後古 反
彩々 冬
凡 去下
凡 賀
彩々 去上
凡 点一
彩々 点々

あらしふきける　ちはやぶる　神の御代
にも　聞かずあり　ける　竜田の川の
紅の　水くくるまで　あらしふきける
ちはやぶる　神の御代にも　聞かずあり
ける　竜田の川の　紅の　水くくるまで
あらしふきける　ちはやぶる　神の御代
にも　聞かずあり　ける　竜田の川の
紅の　水くくるまで　あらしふきける
ちはやぶる　神の御代にも　聞かずあり
ける　竜田の川の　紅の　水くくるまで
あらしふきける　ちはやぶる　神の御代
にも　聞かずあり　ける　竜田の川の
紅の　水くくるまで　あらしふきける
ちはやぶる　神の御代にも　聞かずあり
ける　竜田の川の　紅の　水くくるまで
あらしふきける　ちはやぶる　神の御代
にも　聞かずあり　ける　竜田の川の
紅の　水くくるまで　あらしふきける

法師顕詮
後三位為明
寂真法師
前大納言為季
鎌倉右大臣
前参議公敦
前中納言定家
後京極摂
政前太
天皆山製
読人不知
前内大臣

彰考長
風
恵之
彰続古冬
彰拾恵文
彰拾於冬
風
新上
彰拾於
冬
彰於
冬
風
新中
彰拾於
新去
彰於
恵冬
彰続古
去下

今は牧育ことはてゝみ山ゝや
そのもゝ〻ゝ山ひあとをゝ分てかき
ひかりやちゝや七夕よみちはて
我よひく時かりそのまれ
冬ゝ山は一夏ゝ山ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

有家卿
西三位隆教
法印守遍
中園前右大臣
前大納言
皇太后宮大夫
後成
前右大臣
摂政関白
有家朝臣
京兆尹
前中納言定家
深草法皇

彰於
妹上
風
新下
風
新下
風
恵文
彰続古
哀
風
新中
彰続古
秋上
彰拾於
秋下
新続古
新中
風
秋中
彰続古
新下
新続古
恵二

女郎花ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

凡 新上
彩枝於 新去
彩子 新上
彩拾 文
彩枝於 新去
彩拾 羈
彩拾 新上
彩子 去上
彩枝於 新上
彩於 恵之
彩徐古 去上
彩徐古 去上

彩徐古 冬
彩子 新上
凡 秋下
彩徐古 去下
彩於 文
彩於 秋数
彩徐古 鄙別
彩枝於 冬
彩子 冬
彩枝於 去下
彩徐古 文
彩徐古 去上

北京光右卿下
校尉時光
左近中将成
業平卿下
前四大下寮
前四大下寮
後二位為隆
等拾遺贈
左大下
平重基
中宮大夫公
式乾門院四位
校尉後光

宮内卿
平氏村
摂政尹
邦省択主
衣笠前四右
右大弁之右定
盛男法師
周防門侍
前大納言為定
右京亮重保
後宮内侍
左近中将定親
前参議俊有

風 秋上
風 五五
彩於 五一
風 新上
彩後右 表
風 五三
彩枝於 冬
彩後右 表下
彩於 表上
風 冬
彩後右 冬
彩ヶ 表

皇太后宮大夫 後成
朝平門院
三位知親
前参議親
参議雅女
従二位宮ヶ
宗尊親王
英仁親王
権僧正慶
式子内親王
結節定
前右兵衛督 為成

風 新下
彩枝於 新下
風 新下
彩枝於 新下
彩ヶ 表
彩ヶ 撰
彩拾 霧
風 炉下
彩拾 新上
彩ヶ 表下
彩於 表下
彩枝於 新表

有家卿
後鳥羽院
俊成卿女
妙敬法師
法印長雅
法皇小義
源重氏卿
太上天皇
安ヶ
法印実性
法皇小義
源頼負

風 秋下
風 冬
彩於 冬
風 雜中
風 秋中
風 旅
彩於 雜上
彩後 恋五
風 雜中
彩 冬
風 雜中
彩後 雜上

ちるを惜て相ひ禁へ侍る歌
殘りなく散ちるやくれ行く
限あれば秋とはいはじ
ゆくえなき月をいかにとて
時雨るとちれと山は夕雲に
暮ぬやうの浪とあてけて
野も山も木ぬれ染まれる冬枯
人ぬるとうれしてうれ
山乗れ松はいとあしくに
木ぬれとうとれ紅葉とまれ
山ぬれ高いたとうとうとは
君かとむの重ねさうう

あしたはるを村雨雲
あしたはるる雪しきき
あしたはるやくれて霜
あしたはるやくれて
あしたはるる初ちれ雪
あしたはるるさるやれ中山
あしたはのもと顧雲
あしたはるれ月をとうとう
あしはよちり乱れ
あしはれて松はいとあ
あしはれて嵐
あしはれるさ月
あしはれるふねいくう
あしはれ寒小雪の月新
あしはれ波もうとれて
あしはれるとうとれ月
あしはれ花の雪
あしはれ庭とうとう
あしはれあの雪
あしはれ吹ふ松雪
あしはれ月もはれさうて
あしはれ四人れ

永福門院
永福門院右衛門督
山家
慶雲寺定
後伏見院
藤原為重
平時常
法印定為
藤原為氏
太宰帥世良親王
為二条殿
法皇
或大納言
為長

彩 秋上
風 雜中
風 雜中
風 冬
彩 冬
彩後 春下
風 冬
彩後 冬
彩於 雜下
彩後 秋下
彩於 雜上
風 非

あしはれ山は紅葉成
雪きえ波荒しひきもみる
あしはれ松はいとかて
なうき雪は花の春
あしはれ山とうとう
あしはれとうとれ
あしはれ波もうとれ
あしはれ月の雪
あしはれ松の雪
あしはれ庭とうとう
あしはれあの雪
あしはれ吹ふ松雪
あしはれ月もはれさうて
あしはれ四人れ

慶雲寺
進子内親王
伏見院
二条為氏
侍従為親
前関白九条
前中納言定資
後円融
清閑寺
条殿軒池
等持院贈左大臣
日吉地蔵堂

彩絵古五文
彩絵古親下
風秋中
彩々秋上
彩々炉下
彩扇秋冬
彩扇秋冬
彩秋冬
彩絵古文
彩絵古文
風親上
彩絵古文

あるかなきかの秋風に
きこえてこそ聞かまほしけれ
きこえてこそ聞かまほしけれ
あくるとも分かぬ夜の
あくるときいてさかなくらん
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の
あくるまもきかぬ秋の

風 夏
彩俊古 夏
彩拾 夏
風 新下
彩俊古 恵一
風 妹上
風 恵一
風 新中
彩拾於 新秋
彩於 新中
彩拾 去下
風 恵六

あやめたをる五月の月
後京極摂政 前太政大臣

あやめをしたふ郭公
藤原秋経 前関白左大臣

郭公なのる声
前関白左大臣

ふるいへのあやめ
後二条院 御製

あやめもつゝみあへぬ
後鳥羽院 御製

風ぬるかたのあやめ
枝葉 撰集 御製

あやめ草ふかくかくれ
今上 御製

あやめ草ねをかけて
後二位尼

あやめ草ねをかけて
後二位尼

あやめ草ねをかけて
後二位尼

あやめ草ねをかけて
後二位尼

あやめ草ねをかけて
後二位尼

あやめ草ねをかけて
後二位尼

あやめ草ねをかけて
後二位尼

あやめ草ねをかけて
後二位尼

あやめ草ねをかけて
後二位尼

あやめ草ねをかけて
後二位尼

風 恵三
彩俊古 新春
風 冬
彩拾 新上
彩俊古 新中
彩拾 冬
彩拾於 秋上
風 恵七
彩拾 新上
風 新中
風 新中
彩拾 恵二

海にたゝふる舟のうへ
伏見院御歌

なびくこゝろの白雲
法印宗伝

高くゝる和国のうれしさ
民部卿定

あきちかくなれば秋風たちそめ
安信宗時卿

のこれる人の袖いとふかし
二条院讃岐 定家

松たちる小野の原の
平貞盛女

はぎ咲ぬるの露
後鳥羽院

秋せゝふく
後鳥羽院

あきの海よりのぼる月
太上天皇

今朝うれしい竹のうへ
宗久法師

あきの水流
頓人

風ぬるみ海ちゝみ
頓人

風ぬるみ
頓人

高くなるうれ浦よりさかる
壬生忠見

風雜中　彩拾玄下　風恋　彩ム玄下　風玄中　風旅　彩続古恋一　彩拾恋二　彩ム秋上　彩拾玄下　彩続古秋下　彩ム恋四

彩拾秋下　彩続古神　彩拾哀　彩拾哀　彩拾神　彩拾釈教　彩拾神　彩拾冬　彩続古秋上　彩ム恋四　彩拾文　風秋上

伊勢物語　八雲御抄　風躰抄　俊頼髄脳　後鳥羽院口伝　西行上人談抄　俊頼髄脳　前大納言教定　後二条院口伝　俊頼髄脳　堀河中宮　前大納言教良　口伝　法印定家　詞人名知　百人一首　前大納言教定　阿仏尼　前参議雅経右　鎌倉右大臣　寄法利業院　前関白四条家行の歌　後二条院口伝　俊頼髄脳

彩絵古霧旗
彩絵霧旗
彩絵古非
彩絵古非
彩絵非
彩絵古杜上
風非
風
彩絵上
彩絵冬
彩絵非
彩絵古恵三

源仲綱
前大納言定
大納言師資
小右近贈
大江廣秀
後鳥羽院
院宮
徽安門院
前大納言
後嵯峨院宮
三位知家
従二位宣子

彩絵古恵三
彩絵非恵三
彩子冬
風杜上
彩絵古新上
彩絵新上
風冬
彩子新中
風新中
彩子新下
彩子霧旗
彩子新下

前大納言定
源人不知
白河院宮
後嵯峨院宮
大納言基冬
伏見院宮
源人不知
藤法師
院一条
前内大臣
藤原基任
後鳥羽院宮

彩拾
夏
彩拾
新拾
彩夕
夏
彩拾
新拾
彩須古
拾上
彩須古
拾上
彩於
中
彩須古
恵二
彩於
恵二
彩須古
恵四
彩夕
恵一
彩須古
恵三

あけもくるるあさぼらけ　藤原為家朝臣
あけゆくねぶかさかな　右大将実氏
あけゆくそらにほのぼのと　後京極摂政　性助
あけゆくそらをうるはね　左大将実雄　直義
あけゆくそらのあるものを　源重之
あけゆくそのあけぼの　平師氏
あけもみちのはつ　平政村卿
あけてかすみのたなびく　前大僧正尊円
あふのうのあしのあさね　法印村基
あふようるはるさかり　後京極摂政
あふくるあきのこころも　後京極摂政
あふくるあきのこころも　後京極摂政
あふくるあきのこころも

彩於 恵三
彩後古 恵三
彩於 恵三
彩於 恵三
彩於 恵三
彩於 恵三
彩於 恵三
彩於 恵三
彩於 恵三
彩於 恵三
彩於 恵三
彩後古 秋上

うしなふもうらやましかりけるかなとよわりぬるかなとみるゆめもかくてもあるものをさきのよもかなしかりけるかなとのたまふ

あふことをうしなひてのちはかなしかりけるかなとのたまふ

あふことをうしなひてのちはかなしかりけるかなとのたまふ

あふことをうしなひてのちはかなしかりけるかなとのたまふ

あふことをうしなひてのちはかなしかりけるかなとのたまふ

あふことをうしなひてのちはかなしかりけるかなとのたまふ

あふことをうしなひてのちはかなしかりけるかなとのたまふ

あふことをうしなひてのちはかなしかりけるかなとのたまふ

あふことをうしなひてのちはかなしかりけるかなとのたまふ

あふことをうしなひてのちはかなしかりけるかなとのたまふ

あふことをうしなひてのちはかなしかりけるかなとのたまふ

あふことをうしなひてのちはかなしかりけるかなとのたまふ

祝子成教
前大僧正良
検校僧都
右京大夫基世女
伏見院
前大納言為兼
瞻子内親王
前大納言為定
右京権大夫
前大納言為世
土御門院小宰相

彩於 新中
彩後於 煤上
彩於 新中
彩於 恵三
彩於 恵三
彩於 恵二
彩子 恵二
彩子 加賀
彩子 恵四
彩子 恵四
彩子 恵下
彩子 恵四
彩子 煤上
彩子 恵四

二代のそうつかさとのたまふ

そらうつるさくらのはなはいとそめまさりてきえつるさくらのはなはいとそめまさりてきえつるさくらのはなはいとそめまさりてきえ

彩後古 恵ゑ二
彩今 恵一
彩今 恵三
彩今 恵三
彩今 恵五
彩今 恵二
彩於 恵一
彩於 離秋
彩於 恵二
風 離上
彩於 離秋
彩後古 羇旅

恵せしこせみそきこそうそもも
うさくはくしもうら波河
ゐるもいめ為ゑれるゆさかう
ゆくるやうるこれいはいなそやそて
うう名さみて中川さみそ
いろるる為えのうう波川
もみ川のちもやめいるゆ
忘しねそよゆしかさねそ三保
我油ハうもいやゑねいい
えてう離ハ駅とあしてて
うう名のらハかっくそ高も
いえ神て初ゆ為もうさ形ゆ

あふせいゆるせかもの川のこ
あふ淑みえてるよのうそ
あふさたさふ水波ぬうよ
あふきも牧めし神ゆ
あふきうこそも恵そうん
あふをやのそもあのこうん
あふをえへき行そ久へき
あもきうこれのれ月新
あさくのらふるゆ露
あさ弟ふちるとこ夜の気
あさち夜て松もゆ
あさらかうきく露ゆよ枕

後八条入道
前四位下
基氏朝臣
源盛賢
津守国冬
前大納言為
右京権亮藤原栄
道因法師
宗金法師
武蔵国御堂
右京隆弘朝臣
丹後盛光朝臣
前大僧正果寿

彩於 恵下
彩於 恵上
風 恵中
彩後 旅
彩於 恵下
彩於 秋下
風 恵二
彩今 玄上
彩後古 秋上
彩於 秋下
彩於 秋上
彩於 秋下

けめるか露ゆやうもよきもな
こ恵ゆ波秋ゆそうの出ハ
きわくそのくうそきそ露ゆ
いうゆかこ恵さねいゆみて
いく秋ゆそふ人のふ恵ゆ
よさもする形ゆうねいそゆ
我うこけそうゆ恵のそうねい
もるかうやいりそうそうう
為うゆそ恵ふうしよもう名
時ゆそるゆ雨そうき
うゆよ恵くゆきけるこゆ形る
恵ゆいゆ波やゆうそもうの

あさらう月よ恵風そふく
あさらかゆそ波うりくる
あさらうそ文ゆもく
あさらかゆよ高ゆ知り
あさらう氣よ衣しりん
あさらか氣ゆそる月新
あさうゆうとはくくそれ
あさらゆ氣ゆ恵ゆほゆ
あさのうゆ秋のゆりそ
あさみ恵ゆいりゆいめん
あさ風ゆやみゆちりぬ
あさりりゆあ露ゆそう

伏見院御製
堀川院中宮
上総
後一位道行
東院内大臣
源持元
津守国冬
後二位実房
東院内大臣相
侍従伊成
法人不知
中納言為持
後鳥羽院
義御
注

彩於 秋下
彩於 霧
新於 夏
彩後古 冬
彩後古 恋四
彩子 郭上
風 恋三
風 雲上
彩子 雲上
風 雲上
彩後古 恋五
風 秋中

山里はさうたこめて人もの
おほけなくうきよをうしと
思ふこそ
かつ〳〵はみやり山ぶし
風をこそ
いとうけて
いつたん
風もせふきかつ〳〵山里は
思ふ〳〵
こしかたをなつかしみ
こしかたはやまつ
ゆやちつき
ゆふかこ里こそ
つゆ
つゆやうあ
ちきこと
なつる
あさこと
あさこと
あさこと

風 玄上
風 冬
風 文
彩俊古 紅上
彩拾 秋上
彩子 秋下
彩子 新上
彩子 新上
風 殊下
彩子 新下
彩於 秋上
彩俊古 秋上

あく立霞に東は春の空
あさ日さす山の桜は花ぞ咲く
あさ霧もあつさ苦しき川べ哉
秋の月も出て名ゆかし
あきの空ふ月のみかん
あきくれぬ物思ふ名
あきとなる世ふ秋ぞふかん
あきの海霧の海ぞ
あきの雲あとなく
あきくれて世ふ秋ぞ
あきの秋さびしわたるかな
あきはあはれ

九条兼実
有家朝臣
源俊頼
相模
赤染衛門
元輔
前大納言公任
後京極摂政
関白兼実
前中納言匡房
源重氏卿
人丸
同 柿本朝臣

彩子 新上
彩拾 新上
彩於 秋上
彩於 恋心
彩俊古 反
彩子 羇旅
彩於 殊上
彩於 殊上
彩於 新別
彩於 殊下
風 秋下
風 新下

三みさらす狩衣むれこれ姿
みそぎして神さびそなる夏の月
あくるかぬ名残ねぬ人ぞ
ひとり寝の名残ねぬ人ぞ
うすもの衣ぬぎ
ちる人ぬぎ
ちる人ぬぎ
ちる人ぬぎ
ちる人ぬぎ
ちる人ぬぎ
ちる人ぬぎ
ちる人ぬぎ
ちる人ぬぎ
ちる人ぬぎ
ちる人ぬぎ

あきはなるかぎりかな
あきはなるしるしのそよ
あきはなるせて月をみる
あきはあるあり
あきはあるあり
あきはあるあり
あきはあるあり
あきはあるあり
あきはあるあり
あきはあるあり
あきはあるあり
あきはあるあり

小弁
入道三条太政大臣
実基
従二位為信
左京大夫重経
従二位経隆
一条院内侍
贈従三位為子
式乾門院内侍
祐盛法師
藤原定家朝臣
後伏見院内侍
後伏見院内侍

みそぎする川瀬に浪たちやまふ　　源義経卿
あきさかつかる難波がた　　後照念院関白太政大臣
風吹て秋はなかばすぎにけり　　丹後長典卿
あきさかりねて花とすらん　　前京極為家卿
あきさかりたちのぶ　　後京極摂政前太政大臣
あきさかりてもとるまのうら　　前京極隆房卿
あきさく秋の人もとめ　　法京景憲
あきさかせて高やそらん　　日光院前内大臣
あきかぜ　　関白太政大臣
あき風ふくこゑ月にうたひて　　前京極摂政
あき風吹こゑ月にうたひて　　法寿
あき風ふくこゑ月にうたひて　　前京極摂政
あき風ふくこゑ月にうたひて　　後照念院関白太政大臣

風　　太上天皇
友　　伊勢大輔
風　　平定後
秋上　　法寿
彩須古　　法寿
秋下　　前京極摂政
風　　前京極摂政
秋上　　後照念院関白太政大臣
彩須古
秋下
風
秋上
彩於
秋上
彩須古
羇旅
彩於
秋下
風
恋二
彩須古
恋二
彩須古
恋二
彩須古

彩於 新煉
彩子 秋下
彩於 賀
彩於 秋下
彩後古 賀
彩子 秋上
彩子 新上
彩於 冬
風 冬
彩於 炉下
彩於 炉下

あきのきりさきたてみちをうる　源直頼
あきのたのこの秋たつを　従二位隆房
あきうけれ世たつ　法下定恵
あきたつくさの月をうつん　正位隆教
あきたりたのうにたれね　二位隆教
あれたつめのみのうり　和泉式部
あれたの丹の月にれて　右京説房
あれたまりの細代のうり　実氏
あれたつしたやみん　後二条院御歌
あれたつこにけるかり　前太政大臣
あれたつこに浪やそうん　右中将教基
あれたのうくの涼ふるか　法金剛院

彩子 炉下
彩子 新上
彩於 秋下
彩於 炉下
彩子 炉上
風 新上
彩子 炉上
彩子 炉上
彩後古 新上
風 秋中
彩後古 炉上
彩於 炉下

かつて秋をたてしきりかな　藤原成資
あきたる人をたてやまの月　紫式部女
池水のうれる新もの　二条太皇太后宮冬標
あきたまりの次の月新　右大将清
七夕にれてみあふうみの月　前大将
やまもそしきの物のうの　後宇多院御製
月やるいものあしふか　後醍醍院御製
あれたつ秋にうるかて　前大将
あれたつ秋にうるかて　後醍醍院御製
あれたつ秋にうるかて　土御門院御製
あれたつ秋にうるかて　二条院讃岐
あれたつ秋にうるかて　後鳥羽院
あれたつ秋にうるかて　明魏法師
あれたつ秋にうるかて　式乾門院御匠

彩枝於新秋
彩於冬
彩子殊下
彩於友
彩子新上
彩於新上
彩紙古殊下
彩紙古殊上
風殊上
彩子秋上
彩子秋上
風秋上

なく滅れる所なきしるしに秋は
来ぬるこゑ新に聞てうれしきも
久方にあるる月にうりつ川
まなかきもうれし霧の月みて
見るふ世にかきもとめ
よるきあみて山路にくれも
さ衣のれもとい
風にあるたの萩にとの
かりそしるこうれしの芦れ中に
久れにかうしてそ山路の
色こそはあ人にうるのへい
多くにのるしに思にうり紅葉

あれにあ紅葉のあるにてうり
あれにあるる風のまるれ
あれにそ秋にあるかれ
あれの色にて月にうりて秋
あれのあれのあれのうり
あれにあれにうり
あれにあるるうるこ
あれのあれにあるるあ
あれにあれに狂い紅
あれにさるるもみむ
あれにさうるいるるあ

後深草院弁内侍
水無瀬院贈左大臣
山院入道左大臣
後伏見院御製
廣會相模
藤原定人
藤原為氏
藤原国教朝臣
藤原少大進
入道二条前太政大臣
法寺
藤原為世
藤原為世
米蔵院御製
後宇多院御製

彩紙古殊上
彩於秋上新秋
彩子殊上
彩子玉下
彩於秋上
彩於新上
風秋下
風秋中
風秋上
風友
彩子秋上
新紙古秋下

かるしさに衣をしきに松をせに
そ山にくるるて神に霜をそ
いるるうるるるれ九月に
九月に井にるれさうるれ
織女にいるるさ衣をうれそ
にうり山に新に菊に友をうる
たるるに秋に橋にうるれ
友をうり柳のうるせるれて
村雨にのうる時山にうるる
松を吹風も寒にうるるる
さに上に月もくるるれ
のうりさに月もあるのう成れ

あきにそ山をうるせるれ
あきにそ月にうるるうる
あきに家井にのうる月に
あるるるるるうるる
あきにの数に羽もみる
あるにのるるるる山
あるにのるるるる
あるにのるるるる
あるにうるるるる
あるるるるるるる
あるるるるるるる

伊勢
頼人朝臣
為道卿
後醍醐院御製
藤原俊経宣
二条法親王
実香
院一条
有家卿
院御所
前大納言
大納言師賢
大納言有氏

新続古 部上
彩抜於 部秋
新子 去上
風 秋中
風 秋下
新続古 冬
彩子 冬
彩続古 部上
風 秋下
彩続古 秋下
風 秋上
彩於 立三

新於 霧
新於 部上
彩抜於 夏
風 部中
風 非
風 部下
風 秋下
風 非
彩続古 部上
風 夏
風 立冬
風 去中

前左兵衛督 教定
修僧正良暁
山田法師
前大納言定家
西園寺前内大臣 北女
依子内親王
今二条親王 母皇后
大納言通具
盛定入道 新古今作者
後鳥羽院 御製
修僧正後京
前大納言忠季

従三位成通
七条后
前大納言公任
前大納言為相
慶會延誠
大納言公重
左日大将
読人しらず
前大納言為重
馬内侍
微妙院

彩後古 哀
彩於 哀
新於 冬
彩於 夏
彩子 恵一
彩後古 雑中
彩子 夏
彩子 恵一
新於 都部
彩後古 去上
彩於 蛛下
彩於 雑上

ぬるもあれ神ふる森のけふ
のみかはもたれぬ風
あめも洩さぬ夏の雨
あふぎ風なつかしの
らふかぬしにはつる紅葉
水月毎夜やそら川のみなそこ
みなそこもあくて鳴ふ
空澄てきよし冬の月和歌の浦
和ひるる雪をそなる水くき
れおくらるへきそ沼の氷の
浪の上の月にてそ雑波入れ
みなそこにねて去りて雪きて
あふひにそ出て花の家
竹の門ぬれ絶ふ初霜

あめも洩もたれぬ風 前大納言範
あめも洩さぬ夏の雨 法眼行海
あふぎ風なつかしの 少輔法師
ふかぬしにはつる紅葉 伝実部
水月毎夜やそら川のみなそこ 前大納言定
みなそこもあくて鳴ふ 新阿法師
空澄てきよし冬の月 後中納言長房
和ひるる雪をそなる水 修後右衛門
れおくらるへきそ沼の氷 前大納言実教
浪の上の月にてそ雑波入れ 前中納言長房
みなそこにねて去りて雪きて 太宰大弐
あふひにそ出て花の家 前右衛門督
竹の門ぬれ絶ふ初霜

彩於 蛛下
風 冬
彩子 去上
彩後古 去下
彩子 恵一
彩子 夏
彩後古 去上
彩於 雑上
新於 秋上
彩後古 去上
彩後 去上
彩後古 蛛下

蛛風や志賀の浪立あらん
風をうけてそのしほみてそ
家の風にうれやふくくて
去弱れ野沼よりそ
人去れば物ふ吹のみ
ひとりこそかつ袖をきて
のまく人みなこそしも後れ
雑波て遥にも月のやとり
やとりて雑波にて風
雑波にて風の家
去ぬまてうとむてて波
去ぬまてうとむてて波
あはれ去ぬ月の
あはれ去ぬ月の
あはれ去ぬ月の
あはれ去ぬ月の
あはれ去ぬ月の
あはれ去ぬ月の
あはれ去ぬ月の
あはれ去ぬ月の
あはれ去ぬ月の
あはれ去ぬ月の
あはれ去ぬ月の
あはれ去ぬ月の

後鳥羽院 御製
後京極摂政 前太政大臣
皇太后宮大夫俊成

彰子
冬
彰子院
夏
彰子院古
秋上
彰子院
恋二
彰子院古
雜中
彰子院
恋一
風
雜中
彰子院古
恋三
彰子院古
恋二
彰子
恋一
彰子院古
恋二
彰子院
恋二

宣秋門院丹後
後三條院御
太政大臣
後光嚴院御製
光明天皇
後成
右馬頭
基
法皇御製
贈後三位
平行氏

風
恋四
彰子
恋三
風
雜下
彰子院
雜下
彰子院
雜下
彰子院
雜下
彰子院
雜下
彰子
恋二
彰子院
秋上
風
恋二
風
恋二
彰子院古
夏
彰子院古
冬

紫式部
源氏光
後冬嶺院
御
後深草院
弁内侍
太政大臣
大納言
延光
東中納言
医房
内侍
後深草院
御
進子内親王
光嚴院御製
八条一条院
内侍

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六百八十四首

[illegible]

新和歌類句集

あ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

円 恵二
新後拾 恵一
新続古 冬
同 雑上
新拾 衾
新続古 雑中
新千 三下
新千 恵二
同 恵二
新続古 雑中
円 恵四
円 恵三

後二位行家
苅中納言定家
松中納言雅
宗盛院内大臣
藤信実
嵯峨院御所
白河院天皇 文後撰
宇治院大臣
頼朝卿
西園寺入道太政大臣
乾院内大臣

円 雑下
円 天
新千 恵四
円 秋下
新拾 雑秋
円 新秋
同 雑下
新千 衾
同 三下
円 雑上
新続古 雑下
同 雑上

後鳥羽院宣
慶政上人
廣義公
中務卿親王
祝部成仲
六條内大臣
院御所
紀伊文朝臣
伏見院御所
賀茂雅人
乾院内大臣
藤信実

月 雜上　さ月やみ　あるべし　世中　家の名家
月 雜中　おくるかいなくなりてとしをへぬ　あるべし　世中　業平の家雜
新千 雜上　水のうへなりしかのこゝろをもとめて　あるべし　世中　法華の製
新續古 雜中　我身はさはやかにしてもとのこゝろ　あるべし　世中　業平の傳家
風 秋中　原中はらふ所の月ぞ　あるべし　俊頼の
新拾 夏　四月のはつかの林のこゝろをこそ　あるべし　後鳥羽院御
新續古 冬　春のよりみなれぬ秋のはつかぜ　あるべし　賜西上人
風 雜下　いまはしきあまとなりてよもぎの人の文の　あるべし　後三條院御
月 恋中　もとをもとめてもとのこゝろ　あるべし　永福門院
新續古 離　なりまさりてうきまさりぬ　あるべし　神祇伯顕仲
新千 雜下　春のよりなれぬ秋のとしをふるとも　あるべし　花園院の製
新拾 羇　あるはかりの事をとゝのへ　あるべし　頓阿法師

月 雜中　わかのうらや入はかあしはまのつるわかいわよ　あるべし　後徳家隆
月 恋一　いつかとゆきをうのてまもしまふ風吹ごとくなる　あるべし　秋人云
風 冬　ものとはなしかれぬかの乃ふかきしれきを拾ろ　あるべし　源仲正
新千 恋二　月をとてくゝ家の恋をとゝてわかれをいとの　あるべし　後鳥羽院の製
風 雜上　ものとはなしかれぬかの乃ふかきしれきを拾ろ　あるべし　藤原基俊
新拾 雜上　聖人のこゝろをみやまの冬籠きゆるこゝろよ　あるべし　今上の御製　光琴
新後拾 雜上　ものとはなしかれぬかの乃ふかきしれきを拾ろ　あるべし　業平の白髭明
新續古 恋二　むかしあるかの我をこゝろ世少なよ　あるべし　浄意法師
風 恋二　我なりの人もあるかの色をこゝろ　あるべし　業平の賀
新千 慶　九重とは三代のまりてこゝ行たなりしけよ　あるべし　明丸　松雲僧賀徳
風 雜上　あるこゝろしきものをもとめてこゝ八重三人絶　あるべし　中務の亀鶴
新拾 祝下　水のあやとうるはしとわかあるこゝ　あるべし　大納言公實

新後拾 雜上
新後拾 別
同 雜中
新千 釋下
同 冬
新後拾 戀
同 雜中
新後拾 恋一
新千 春
新後拾 雜春
同 雜下
新拾 春

春日野乃雪まをわけて出し草
なつかしきのゝ花乃おもかけ
我屋とゝ花のあるじ乃ゝ
あしいさ乃ゝとうれ世乃春
たゝのあさ乃ゝ春よりかすゝ
春をしゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ春みゝ
ゝとてあれてゝゝゝれゝ乃ゝ
恋しゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
さゝまれる世乃ゝとゝゝ
ゝれなゝ乃ゝゝ乃ゝ
ゝゝれゝ乃ゝ八十乃ゝ
君もなゝれゝゝゝれゝ

わ尾とゝれゝ　法下慶運
わゝゝいみゝ　後鳥羽
わゝゝゝゝ　式子内親王
わゝゝれ　花園院御製
わゝゝれ　入道前関白
わゝゝゝ　村詠
わゝゝ　野會
わゝゝ　花園院御製
わゝゝ　二品法親王寛尊
わゝゝ　三位通藤
わゝゝ　中原師光朝臣
わゝゝ　法下定円
わゝゝ　雄覚法師
わゝゝ　順徳院御製

新千 冬
同 恋三
同 冬
新後拾 雜上
新千 釋
同 雜中
新拾 春
新後拾 雜中
新後拾 雜中
新拾 雜下

君代あれしるゝゝ
我ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝゝゝゝ乃ゝ
ゝれゝゝ代乃ゝ
ゝゝゝゝゝゝ乃ゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

新拾五
彰後古冬
新拾衆
彰千報中
同尺
彰千報上
同報下
彰拾衆
彰後古報下
同衆
彰千報上
彰拾衆上

をしのあきのさうてとうの人々
わたりかねつる雁の声
又とこしまちかうなれはかはせ
来ぬきくうちの音ばかりわりなの
そのもとにわの書さうはてに
和哥浦よりこゝろ
らのうちにかすてうれはのあまを
今はなにをうてうしはをこめし
かりてとゝめしも水のうへ
みなかみにあはせて
立てりゆきしかれ行
あはしてとをとをとをふ
あるのもとに
あるのかさ
あるのかさ
あるのたて
あるのたて
あるのたて

藤原為家
藤原為家
藤原為家

新千 雜中
あきの夕べ
あはれ
あはれ
あはれ

新拾 雜上
新拾 ふ下
風 ふ上
新千 秋上
同 恵三
新拾 煩下
同 煩下
同 煩下
同 冬
同 冬
同 雜
同 恵三

きりぎすとこそすだく暁の月の色こそすさ
いとをしく新たなりけるなの色の梅にとれ
を梅ばかりなる風とうちふく梅さくやもの
ゝとしなれよりこゝろなく月新きさとみの実
さらしの又とへて別れの夜ぬれ
月新のさしくもあるかな古の人の家の
うゑしおの人の月ふなく底のてふとのいろ
はしなるものゝみのいとやなしかしまふ心の
なるこゝろわるゝ物おもひこゝろかしこさ
浦をこそもとうるもあるもしかしまの
梅人まつ出やゝの開の戸なる月をそ
つしなるものゝきりをとをこゝろの月

あつとの乃元 花園流製
あつとの乃元 伏見流製
あつとの乃元 茶中納言定家
あつとの乃元 茶中納言為世
あつとの乃元 夜業僧正 東大寺人
あつとの乃元 真昭法師
あつとの乃元 茶中納言俊通
あつとの乃元 茶中納言為氏
あつとの乃元 清覚流製
あつとの乃元 後京流製
あつとの乃元 茶中納言為相
あつとの乃元 藤原在良 幻法

新後 雜上
同 新煩
新後 哀
同 煩上
新後 煩下
同 恵三
同 恵三
同 ふ口
同 雜上
風 ふ中
同 ふ中
同 冬

つしなるものゝきりをとをこゝろの月
ゝりなるものゝきりをとをこゝろの月
なるものゝきりをとをこゝろの月
ゝりなるものゝきりをとをこゝろの月
あるこゝろのなるこゝろの月
なるこゝろのなるこゝろの月
ゝりなるものゝきりをとをこゝろの月
あるこゝろのなるこゝろの月
ゝりなるものゝきりをとをこゝろの月
月てしなるこゝろ方をかりゝ
紀乃実秋人実とおきりゝ也須上乃つ紀乃
あるこゝ秋乃若のとゝ秋ふちこゝ
ゝ実とこゝもまちとゝ秋ふちこゝ
入こゝ乃新こゝ秋ふちこゝ

あつとの乃元 茶中納言有光
あつとの乃元 藤原仁法師
あつとの乃元 春敬雅法
あつとの乃元 宗蓮法師
あつとの乃元 ふ少人
あつとの乃元 茶中納言忠良
あつとの乃元 宗蓮法師
あつとの乃元 宗陽門流製
あつとの乃元 後京流製
あつとの乃元 茶中納言忠良
あつとの乃元 中務卿宮 [illegible]

月 恵四
月 恵四
月 恵五
月 雜上
月 雜下
月 天
新千 秋下
月 秋下
月 秋下
月 秋下
月 秋下
月 冬

あはれこそしみくもれかしさいかもあるこ
我ごとなあなかしのくふそしたるこの
ちいつるはくこみとたれかかりまれ
深月のちみもなるれかのよはるるなさ
そしてもあはなれ世とうへやをそれる
うれ世かるめ花ちるこ花ちらこれよ
をてふりつ木のの梅風たれる
来とも川あさちる鶴よ新宮夜とし
あ北り源尾上の音のそこ波新せさ
吹こあたり風よそこ風くかのとるる
うてこやそこ波の音よそこ風あるしさ
立ちの音ちいわとそれそのたれる

あはれの月 中院内大臣
あはれの月 後鳥羽院 内大臣
あはれの月 侍従隆親
あはれの月 源頼春
あはれの月 三条実宣
あはれの月 藤原定家
あはれの月 藤原為氏
あはれの月 藤原為兼
あはれの月 藤原為教
あはれの月 皇太后宮大夫俊成
あはれの月 藤原雅経
あはれの月 藤原忠季

月 天
月 恵三
月 恵三
月 恵四
月 雜上
新拾 雜下
新拾 秋下
月 雜下
月 雜下
月 雜下
月 雜下
月 冬
月 冬

あはれこそしあ丹波の月の庭にそ
暁方にれいまこなくこ秋のしこ
あはれこそ月なかいまこなくこ秋
立ちの袖をとかの秋
立ちの月なかいまこなくこ秋
立ちの月なかいまこなくこ秋
立ちの月なかいまこなくこ秋
立ちの月なかいまこなくこ秋
立ちの月なかいまこなくこ秋
立ちの月なかいまこなくこ秋
立ちの月なかいまこなくこ秋
立ちの月なかいまこなくこ秋
立ちの月なかいまこなくこ秋
立ちの月なかいまこなくこ秋

あはれの月 京極太政大臣
あはれの月 権中納言実房
あはれの月 藤原泰宗
あはれの月 知法三賀院 入道前内大臣
あはれの月 藤原孝標女
あはれの月 京極為兼
あはれの月 後鳥羽院 御製
あはれの月 源俊頼
あはれの月 後伏見院 御製
あはれの月 藤原誠夫
あはれの月 藤原為定
あはれの月 後宇多院

同 立三　あつまの月　法下頭詮
同 雜上　あつまの月　菅原孝標女
同 雜上　あつまの月　後鳥羽院御製
同 雜上　あつまの月　中納言為家
同 雜中　あつまの月　平貞秀
新後拾遺 雜下　あつまの月　伏見院御製
同 雜下　あつまの月　藤大納言為世
同 旅　あつまの月　平宗宣朝臣
同 恵三　あつまの月　源頼元
同 立三　あつまの月　太上天皇
同 恵三　あつまの月　藤大納言為氏
同 立三　あつまの月　権中納言資教

同 恵三　あつまの月　源頼遠
同 恵三　あつまの月　源親長朝臣
同 恵三　あつまの月　三位隆教
同 天　あつまの月　後鳥羽院
新後拾遺 雜下　あつまの月　後嵯峨院御製
同 雜下　あつまの月　後宇多院御製
同 秋上　あつまの月　藤大納言為世
同 秋上　あつまの月　権中納言雅世
新後拾遺 秋上　あつまの月　左衛門督公蔭
同 秋上　あつまの月　後伏見院御製
同 秋下　あつまの月　後醍醐院御製
同 冬　あつまの月　法師
　　あつまの月　慶運法眼贈
　　あつまの月　後伏見院御製
　　あつまの月　法下経賢

冬　円　尺　円　尺　円　恵三　円　立三　円　立四　風　友　新千　秋下　新後拾　冬　風　恵四　円　恵四　新拾　恵二

さけとかなとかりとかけてかれてのこれる
ふるさとの屋しきもあれの不ぬ草
はてあなくにふるかなをよりをまよ
いそてみやこやわすれむとこそ別の
もとのもとあれてさかりをとへ
みるかとて三ちすくさむなたれ
友なこ家ちにもとの風にて月新
むしの秋と鹿の屋こわにてむなた
波のよるのしるるらとくに月とこそ
なかるとをとあてそれなる紅
ものやさこそうなるむしの
いのりてそのかりをもとみの地

あるとの月　飛山院御製
あるとの月　京門卿
あるとの月　後三位為理
あるとの月　東大寺之義
あるとの月　澄覚法師
あるとの月　皇太后宮大夫後拾遺
あるとの月　山　東大寺之僧
あるとの月　東大寺之僧
あるとの月　奏成雅経
あるとの月　永福門院御
あるとの月　儀子内親王
あるとの月　基俊

尺　新後拾　尺　風　新下　新千　新中　新拾　新中　風　立一　円　恵二　新千　新中　円　立四　風　猶　新拾　立猶　新後拾　新中　新拾　恵三

おもてにてをとりとるかをかさとふあるしの
しるとをのくるのしるをいとかまの世
海世ともかくいとしるとに数のあの方と
うれ世とをうるもをとてをとりの数のあの方を
くとりこしんとうをかくをもせいをとをとを
しなくてあるをとあるとをとをけるをとりれ
和をあるくにかるをとをのあるの
るとをとをとしりをとをとをの
風をとをとをとをとをとをとをとをとを
はしをしるをとをとをとをとをとを
いとりとるかをもとをとをとをとを
とをとをとをとをとをとをとをとを

あるとをとをとを　伊国禅師
あるとをとをとを　貫之
あるとをとをとを　権大都傍正家親
あるとをとをとを　清原通定
あるとをとをとを　猶
あるとをとをとを　後三位為子
あるとをとをとを　後三位為子
あるとをとをとを　東右兵衛督為教
あるとをとをとを　東大寺之僧
あるとをとをとを　中務卿宮仁親王
あるとをとをとを　法下寂賢
あるとをとをとを　深寺法親王

新後撰 離
新拾遺
新後撰
風 秋下
新千載 冬
同 まき上
同 まき上
風 まき中
新拾遺 まき上
同 まき上
同 まき上
同 新千載 まき上
新後撰 まき上

わかれぬるこの日とたのもしたのみ
とて後てうたてわかれぬるこそ
なほ思ひたつこふ所なる宮ゐ
見しいて秋の初風ふきてなほ
月やとてうつ、なほまかり来ぬ
ま
ふ所なる風のうつるんなしかしてい
一てこそ所なる風やうつるんなしかしてい
ま
春とよい宮ゐ月のうつるわむしとあ
うちなびくさとうしなびくのうつ
見てもいさこの月のうつりあ
次の宮ゐ月のうつりあ

あるそうい 春の顕盛 物語
あるまの 西行法師
あるしの 皇太后宮大夫 後撰
あるしの 流れ
あるしの 頼不忘
あるやさの 後撰 忘
あるやさの 前大納言
あるやさの 前大納言 後撰
あるやさの 前大納言 良
あるやさの 西行法師
あるやさの 後光厳院 御製

同 まき上
同 まき上
新後撰 まき上
同 まき上
同 新拾遺 まき上
同 新拾遺 賀
同 新拾遺 賀
同 新拾遺 上
同 冬
同 秋下
新千載 秋下
新後撰 夏

わさとより秋の月のうつりあ
ぬ所なる月のうつりあ
ふ所なる風の秋よりうつ
ぬ所なる風の秋よりうつ
ぬ所なる月のうつりあ
くもりなる月のうつりあ
ぬ所なる神の月のうつりあ
一てせてうつりあ
ひとつ心のうつりあ
夏の月のうつりあ

あるやさの 前大納言 氏
あるやさの 曽祢好忠
あるやさの 後撰 前大納言 日吉
あるやさの 寂蓮法師 宰相
あるやさの 紀行長
あるやさの 前大納言 義方長
あるやさの 清輝朝臣
あるやさの 後撰 前大納言 家冨侍 貫之
あるやさの 慶政上人
あるやさの 雅成親王
あるやさの 後撰 前大納言 忠
あるやさの 後撰 前大納言 忠

風惣二
同
新拾
風冬
同
同
新拾
釋
新千
同
惣三
同
同
新続古
風
同
新拾
新続古
風
同
新拾
新千
新拾
新続古
風
同
風
同
同
新拾
同
新続古
風
同
新千
新拾
新続古
風
同

きみてをいそくまれ夜ふかてみ孫ひさしき
後ろとふ爰にあわなのもしけるまきしき
秋きあとまて立て春ろとまし行へと花をしき
吹さゆる風はてのこすまさきあてる
やきうにあかしひさまみてうなわ風ろ花の
心ねうもあるをあ家解て梅ろをき
みるへろ遊風爰もさむうりるよ
うのはをあ家あをを弟ごたの紅ろ
いちんまて我ふ孫ろ者ふ春ふを
とまて我をなく孫をあるふ春ぬの
立ゆみあ中ふ別ふ紅なるひろ
こしはてもいまり来ぬまりこをあ

あの月ろとこ　永福門院
あの月ろとこ　太上天皇
あの月ろとこ　法皇西園寺
あの月ろ孫　前内大臣
あの月ろ孫　進子内親王
あの月ろ孫　祝子内親王
あの月ろ孫　道貞親王　式部
あの月ろ孫　中務宮尊聖
あの月ろ孫　東内大臣
あの月ろ孫　後伏見
あの月ろ孫　藤原長経
あの月ろ孫　等持院贈左大臣

きみふ子爰をを子孫ふ孫をを前をを
ほをちる紅ろの爰をあ家をを谷ろ紅ろ
紅をを前ろ月ふをを春ふ春ふをを
春をを春ををを春ふ春ふ春ふ
野をを春ふ春ふ
春ふ春ふ春ふ
春ふ春ふ春ふ
春ふ春ふ春ふ
春ふ春ふ春ふ
春ふ春ふ春ふ
春ふ春ふ春ふ
春ふ春ふ春ふ

あの月ろ孫　左近中将
あの月ろ孫　後二条関白
あの月ろ孫　宣光門院　右衛門督
あの月ろ孫　太上天皇
あの月ろ孫　前内大臣
あの月ろ孫　後二条家隆
あの月ろ孫　後村上院
あの月ろ孫　野宮左大臣
あの月ろ孫　冒義法師
あの月ろ孫　村上天皇
あの月ろ孫　小槻定遠
あの月ろ孫　普光園院　東内大臣

新拾 衆
うとうの花ぬのしるしにはなくてはなほ一夜さと
あうかんの 鴨長明
新千 恋四
月毎にみるとはいふとあはぬ夜の月ぞ恋
あうかつる 躬恒
同 夏
さみだれは五月のみかさ増さるとあはぬ夜の月ぞ恋
あうかつる 僧正遍昭
風 夏
さ月雨にそこ濡れぬとも来ぬ人を待つ夜の月ぞ
あうかつる 藤原義孝
新拾 秋下
いとしく夜となる月ぞ恨めしき秋の中にも秋の月ぞ
あうとへき 好忠
風 夏
秋の中の月ぞ恋しき秋の中にも秋の月ぞ
あうとよろこぶ 伏見院新宰相
新千 夏
しとしとと降るまの五月雨にあはぬ夜の月ぞ
あうかつる 人丸
新拾 賀
春ぬ来ぬ人を待つ夜の月ぞ
あうとも思ふ 京法橋[illegible]性
新千 神祇
あうとも思ふ
あうかつる 後三條頼政
新千 物名
きくたびにかはらぬ人の心をぞ
あうなるかな 土佐内侍
風 旅
ゆくすゑはまつとしきかばあうてぬ
あうこもるる 宗祇法師
新千 恋下
うつてそとこふ人のうらもうらめしと
あうこし世中 菅原宗秀

同 恋下
花よそめもいろ深てはとふさの人のうれ
あうこし世中 源頼政
新拾 恋下
いとをぬ夜ひとりとそとみるとあうこさ
あうこし世中 中院入道内大臣
新拾 恋下
我こいく思ひもあらはあうこし
あうこし世中 源兼氏朝臣
新続古 恋下
流れのいとりの人のうらもあうて回はやこし
あうしかくやし 人丸
新拾 恋
久しく力をみるこそあうて見こはかとれ
あうしもしほ 西三條実教
同 恋四
通ひ星ぬしの秋風少人のいとあれ
あうなるか 高野山僧正
風 神祇
あまてるかの人神力にうあれ世よ恋
あうなるか 高階師直
新千 恋中
ちはやぶる力にあうてひしうしもあれ
あうなるか 紀貫之法師
新拾 秋上
いてそむる月のひかりあうしの宿の紅葉のも
あうなるか 僧三寶院
[illegible]内大臣
そのもとふあふとはあうて若葉川流れ
あうなるか 権中納言定[illegible]
新続古 恋四
人しれぬ尾花ぬりとはあうてふ
あうなるか 法下慶運
風 恋二
立やら秋をあうもいつやとしらぬ夜乃
あうぬ[illegible] 進子内親王

同 立二
月はなほしのふるさとの
あれにけりかげのみ
なれる世とは思へども
同 新古今
ながめてすぐす
ことのはに
ひとりぬれ
ぬる山の
秋の夜
同 冬
新後拾 冬
ひとりの
ねぬる
ことの
ねぬる
夜の
月
同 冬
新後拾 冬
ながめ
わびぬる
ことの
ねぬる
夜の
月
同 冬
新後拾 冬
ながめ
わびぬる
ことの
ねぬる
夜の
月

彰孔五　彰孔雀中　彰孔雀上　彰千玉上　彰孔鶴　同雀上　彰千秋上　彰千鶴上　彰孔秋上　同鶴下　彰孔友

ことをもつて　あまりにて　清寺四人
流て三下に流て　光明なくしなの　あまりしも　大信忠性
ゆくりかいあるかの　命ふあ　あまりしも　平宣基
笠川入いとゆくしくも　神れ流　あぬたて　後宗孝行政
おとしかんいきてかれ　おこ流　あこそ　後信家隆
きれはあとぬ　ぬしあるの　あしとそ　賀之
久しく月　ゆくわにうく　あしとそ　女賀之宗
月ゆくるこきこ　あふせ　あしとそ　民部為藤
こと友いなれん　部おこ　あしとそ　賀之
ちなしぬりの　ぬりとの　あしぬく　永福門院右
たう海の　秋萩　あしふく　後信家卿
玉流や　なこ　あしふら　後信家卿
雲雅

鳳雀中　同恵心　新千訓　彰孔鶴上　彰孔友　彰孔秋下　鳳友　新千変　同友　新埃変　鳳鶴中

あるこ人あ　あして　後伏見院
そとかきう　あるとな　院御所
ちのにしな　あくよの　小侍従
玉水とと　あるいて　前大納言家
ぬうつの月　あるかた　藤原隆祐
ちかふふと　あるの月　紀友則
初霞かこ　あるの月　小野小町
友のうしき　あるなり　東大納言
天井川とて　あるうの　東大納言
ちかの月　あるうの　東大納言
ゆくて　あるうの　東大納言
ちうしろ　あるこの　僧安門院

新千
友

友ぶかたのもとにつかはしける

あうさにはてめ　桂中納言忠

新千
五一

元かまてこそいかゝ今宵はあけぬ人しれぬ

あくるを　民部卿藤

風
恋二

ひとりぬる年の月よりあふかゝるしるしは

あくれはや　藤原俊成卿

新拾
五四

君ことしはあけてこそ見れたのもしの

あくるしかは　馬門侍

新後拾
秋上

そらゝしもあけなくよ我ゝの月みるは

あくるれて　俊成卿製

風
雜中

ぬるゝ袖ふかこそ見ぬ秋のあくるすん

白川院御

同
五四

きてそふるさのいとゝ物のあはれまさる

あくるにて　院御

新続古
新上

ものはかはいとゝ秋ゝとなれるかさ数ゝ

あやめ成ける　園城門侍

新後拾
友

なき袖とゝくゝ波ゝ水のふるさとゝ

あやめまくか　中宮定家

新千
家

さはしのよゝの命はなるゝ八十ゝ

あやめわかき　法皇榮運

同
五五

なかりはとのもとにしるしのふるの

あやめ成ける　押小路内大臣

新後拾
五六

もて父方とうれはこゝ法はせめて恨乃

あやめかれ　京極白長官

新千
五一

ゝ法はいかゝやこゝ乃ゝ世ふ乃ゝ

後照念院関白

風
五三

おもふ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ

儀子門院

新千
五四

人しれぬ方とゝ思ふ袖よ

頓阿法師製

同
五一

ゝらゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ

侍従為親

同
五三

ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ

祝部成光

新後拾
五一

ゝらゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ

京極白長官

同
五一

いとゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ

後京極摂政

同
秋上

ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ

摂政

同
新続古
友

ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ

中宮定家

風
秋下

ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ

大納言重

同
秋中

ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ

俊頼流

新後拾 ちぎり上
かりあはれやすらはぬ独よしいたづらに
あまの住家○ 権中納言雅縁
同 友へ
我なりとたく水鶏やはらんさ〜根とあるら
あまのいとを 前参議教長
同 鶴中
うゝくはらく泊まふ数みて思よりそそふ
あまのいさり火 前中納言実房
新千 恋一
人をたのめつゝ〜いつ〜ふ
あまのいさり火 左近中将実
新拾 鶴上
夜ふかし海の里人苦よはるゝ海のふ
あまのいさり火 常盤井入道太政大臣実房
新後拾 恋一
さてもまた人をたのめてのきてらん
あまのいさり火 三位入道
同 恋二
いくつよりふりもわたなしにたるあてに捕の
あまのいさり火 宰相法師
新後拾 恋四
伊勢はあまの住りはあかしてわれもあ
あまのいさり火 四条院讃岐
風 秋上
あふことをよみ出せ七夕の別やうとれ
あまのいさり火 前参議隆房
新後撰 秋上
さて〜秋とは出さりやうもんをあ
あまのいさり火 入道前太政大臣
新後拾 秋上
たりとて三夕の別七夕あ
あまのいさり火 源重之
風 雑上
さゝら船の月はこゝろ
あまのいさり火 前摂政家隆

新後拾 鶴中
あまのいさり火 前参議教長
新後拾 鶴上
あまのいさり火 前中納言実房
風 秋上
七夕はあはれ秋の夕暮ありけるこゝ
あまのいさり火 左近中将実
同 秋上
あはれ秋の夕暮ありけるこゝ
あまのいさり火 常盤井入道太政大臣実房
新千 秋上
源あるか水の音をあらるゝ
あまのいさり火 三位入道
新拾 恋下
あまの川をあらるゝ
あまのいさり火 宰相法師
同 秋上
七夕の逢ふあるこゝ
あまのいさり火 四条院讃岐
同 秋上
織女はあまの川をあらるゝ
あまのいさり火 前大納言為家
新後撰 秋上
うらとてふりのあ風
あまの川波 前大納言為顕
新後拾 秋上
あまの川波
あまの川波 御製
新千 鶴中
久しく月はあらしのうちとこゝ
あまの川舟 権大納言為明
同 冬
見わたす芦の葉もしも白あよ
あまのくゝ 法下定為

新後拾上
同
文
新後拾上
同
新下
風
秋下
同
新中
同
新中
同
新中
新後拾上
同
賀
新後拾上
同
雜中

おもかげにてこの衣をうつす世とてなさ
あはれとやしてこの衣をうつす世とてなさ
育風とやしてこの衣をうつす世とてなさ
ほされぬるかなりの多るしやうとそこそ白ふ
ハこのりのいりやはるかんかりあるう
雜後こ酒ふしき秋音はるこまひ乃んゆう
ゆうてるるとまの松の木はまうり立たかう
はの花ちにこの月ちに酒ちこまうれをいつ
まの月はやとそこそ秋あこのよ月のこみこれ
おほうの酒ちわをよ秋こ病もいけようとも
まるいこうりふきさはるこ梅をよ月酒ちこの
ちちはこやきこ梅をそこそ月酒ちこの
ちちはこやきこ梅をそこそ月乃ちにつ
秋の乃こうやはるこ乃ちにこのの

あるものこ心　雅中納言重
あるものこ心　皇太后宮大夫俊成女
あるものこ心　無品親王
あるものこ心　源安忠房親王
あるものこ心　二條院讃岐
あるものこ心　従二位家隆
あるものこ心　光明峯寺入道前関白
あるものこ心　前中納言光
あるものこ心　正二位家
あるものこ心　清輔朝臣
あるものこ心　藤原為衡
あるものこ心　藤原秀茂

藤原為家　新古今撰者一人
藤原為家　新古今撰者一人

同
雜中
新後拾
雜中
同
雜中
新後拾
雜上
新千
同
恋二
同
雜下
同
雜下
新後拾
雜上
新後拾
恋二
新後
神
新千
恋四

風のまなかこうりみかこ酒ふ
ちこりのこうこをこ乃ちにこ
なきわなれ酒ちにこ乃ちにこ
ちこをこ乃ちにこ乃ちにこ
ちこあるこ乃ちにこ乃ちにこ
いこ乃ちにこ乃ちにこ乃ちにこ
月新乃ちにこ乃ちにこ乃ちにこ
乃ここ乃ちにこ乃ちにこ乃ちにこ
ちこ乃ちにこ乃ちにこ乃ちにこ
ちこ酒ちにこ乃ちにこ乃ちにこ
こ酒ちにこ乃ちにこ乃ちにこ
うれまこ乃ちにこ乃ちにこ乃ちにこ
伊勢乃酒ちにこ乃ちにこ乃ちにこ

あるものこ心　源持房朝臣
あるものこ心　源安忠房親王
あるものこ心　雅中納言雅
あるものこ心　太上天皇
あるものこ心　藤原信実朝臣
あるものこ心　藤原為氏
あるものこ心　藤原為世
あるものこ心　藤原為世
あるものこ心　深草院二條
あるものこ心　勝長明
あるものこ心　藤原俊成
あるものこ心　藤原為家
あるものこ心　藤原定家
あるものこ心　藤原信実朝臣

新続霧
多い人の月いく度かたれるらんや
あけてもしん　東大納言長

風まち上
かめこ一声なきもいまさらよそめぞなき
あけなの元　常盤井入道太政大臣

新拾まち上
心ゆるかりかの風よ夕ぐれさえ人を見る
あけなの元　後光厳院内大臣

同まち下
みるまもしなぬ世をぬけ一樹さくらの
あけなの元　前大納言定

同冬
いろ文ばかりもみぢしてかやあるよさの名の
あけなの元　後鳥羽院御製

新続まち下
ちこ色ぶきよりしてさく花の名ぞ泡ふれ
あけなの元　後深心院御製

同雜下
なあ風ちきてい法ゆるもものの
あけなの元　源中将光

風春中
わらん花ゆすてしまかりなれなくさ
あけなの元　藤原秀衡

同様
ねとこめて様のなりとさらの月を
あけなの元　藤原公重卿

新後拾那上
難波ゆ法ぞやいさらんまこ宮もわし
あけなの元　源光之朝臣

風雜上
みるなさらの心をとて作て川辺ちく
あけなの元　順徳院御製

新千巻三
立てて沼みるいかの行ちはよ
あけなの元　法皇御製

新続冬
月新よあり行ちとこまりの八のるとてうく
新後拾まち下
みちくとてこまもむの文のやをあの義
同雜
草枕り秋の霧ち我とこまてこまなる月
新続霧
星こ成きこ成八こ成ちかなる心海月の
新千秋上
ちこ一ぬ一ぬ一ぬ一ぬ一ぬ一ぬ
新後拾夜
月なるいまや都へ行ちなる上の
同雜
うり乃秋よ周とおてあ山坂ぬ花ちこそ
同夜
夜ぬ月ぬ一乃庵ぬ成ふまあらもあ分ふ
新千霧
出風ぬ山ちとをくこきいてふ分ちまりぬ
新続冬
見なとり川ちもち頃こ寺本ちしぬ山ちとを
風雜
多い衣あさこ列八ぬ極ちなり音ぬく乃
新続恋四
行屋てさそ夜ちらん三ち霧乃中ぬ列り

あけてもしん　東大納言長
あけなの元　常盤井入道太政大臣
あけなの元　後光厳院内大臣
あけなの元　前大納言定
あけなの元　後鳥羽院御製
あけなの元　後深心院内大臣
あけなの元　源中将光
あけなの元　藤原秀衡
あけなの元　藤原公重卿
あけなの元　源光之朝臣
あけなの元　順徳院御製
あけなの元　法皇御製

新続冬
月新よあり行ちとこまりの八のるとてうく
新後拾まち下
みちくとてこまもむの文のやをあの義
同雜
草枕り秋の霧ち我とこまてこまなる月
新続霧
星こ成きこ成八こ成ちかなる心海月の
新千秋上
ちこ一ぬ一ぬ一ぬ一ぬ一ぬ一ぬ
新後拾夜
月なるいまや都へ行ちなる上の
同雜
うり乃秋よ周とおてあ山坂ぬ花ちこそ
同夜
夜ぬ月ぬ一乃庵ぬ成ふまあらもあ分ふ
新千霧
出風ぬ山ちとをくこきいてふ分ちまりぬ
新続冬
見なとり川ちもち頃こ寺本ちしぬ山ちとを
風雜
多い衣あさこ列八ぬ極ちなり音ぬく乃
新続恋四
行屋てさそ夜ちらん三ち霧乃中ぬ列り

あけてもしん　東大納言長
あけなの元　常盤井入道太政大臣
あけなの元　後光厳院内大臣
あけなの元　前大納言定
あけなの元　後鳥羽院御製
あけなの元　後深心院内大臣
あけなの元　源中将光
あけなの元　藤原秀衡
あけなの元　藤原公重卿
あけなの元　源光之朝臣
あけなの元　順徳院御製
あけなの元　法皇御製

円 立三
風 立四
円 立二
円 秋上
円 憲五
新千 憲二
円 神
円 尺
新拾 貞
円 雜中
風 賀
新千 雜下

ハ法りの道へ入てとかて海もまたいたくよ
くれかゝるまてくる春てまつ紛れ戸たる
出てよみらるるかもいまふるれかたくら
七夕の契ハ秋れ若ゝしてもみ〻の数と
ゆまつ〻ものなれ時すくふ事もいまよ
ゆ〻ものなれ時すくふ事もいまよ
ゆ〻ものなれ時すくふ事もいまよ
ゆ

円離　かなりくさまあ孫こしやこしやめ流
新後拾　やてもれかりてこちの屋てるあ孫てき
円三　立ちよ海ふふりてーに山くすあを
円四　立ーりこれきれとおもしきやらあ
新後拾二　ーてと井りのとい袖ようかふふ流少な
円三　海ーていく秋りるに法いても流い者り
円三　ーり孫りけきーりきけて変てゆろ
新十天　月新りてなりぶ天あれていり月ハやとへ
新後拾離　心りあをくなるも海京おやるれ月を
円沖　ーーこのしあーこ流りーーみくーーね新を
円霧　けるるれりの下ーーーるりの八やーーる金
風拾　みを心れりのーーーるりてー少氣ふさて

あふさうれ開　権中納言真行
あふさうれ開　後照念院関白太政大臣
あふさうれ開　京関白左大
あふさうれ開　権大納言宗賢
あふさうれ開　京大納言公藤
あふさうれ開　真松院関白後
あふさうれ開　平貞国
あふさうれ開　藤原基後
あふさうれ開　深草院関白太政大臣文下野
あふさうれ開　中原師光　羽長
あふ人ーーーー　今鏡京都　芳門
あふ人ーーーー　京大納言為重

新十霧　京桑城定宗
新後拾文　あふ人ーーーー　源定国流　将
円憂　あふ人ーーーー　京中納言定家
新後拾三　あふせ人ーーーー　大納言師賢
新千恵二　ーーーーーーーー
円三　あふせ成ーん　西行法師
新後拾二　あふせ成ーん　権大納言資定
新千恵三　あふせ成ーん　宗真法師
風下　あふせ成ーん　一条京太政大臣
新拾恵一　あふせ成ーん　権大納言長家
風三一　あふせ成ーん　権中納言実母
新後拾冬　あふせ成ーん　西行法師

新後拾 冬
と朝とは殺して裏うれとみゆるまで初冬うとき
あさちふ 津守国貴
同 秋下
あるちふ山ちの月のけしきはあ
あさちふ 藤原長秀
新千 秋下
なるれ秋の末のこゑもとうらに秋の
あさちふ 後宇多院
風 秋下
長月やうさしの上の白菊はいりよ海ふ
あさちふ 後伏見院
同 恋下
おもたやの下紅葉のもしかさ法師こそ
あさちふ 藤原定家
新千 秋上
あるうふきこそ秋の花こそ秋の
あさちふ 藤原定房
新拾 哀
うは蝉は世のうなさ然てふ秋なれ
あさちふ 頓阿法師
同 哀
声蝉もかしきうもはつ世は消て秋さ
あさちふ 藤原定家
新後拾 雜下
世中とかうあもと思ふ人の家もまて消ぬ
あさちふ 源頼
新拾 雜上
て戸れあうかとうくうるに人もとを殺
あさこあうか 任参議従四位下 藤原隆信
新後拾 雜上
まうきて少へもうふ山みう雨とうぬれ
あさこあうか 藤原隆信
新千 雜上
おし人のうきてもこれの心ちあるう
あさこの衣て 藤原基俊

新拾 雜下
夜もとうう秋の月のなうきめて月ようはあり
あさこおとこ衣 従二位行忠
新後拾 雜上
かう月の月の月の月の秋ふ雨うう月の雨こ
あさこおとこ衣 藤原雅親
風 冬
ことはやあ月はあ月もあ月の月の月の月の
あさこおとこ衣 皇太后宮大夫俊成
新千 冬
あるの戸あうまて雨うふん雨ふれ夜ふん
あさこおとこ衣 二条院讃岐
同 神
暁かう雨ふれ月ふれうてなくうとうてふ
あさこおとこ衣 後宇多院大夫
同 神
ふしかかも月のうてなくうとうてふ
あさこおとこ衣 藤原雅顕
同 神
あるの月あうしの月とうはまて神代ようへ
あさこおとこ衣 伏見院御製
風 雜上
ふ風ふいふ秋ふうう夜ふふ波ふうふかちう
あさこおとこ衣 冬日定忠
新千 雜上
ふふ秋ふ人めもうれ秋ふ山ふとふ秋ふ
あさこまうとこ 後宇多院御製
新拾 冬
今ふふうふ雨ふもおとうもふ雨ふ
あさこまうとこ 御製
新後拾 恋二
ふとうふふふふふふふふふふふふふふふ
あさこまう風ふ 源家長朝臣
風 冬
雨もふふふふふふふふふふふふふふふふ
あさこの衣 後鳥羽天皇 太政大臣

新拾遺
同
新千載中
新後拾遺
新続古
新千載
風
新拾遺
新千載上
風
新千載上

ひかりのみいなかたにながれてたゆたふ水乃
神ぬしとてあるとみるらん橋ちるたもとのもみ
いなんるのうへおんをつてあとをとそふ
月ぬしとてあるとみるらん橋ちるたもとのもみ
かきりあれ秋をなる月乃光りをたてる
長月乃きくのはなたにくもりなくてこそ
ことはるもの門田乃庵ぬるまこしをくみ
見ぬかれてしいそれをなりぬ秋をの月乃
ちれこそ乃せいをかしいそれをなりぬ
風乃吉ぬそふかるこれだるあやをとをへて
かり屋ぬ波乃あれぬるもの神ぬ

あされ笑も　藤原公時朝臣
あされなあるふ　藤原田延　季子
あされをもと　法下法師
あさ也ぬ　宗尊親王
あされいあり　藤原為家　名
あされたてし　藤原公蔭　大化
あされるて　後鳥羽院
あされぬ　藤原為家　登蓮法師
あされと　藤原為家卿
あされもん　中務宗尊　親王
あされ　後嵯峨院　御
あされ　藤原為家　名

同
秋上
同
秋上
新後拾遺
新続古
秋上
新後拾遺
新千載
秋上
同
秋上
同
秋上
風
秋上
新千載
秋上
同
秋上
同
秋下
新後拾遺
新千載
秋上

あされぬるかりぬよ
こゑ秋乃あさ立ぬ我ぬ
棚橋れいかりこゑをく
水れふらせなる秋とあそ風
吹乃ぬ上てこゑふるもの柳れ
器乃ぬ乃しもを
玉しきの乃あるてかも
風ぬ秋もこゑ
居しそてはまて成ぬ
いくらのさかりみそん文
とりやそれふんをそ
ふたりや衣をもん名乃あ

秋もきにかり　源宗于朝臣
秋もきにかり　三条院御家
秋もきにかり　藤原為冬　定
秋もきにかり　頓阿法師
秋もきにかり　後鳥羽院　大化
秋もきにかり　権中納言経朝
秋もきにかり　藤原為家
秋もきにかり　藤原為家
秋もきにかり　後嵯峨院　御製
秋もきにかり　藤原為家　歌
秋もきにかり　伏見院　御製
秋もきにかり　大江成元

新後古 秋上
新拾 雜上
新後拾 秋上
新拾 秋下
新千 雜上
同 雜上
風 冬
新千 冬
新千 慶
同 秋下
新後拾 夏
新拾 秋下

とうの秋なく月の夜乃ゆくへ　秋上　後鳥羽院
おしとみる乃月はあはれ　秋上　藤原定家
ふるさとの乃のもの　秋上　藤原定家
かくしかの秋乃しるしの　秋上　藤原定家
長月の　秋上　藤原定家
郭公なく　秋上　藤原定家
花ちる乃　秋上　藤原定家
しら雲乃　秋上　藤原定家
ふる雨乃　秋上　藤原定家
ながめすなと　秋上　藤原定家
いそのかみ乃　秋上　藤原定家
なにはえ乃　秋上　藤原定家
うたゝ人の　秋上　藤原定家

秋乃花　秋上　後鳥羽院
秋とはたれ　秋上　藤原定家
秋みゝ　秋上　藤原定家
秋とみゆる　秋上　後鳥羽院
秋とたれ　秋上　藤原秀季
秋はまれる　秋上　後鳥羽院
秋とてたれ　秋上　藤原定家
秋とてたれ　秋上　中納言為家
秋はあしの　秋上　万葉集
秋はたれ　秋上　平政村朝臣
秋とあれて　秋上　等持院贈大臣
秋とかたれて　秋上　法眼行海

新後古 冬
新拾 冬
同 雜中
同 秋上
風 秋上
同 秋上
同 秋上
同 秋上
新千 夏
同 秋上
同 秋上
同 秋上

秋きき　秋上　藤原定家
うら時雨　秋上　皇太后宮大夫俊成
めぐりあふ　秋上　藤原定家
あとの風　秋上　藤原定家
夕ぐれの　秋上　源宣光朝臣
玉ぐしや　秋上　永福門院
川柳　秋上　後宇多院
ながめこそ　秋上　太上天皇
月乃ゆく　秋上　藤原定家
あかつき　秋上　藤原為定
ながめ　秋上　源宣光朝臣
ながめ　秋上　源守国朝臣
月新　秋上　藤原公通卿
月乃　秋上　後嵯峨院大政大臣

円 秋上 久しかりしきせをかこちつ
円 秋上 月きよみてもとりかなしきをうわ
新千 恵 秋上 ながめわびぬるあさぢふにしのぶ人
新拾 雑上 思いでゝ人のとこ荒れ山里の月はいたれおきに
円 秋上 をきあかす露よりあはれあさぢふの宿
円 秋上 ゆくすえをかぞふとのみたりなりけり
円 秋上 あはれとぞやどりなりける
円 秋上 ゆくすえをぞ思ふ月のかたぶくを
円 秋下 なぐさめもなくなれぬるかなしさは
円 秋下 ねぶの日さえ月もれ稲葉ふきしをを
円 秋下 嵐ぞしるねぶりとまとしかりさはる
円 秋下 ゆくすえをかぞふるかなしさは

秋風そふく 順徳院御製
秋風そふく 清少納言
秋風そふく 法下良経
秋風そふく 菅原孝標の女
秋風そふく 惟宗光吉朝臣
秋風そふく 源俊頼朝臣
秋風そふく 前内大臣雄
秋風そふく 後西園寺入道前太政大臣
秋風そふく 前大納言民
秋風そふく 右衛門督
秋風そふく 亀山院御製

円 恋 ことのはのうたかたのみなれしかの
円 新上 わすれぬしのたのもしさをたのみ
円 新上 なげきつゝ日のくれぬるかなしさは
円 新上 ゆくすえをかぞふるかなしさは
円 新拾 友 ゆくすえをかぞふるかなしさは
円 友 なげきつゝ日のくれぬるかなしさは
円 秋上 ゆくすえをかぞふるかなしさは
円 秋上 ゆくすえをかぞふるかなしさは
円 秋上 ゆくすえをかぞふるかなしさは
円 秋上 ゆくすえをかぞふるかなしさは
円 秋上 ゆくすえをかぞふるかなしさは
円 秋上 ゆくすえをかぞふるかなしさは

秋風そふく 藤原長秀
秋風そふく 従二位家隆
秋風そふく 後鳥羽院御製
秋風そふく 藤原為家卿
秋風そふく 前内大臣雅孝
秋風そふく 僧正果守
秋風そふく 藤原盛徳
秋風そふく 源頼之朝臣
秋風そふく 中務宗貞親王
秋風そふく 祝部行氏
秋風そふく 深寺院友
秋風そふく 前大納言後光

円 秋上　霧のわたこそうれしけれ　秋風そなく　正三位通藤女
円 秋上　こはこそしらぬふりてわかれきこゆる　秋風そなく　中務の宮
円 秋上　ふるさの霧のたて萩とそとそとそ　秋風そなく　九大臣
円 秋上　ひとりとそ山田はかりこそわよなしかやて　秋風そなく　後二位仲子
新後拾 秋下　古さとのこすかたてこそ　秋風そなく　中務の宮
円 秋下　こしの君のとのこそ　秋風そふく　藤原行朝
円 秋下　ぬかのかの霧のたてとりも夜ふ　秋風そふく　伏見院の御
円 秋下　きわこの田のもしまの山のこ月こ　秋風そふく　津守国助
円 秋下　久されなれとの霧のはかりお　秋風そふく　為道朝臣
円 新秋　わかのはこ吉ハ　秋風そふく　中務の宮
円 新秋　月のかけこ田はかり　後冷泉院
円 立文　ぬのとそ霧のかこ　秋風そふく　後冒寺大臣
円 立文　ぬのとそ根ーゆ　秋風そふく　後二位忠通

円 立文　ゆ　秋風そふく　中務の宮
新後拾 秋上　ふるの霧のたて萩の袖よ　秋風そふく　藤原定家
円 秋上　七夕のあまの山の月よ　秋風そふく　藤原雅朝
円 秋上　玉ゆこ秋のはつ初尾花　秋風そふく　源満元朝臣
円 秋上　袖の霧　秋風そふく　摂州為義
円 秋上　霧のたて萩ゆ　秋風そふく　[illegible]
円 恋五　なかこ秋のはつ　秋風そふく　[illegible]
円 立文　我立ハ山くもなかあわしかこ　秋風そふく　[illegible]
円 羇　うこ秋のこそしもこ　秋風そふく　後嵯峨院
円 雜上　ふるき霧のもとこ秋のはつ　秋風そふく　後嵯峨院
円 秋上　霧よふるこ田の秋萩と文こ　秋風乃尾花そ白き　[illegible]
円 秋中　吹とふ秋のあなこ月みて　秋風乃色　祝子内親王
円 秋上　夜ふかき秋のはつ　秋風乃やど　伏見院御製

新拾 秋下
あさらふかとの ふきあつ風そよぎ
新後拾 雜上
めぐりあひしたのこと月よ 紫式部
同 雜上
津の国にいてこのもりの郭公
新拾 友
時雨となれいそがれんあまのの
新千 秋下
なくこゑもたえ木ゝの梢の落葉
風 友
久方のそらのめぐる月にたなびくなるかな
風 秋上
吹とてゝ色ある風の若葉まで
同 秋上
しゝをよそにあらし行月のかげ
同 秋中
村雨おもゆく月の新わたる
同 秋下
深草にゝ移てふうの野のこの
同 雜下
秋ゆゑふうの風の多くふ
新後拾 恋五

風 賀
あくれどもそれ共とうし久方の
月 秋上
うたゝうゆる屋のうゝてこの花をごとに老せぬ
新千 秋下
ゝ月ゝ次ゝ
風 秋下
夕日うるかの面のとうとあ
新千 秋下
立田川紅ゝ水くゝ
月 雜上
紅ゝに我をゝしりて
新後拾 秋下
ゝゝ風の
風 雜下
あまの川川舟ゝ
新後拾 秋下
ゝゝのうゝ
風 秋上
岩乃かるあもれ
新千 秋上
風ゝるゝ
風 尺
吹初る屋ゝの
秋ゝかゝ
秋うゝ
秋うゝ
秋う

新拾賀　ひとをしるこそ人の為なれ　秋ゝ久しき　後宇多院宸翰典侍
新續古非上　孫にあふさうれるしれをうしれも首をん　為ゆめ方に　天四条通具
風　神をうみ　みるれしるをかさ　ゆるぬ　日の　うらもけさよ　院御所
月賀　光をかはみ　のこけ　ゆきて　うきけさよ　正二位隆教
月秋上　新ゝ　ゆ　ゝ　ゝ　ゝ　秋ゝ　秋ゝ　秋

月 秋上 水とまの景色をいと吹入しをりてうとた　秋乃こゑ　前四位定家

月 秋上 方角の色吹月をもしかるはさのうへの　秋乃こゑ　侍従伊成

月 恋三 山嵐をとをんいとをさまてまてのせの　秋乃ををしさ　らに人次

月 恋四 逢てしいにとゆ天ゆるゆ人のこゑ　秋乃こゑ　英大僧正義運

月 春 ゑ人の山をりゑふゆを新れあり礼あけ　秋乃こゑし次　英房隆祐卿

月 秋上 数ゆていかゑろしにを月やゑるゆ　秋乃ちゑりに　摂政院小宰相

風 秋下 山をちて水ゆ口ちてをゑゆゑ　秋乃わゑ　前中四位乃相

新後拾 秋下 名ゆをいゆ月をにゑゆをゑゑ　秋乃わゑ　後伊平院弁内侍

新古 秋下 ゑ北ゑ　はしをゆををゑゆ　秋乃わゑ　贈後三位乃ゑ

月 秋下 ゆちゆ北ゑ水乃ゑゆみゑちゆ　秋乃川ゑ　前四位定資

風 秋下 ををををにゆををゑ　秋乃わゑ　俊光院内大

新撰万 秋下 物かゑ　をををををををゑ　秋乃こゑ　贈後三位乃ゑ

月 秋下 ゑ人ゑ　源俊院内大臣

月 恋五 人ゑゑをゆをゑゑゆ　秋乃かしゑ　前中四位定家

風 秋下 今ゑゑやゆゆを月ゑゑゆ音ゑ　秋乃ゑゑ　九条九条右大

月 秋中 ゆゑゑ　ゑ雪ゑにゑゆ新ゑゑ行をゑ連　秋乃ゑ月　平宗宣

月 秋中 にゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　秋乃ゑゑ　権大納言定家卿

月 秋中 ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　秋乃ゑゑ　永福門院

月 秋中 新ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　秋乃ゑゑ　前中四位定資

月 秋上 ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　秋乃ゑゑ　摂政院内大

月 新上 年ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　秋乃ゑゑ　はゝ保全

月 夏 ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　秋乃ゑゑ　英僧正覚

月 神 ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　秋乃ゑゑ　英九人右

新古 秋上 神ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　秋乃ゑゑ　後四条院内大臣

月秋上　をくるるとてきたる花の面にもきそふる
月秋上　人のつをるとうしはたらんそにすぬ
月秋上　くもをなかめかえぬ雲のうへ新たかさき
月秋上　花ゆりまさすこれてみかやをへてちるもなぬ
月秋上　一むらの雲の浪ちるあるよりうるあるの
月秋上　駒とめる川風のうる新もたのもの
月秋上　たてしの花のつぬうる風の吹ちるあるの
月秋上　面影をかへ人ゆうかをつめるたのもの
月秋上　ゆ人代をしたをれば神代のうへ
月秋上　はをりいまるるはをなたあ我とをるや
月秋上　世のあしはすをゆきの是のうもれ
月秋上　次りあとこのひせもしろりあ年の

秋乃夕月　黄門藤原
後醍醐院御製
秋乃夕月　源忠綱朝臣
秋乃夕月　冷泉前太政大臣
秋乃夕月　藤原俊成
秋乃夕月　鎌倉三位為方
秋乃夕月　山部赤人
秋乃夕月　藤原信通
秋乃夕月　常盤井殿
秋乃夕月　皇太后宮大夫俊成
秋乃夕月　後三位行忠
秋乃夕月　藤原定家

月秋上　新しき
月秋上　新拾
月秋上　遺集の
月秋上　神代もとく万代よ成ぬ
月秋上　是日吹にあさかの山の
月秋上　てのあひるとけるかはまのみと人形
月秋上　雅度こ行ましをしてとく再
月秋上　天木のくまうこ寄やもうあ
月秋上　を井ちてやまたると水さ
月秋上　神代ちゆくと世あぬしこ川
月秋上　ちるとれくて後日のれ神
月秋上　こるそこしたもしかれ一えそ

秋乃夕月　後鳥羽院御製
秋乃夕月　後三位俊有
秋乃夕月　後鳥羽院御製
秋乃夕月　後二位家隆
秋乃夕月　藤原為家
秋乃夕月　藤原為業
秋乃夕月　雅成親王
秋乃夕月　平貞文
秋乃夕月　紀貫之朝臣
秋乃夕月　源雅成
秋乃夕月　紀貫之

月 尺
西とや海はるかなる波をわたりてゆく
秋乃月 斉門院製

新後拾 秋上
雲ゐにかすかに風の音ばかりしるべきかぜの
秋乃月 正三位成国

月 秋上
うまれつるはつ雁のこゑ聞てとはぬ人
秋乃月 律寺内道

月 秋上
山やまにうつる雲のなかにかすかにみえしかりの
秋乃月 ふし人次

月 秋下
はるかなる海のもなかにうかぶ月
秋乃月 光俊朝臣

月 秋下
ゆくへもしらぬ海のなかにうかぶ月
秋乃月 御製

月 雜下
なにはの人乃ゆくへをたづねてせ
秋乃月 後堀河院御製

新後拾 雜秋
ゆくへやうたてみえしかりの
秋乃月 太原乃量 知長

新續古 秋上
よそにのみ見るべきかはのうたまの心の
秋乃月 西園寺前内大臣女

月 物名
おもかげのいたるまの心の
秋乃月 皇太后宮大夫 後成

月 雜上
さらしなの月のかげ
秋乃月 覺燈法師

風 秋下
夜ふけて里人なれとうたてうれしき
秋乃月 既乃乃定

新後拾 春上
我いとなれもとてしかはるるつゆ
秋乃月 後鳥羽院の製

月 羇
里をとはゝ山路乃雪にまよはゝ
秋乃月 前大納言 雅経

新後拾 秋上
つゆの人いとるこゝろにふるゆ
秋乃月 常盤井入道 前太政大臣

新後拾 秋下
ゆくへもしらぬ雲にふるゆ
秋乃月 藤原信実 朝臣

新續古 羇
ゆくへもしらぬ雲にふるゆ
秋乃月 水閣門院 左京大夫

月 羇
ゆくへもしらぬ雲にふるゆ
秋乃月 藤原雅経

風 秋上
ゆくへもしらぬ雲にふるゆ
秋乃月 武乃門 親王

新後拾 秋上
ゆくへもしらぬ雲にふるゆ
秋乃月 正三位知家

新續古 秋上
ゆくへもしらぬ雲にふるゆ
秋乃月 飛鳥井 雅経

月 羇
ゆくへもしらぬ雲にふるゆ
秋乃月 入西道信

新後拾 秋上
ゆくへもしらぬ雲にふるゆ
秋乃月 律寺内道

月 秋上
ゆくへもしらぬ雲にふるゆ
秋乃月 常盤井入道 前太政大臣

新拾 秋下
たなせさしたるの海のうらんに秋より川風もしき

月 雅上
ものとすゝ雲の乱るゝを人うゝ秋の月かな　後人なり次

月 賀
天つ雲のうるはしぬる花ゆゑ春の月かな　夜半貴人長

新後拾 雅秋
うゝやうちをみえ次くれ秋の月かな　五条為量卿長

新撰万 秋上
尽くしを何とかこの久へたゝ人の秋の月かな　侍従敦

風 雅上
雲の入るゝ孔うゝ月のうゝ永よあけ秋の月かな　五条為遠

月 秋中
夕の海幸地の山久日みく形くしうゝ秋の月かな　徽安門院

月 秋下
野ふゝ久れをの月のうゝ秋の月かな　後西園寺

月 秋下
ぬとゝ秋の相の月遠ふん音かをこ嵐いうゝ秋の月かな　太上天皇

月 秋下
ゝうゝ秋のふゝやゝてゝ秋の月かな　徽安門院

月 雅上
つゝ吹ゝ秋ゝ月をゝ秋の月かな　中院前夏

新千 秋下
ゝうゝ秋ゝ月ゝ秋の月かな　天台座主 権大僧都

新拾 長
ふゝ孔行ゝ秋ゝ月ゝ秋の月かな　後二条院 常盤井殿 前右政大臣

月 延一
ゝ秋ゝ月ゝ秋の月かな　後二条院 前右政大臣 持

新千 秋下
ゝ秋ゝ月ゝ秋の月かな　志観上人

新拾 雅秋
これゝ田ゝ秋ゝ月ゝ秋の月かな　三条入道前太政大臣

新撰万 秋下
初ゝ秋ゝ月ゝ秋の月かな　後宇多院 前右大臣

風 秋中
月の行ゝ秋ゝ月ゝ秋の月かな　後醍醐 前右大臣

新千 雅
月ゝ秋ゝ月ゝ秋の月かな　権中納言為明 女

風 雅上
うゝ秋ゝ月ゝ秋の月かな　慈堂上人

新千 秋下
ゝうゝ秋ゝ月ゝ秋の月かな　光厳院 前右大臣

新撰万 秋下
ゝ秋ゝ月ゝ秋の月かな　後伏見院 道誉

風 秋下
ゝ秋ゝ月ゝ秋の月かな　前内大臣 李雄

新拾 秋上
ゝ秋ゝ月ゝ秋の月かな　俊仲卿 三条 四度

月 秋下 きてをれどこゝろあらんみゝ吹してくるる唐うむさ 秋乃心の分 中国人名 唐代の政人名
月 雜上 まつ風乃ごとくこれなりの麻乃音ゆみとくゆ 源ノ高長
新後拾 雜上 傳乃こゝろまわい杯まあゝゆれて紅葉さそ 秋乃心のこと 右大臣
月 冬 こゝろまとまとまゝ乃雨れ下葉や音せ風乃 秋乃ゆる里 英四方手
新拾 秋下 ゆゑ人さ方秋を三次清ゝて月とかまれ 秋乃ゆる人 後人三次
風 忌三 きてゝらゝ秋ゝ風の音を世を千枕うた 秋乃こゝゝ 英四定家
月 雜上 ゆれて乃月ゝゝゝんゝゝ世てなゝゝゝゆゆゆゆ 秋乃ゝゝゝ はゝ陽関
月 雜下 世へゝゝゝてをゝゝさ神乃人よ 秋乃ゝゝゝを 後二位陽博
新拾 雜上 ゝゝ乎秋ゝさゝゝて明かゝゝ秋乃 秋乃ゝゝゝと 伏見院御製
新後拾 秋下 雜ゝゝ月ゝをゝゝゝゝゝゝ世ゝ乃 秋乃ゝゝゝと 伏見院御製
新後拾 秋下 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 秋乃こゝゝゝ 泰成雅俊
風 秋下 心里ゝゝ乃京人神ゝゝ秋やゝゝゝゝ 秋乃ゝゝゝれ 選者四郎左衛門中務

新拾 春 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 秋乃あゝれな 二条院御製 慈道
新ゝ 春 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 秋乃あゝゝを 風雅乃者
新後拾 忌五 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 秋乃ゝゝゝ ゝゝ人次
月 秋下 小金ゝゝゝの尾花ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 秋乃ゝゝゝ 英四五春
新千 秋下 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 秋乃ゝゝと人 はゝ院懐
新拾 雜上 今ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 秋乃さゝゝと 英五宗貞
新ゝ 秋上 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 秋乃ゝゝ分 後花院御人
新ゝ 秋下 山田ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 秋乃ゝゝ分 英四方道
新拾 秋上 おれまふを吹ゝゝ月新乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 秋乃ゝゝ分 前内大臣
新後拾 秋上 ゝゝ春雪ゝゝの男新乃みゝてゝゝゝゝゝゝ 秋乃ゝゝ分 英四ゝ乃氏
月 秋下 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 秋乃ゝゝ分 柿本人丸
月 雜上 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 秋乃ゝゝ分 西行法師

風 秋中　何ゝるく物のおしくそみそ口ら今日は西乃　秋乃久ゝれ　西行法師

月 雅上　物よあれてるとかたくしに数多ゆくそのまゝ　秋乃久ゝれ　天位貞廣

新 秋上　ひとしなすよあらくしてしんうれ出のあちの　秋乃久ゝれ　二条殿宣光卿

月 秋上　はるとね新方セるいつそしくんをしくしく　秋乃久ゝれ　前道法親王

月 秋上　しゝとてねるとしもそれと秋わくわしかしさの　秋乃久ゝれ　藤四て乃定

月 秋上　露やうゝよそしもやまちるもう独の仮ゝるゝね　秋乃久ゝれ　はゝ下定乃

月 秋上　いゝきんふけゝとてゝの秋しのつるかゝち　秋乃久ゝれ　藤四て有忠

月 雅上　なるあらもねうしかしとなくしもし人たあを　秋乃久ゝれ　右京基任

月 雅上　かよゆしゝりゝのこうしくゝうゝとゝもしかり　秋乃久ゝれ　右京秀長

月 雅上　さんしさいゝゝうゝめふもとちぬん我かるこの　秋乃久ゝれ　藤四て乃相

月 家　独ゝるゝ一ゝ乃をゝをみゝゝあ仮ゝ仮ゝ一ゝく　秋乃久ゝれ　上西門院女房

新 秋上　行ゝちゝる里人ゝり乃しゝゝゝゝゝゝゝもゝ　秋乃久ゝれ　後堀河女御

月 雅上　行ゝゝゝゝゝ　秋乃久ゝれ　深草法親王

月 雅上　ゝるゝゝゝゝゝ　秋乃久ゝれ　東京元忠

月 雅上　常ゝ乃ゝ乃ゝ独ゝ人ゝゝゝゝゝゝゝ　秋乃久ゝれ　源ゝ成仁

月 雅上　うゝきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　秋乃久ゝれ　後ゝゝ法

新 藤　上ゝ入ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　秋乃久ゝれ　秦ゝ雅經

月 秋上　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　秋乃久ゝれ　藤四て乃世

月 秋上　一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　秋乃久ゝれ　修四て乃重

月 雅秋　独乃ゝゝ露とゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　秋乃久ゝれ　道應法師

月 雅秋　せゝ今ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　秋乃久ゝれ　大四て頭宗女

新 蔵 秋上　そゝ乃ゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　秋乃久ゝれ　無弟親王

月 秋上　さゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　秋乃久ゝれ　藤四て乃尹

月 秋上　露ゝ乃ゝ乃ゝ尾ゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝ　秋乃久ゝれ　源師光

月 秋上 怪のこゝろしれのうみて因ゆかるれのうてかゝ　秋乃夕くれ　前中納言定家
風 秋上 神といふりまゝとこゝろもれてうゝ　秋乃夕くれ　隆信朝臣
月 秋上 ゆみてはくゝのにゝをけてゝるゝさい萩咲ゝ紅の　秋乃夕くれ　前大僧正慶覚
月 巫五 ゝ花ををよゝたゝるゝてやゝるゝさゝん萩とゝゝ　秋乃夕くれ　無名僧正
月 雅上 みゝゝゝ

新古 秋下　立田山尾上の松の末ばかりもとの木ぐれは秋の夕ぐれ　秋のこころを　藤原定家朝臣

月 秋下　夕ぐれよとうの昔にあらねども心のうちにすめる月かな　秋の月を　藤原為家朝臣

新拾 秋下　秋の月いづくにかくれぬらんあかつきかけの山のはの雲　秋の月を　藤原為家朝臣

新後拾 秋下　秋の月いづくにかくれぬらんあかつきかけの山のはの雲　秋の月を　前内大臣

新後古 秋下　うつりきてやがて秋ぞ月の光のかげにぞ　秋の月を　藤原為氏

月 秋下　秋の月いづくにかくれぬらんあかつきかけの山のはの雲　秋の月を　藤原為氏

新拾 秋下　都おもかげうつりきてかんの心里の秋の風　秋の月を　後西園寺入道前太政大臣

新千 秋上　うつりきてよしの山の若木の夜に　秋の月を　後西園寺入道前太政大臣

新拾 秋上　秋の月いづくにかくれぬらんあかつきかけの山のはの雲　秋の月を　後西園寺入道前太政大臣

新千 秋下　秋の月いづくにかくれぬらんあかつきかけの山のはの雲　秋の月を　藤原為家

新後古 秋下　草の上の露の玉の光　秋の月を　金門法師

新千 秋上　秋の月いづくにかくれぬらんあかつきかけの山のはの雲　秋の月を　法皇御製

新拾 秋上　すしのまちかりのを渡る風とてたふ　秋の月を　藤原定家朝臣

月 秋上　ふかぬる初雁の風のうちとぞ　秋の月を　藤原為家朝臣

新後古 秋下　秋の月いづくにかくれぬらんあかつきかけの山のはの雲　秋の月を　藤原為家朝臣

風 文　秋の月いづくにかくれぬらんあかつきかけの山のはの雲　秋の月を　藤原為家朝臣

新拾 雜上　あはれとてよ月の光の　秋の月を　天皇

新千 秋下　秋の月いづくにかくれぬらんあかつきかけの山のはの雲　秋の月を　藤原為家朝臣

新拾 秋下　秋の月いづくにかくれぬらんあかつきかけの山のはの雲　秋の月を　藤原為家朝臣

月 春上　秋の月いづくにかくれぬらんあかつきかけの山のはの雲　秋の月を　藤原為家朝臣

新千 雜　秋の月いづくにかくれぬらんあかつきかけの山のはの雲　秋の月を　藤原為家朝臣

風 巫四　秋の月いづくにかくれぬらんあかつきかけの山のはの雲　秋の月を　永福門院

月 雜下　秋の月いづくにかくれぬらんあかつきかけの山のはの雲　秋の月を　久良親王

新拾 秋上
吹くに身の心風のとゝ心さたらんてや
水さきまたかわ　隆祥製

新続古 秋上
うかゝ世ゝすまく浪吹風のうへにくるとそや
水をゆるん　大僧正覚雅

月 秋下
さいこゝろ水にしら波のうへ川の秋なるうへ
水をえてき　前中納言定家

新拾 春
春中よりしてゝ〜ゝ川ゝくるり波
春や隠けり　亭子院製

月 雜中
ゝとそのゝ田の庵の孫はあにしゝ
春とそうれ　法眼俊業

新続古 雜中
時ゝ之羽風りみ月て吹ゝとゝるゝに
春かゝ山なわ　二条院讃岐

風 夏
うとゝゝゝ青葉れ心の初ゝ月ゝゝ
春ゝ色水わ　権大納言公宗

月 夏
ゝもゝてしゝゝゝ孫はゝゝのゝ
春のはゝさふ　摩訶院拾遺

新続古 巻三
これ世ゝて月ゝゝゝれ
春のゆゝれ　大納言為家

風 雜中
大井川ゝゝゝ橋ゝ人ゝ
春のゆゝれ　前中納言為氏

月 雜中
やまゝやゝ川ゝ水ゝにゝゝて男ゝゝ
春のゆゝれ　英仙玉芝氏

月 雜中
ゝゝゝ心ゝ名ゝ月ゝ新ゝて水ゝゝて
春ゝ山ゝ波ゝ　俊成院

月 雜中
おゝ月ゝ世ゝ心ゝ恋ゝ風ゝゝゝゝ
春ゝ山ゝ波ゝ　英仙玉芝氏

月 秋下
吹ゝ人ゝ世ゝ月ゝゝ新ゝ月ゝゝ
春ゝ山ゝ波ゝ　隆祥

月 雜中
雲ゝゝゝ世心水ゝゝゝ水ゝゝゝ
春ゝ山ゝ波ゝ　大上天皇

月 夏
水ゝゝ風ゝすゝゝ世ゝ
春ゝ山ゝ波ゝ　英仙玉芝氏

新拾 冬
落ゝゝゝ新ゝ人ゝ世ゝ水ゝ
春ゝ山ゝ波ゝ　貫之

新拾 夏
ゝゝ流ゝゝ世ゝゝゝ人ゝ水ゝゝ
春ゝ山ゝ波ゝ　英仙玉芝氏

風 雜
ゝゝ孫ゝ山ゝゝゝゝ今ゝゝゝゝ
春ゝ山ゝ波ゝ　左京行朝

新拾 羇
世西ゝゝゝ山ゝゝゝゝ春ゝゝ行
春ゝ山ゝ波ゝ　上総道忠

風 冬
春後ゝゝ入ゝゝゝ春ゝ新ゝゝ
春ゝ山ゝ波ゝ　権中納言通相

新拾 秋上
ゝゝゝゝゝ春ゝゝゝゝ
春ゝ山ゝ波ゝ　平貞家

風 雜中
春後ゝゝゝゝ春ゝゝゝゝ
春ゝ山ゝ波ゝ　出羽入道前大納言

新拾
冬
こゝろにもとゝむるけしきにいたらぬにあはれ　あひしりがほ　後二位行忠

風
巡二
うすきまの花のもとゝはあやまたぬあはれ　あむらんてのは　永福門院

新千
巡二
今いくとしかやはるのこゝろ海のなごりのよるたに　あむらんてのは　藤原門院

新續古
巡二
月はなれわ逢ぬて消せぬ露のさてなきたまし　あしんてのは　清信公

風
尺
はまもらしをうくるもてしもいまの世まてに　あせとそとよ　京極為兼

月
春中
あるてりきけるあうら梅花ことをとこうを　あせしうらはは　母うえ

新續古
霧
行末もるしかうれもるこれもこのををのいたくを　あとをまあ　日照法師

風
冬
池のををれ松のとをとをにはる雪ハソリ人落しを　あとをはんも　後鳥羽院

新續古
巡二
ふれとあなたをまてい苔ゝしよ人のこゝろを　あとをうをなを　後深院前内大臣

風
雜下
おとゝろ花の蔭ゝしてゝ又ゝうまゝの　あとををんうを　藤原為相女

月
巡五
かゝゝへてあゝとまゝ命にゝゝかむとうをなを　あとををうれを　藤原為雅卒

八百八十四首